



JICA 中国 平成 26 年度

ベトナム教師海外研修

参加型で学ぶ 国際理解教育授業実践報告書



目 次

■ はじめに	2
■ JICA 中国教師海外研修とは?	3
■ 研修のながれ	4
■ 海外研修日程	5
■ 海外研修トピックス	6
■ ベトナム情報	9
■ 参加型手法を取り入れた授業実践報告	15

日本から世界に目を向けよう ～世界中がともだち～	古川 英理 広島県福山市立伊勢丘小学校	全科
アジアの民族音楽を聴こう	水門美穂子 岡山大学教育学部附属小学校	音楽
目を向けよう世界の国々へ～みんなちがって みんないい! 世界の文化を学ぼう～	丸山登世子 山口県宇部市立上宇部小学校	全科
日本からベトナム、そして世界へ	藤原 沙樹 島根県安来市立比田小学校	全科
命をつなぐ食	澤田 孝志 鳥取県岩美郡岩美町立岩美北小学校	全科
ベトナム行ってみたらこんなトコだった	福田 充真 広島県呉市立昭和東小学校	全科
国際理解学習(国際協力・平和)	宗本 千鶴 広島県広島市立翠町学校(中学校)	英語
ベトナム・カイゼン・プロジェクト	笹田 麻実 広島県立府中高等学校	国語



はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）では、開発途上国への技術協力や資金協力などに加え、「国際協力を日本の文化に」することを目指し、市民の皆様に参加していただける国際協力事業を推進しています。その一環として、市民の皆様が世界の現状や問題について「知り」、「考え」、「行動する」ためのきっかけづくりとして、開発途上国における長年の事業で培った経験と人材を通じた国際理解教育（開発教育）支援にも積極的に取り組んでいます。

「教師海外研修」は全国の小・中・高等学校・特別支援学校において開発教育や国際理解教育に取り組んでおられる、または開発途上国の抱える問題に関心をお持ちで、これから国際理解教育に取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施しています。参加される教員の方々には、開発途上国の社会の実情や文化や慣習などを肌で感じ、JICA が実施する国際協力の現場視察を通じて途上国のみならず世界の問題や日本と世界の国々の関わりを理解していただき、その学びを日本で待つ子どもたちに国際理解教育として伝えていただくことを目的として実施しています。

今年度参加教員の方々は、日本における2日間の派遣前研修を経て、ベトナムで8月上旬より約1週間の研修に参加され、2日間の帰国後国内研修の後、各学校で授業実践に取り組まれました。今般、その授業実践を冊子として取りまとめました。

この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方の参考となり、総合的な学習や外国語活動をはじめとする学校教育現場の実践の一助になれば幸いです。

2015年3月

独立行政法人国際協力機構

中国国際センター所長 大田 孝治

JICA 中国教師海外研修とは？

研修のねらい

本研修は、教員の皆様を対象に国内の研修と国際協力の現場を視察する海外研修を通し、開発途上国の現状や途上国と日本との関係、国際協力への理解を深め、その成果を教育現場で児童・生徒に還元していただくことを目的に実施しています。

研修国および募集人数

研修国：ベトナム 募集人数：8名

選考

書類選考後、面談を実施し、参加者を決定します。

応募条件

- ・中国5県の国公立・私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援校に勤める教員及び教育委員会の指導主事（臨時採用、講師も可）
- ・教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される研修を含め全研修に参加可能であること
- ・原則、2014年4月1日現在、おおむね45歳以下であること
- ・所属する学校の学校長、もしくは教頭の推薦が得られること
- ・原則、本研修やJICA ボランティア、JICA 専門家、ODA モニター等、ODA 事業として海外に派遣された経験がないこと

※経験がある場合の応募を妨げるものではないが、選考の際には適正及び他の応募者との公平性の面から判断します

- ・将来、JICA が実施する開発教育支援事業やイベントにご協力いただけること
- ・本事業に関連して撮影された写真及び事業の結果、作成された著作物について JICA が広報目的で使用するについて承諾すること

海外研修について

8月18日（月）～8月23日（土）

※出発前日の8月17日（日）に関西エアポートワシントンホテルで出発前オリエンテーションを実施

国内研修について

- ① 派遣前研修＜必須＞ 6月28日（土）～6月29日（日）会場：JICA 中国（東広島市）
- ② 派遣後研修＜必須＞ 9月6日（土）～9月7日（日）会場：JICA 中国（東広島市）
- ③ 第2回国際理解教育研修会＜任意＞ 10月25日（土）会場：鳥取市高齢者福祉センター（鳥取市）
- ④ 第3回国際理解教育研修会＜任意＞ 2015年1月31日（土）会場：JICA 中国（東広島市）

※参加者の中から、第3回国際理解教育研修会での講師をお願いします。

報告書の提出＜必須＞

- | | |
|-----------|------------------|
| ① 出発前報告書 | 7月31日（木）必着 |
| ② 現地研修報告書 | 9月6日（土）派遣後研修時に持参 |
| ③ 最終報告書 | 2015年1月13日（火）必着 |

お問合せ

JICA 中国国際センター 市民参加協力課 教師海外研修担当

【後援】 外務省、文部科学省、広島県教育委員会、広島市教育委員会、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会

研修のながれ

■派遣前研修 6月28日(土) 会場：JICA 中国(東広島市内)

「ベトナム研修について」

- ・ベトナム国事情、研修内容についてオリエンテーション
- ・渡航事務手続き

「国際理解教育、授業実践について」

ベトナムの研修を通して子どもたちに伝えたいことは何か、現地に行く前に情報を整理しました。
また、帰国後の授業実践を見据えて参加型学習の様々な手法を学びました。

講師：正岡 喜美氏(前年度ベトナム教師海外研修参加者/島根県安来市立母里小学校教員)

■第1回 国際理解教育研修会 6月29日(日) 会場：JICA 中国(東広島市内)

「グローバル人材になる?!今あらためて“グローバル”について考える」

ワークショップ「東京五輪2020」、「学校現場でグローバル人材を育成するために必要なこと」

講師：林原 慎氏(福山平成大学 福祉健康学部こども学科 教授)

青年海外協力隊体験談「カンボジアにおける学校現場でのボランティア活動」

講師：田中 涼子氏(青年海外協力隊現職教員参加制度利用/現：広島県内小学校教員)

■出発前オリエンテーション 8月17日(日) 会場：関西エアポートワシントンホテル

出発前に研修の目的とそれぞれの視点について再度確認しました。

■海外現地研修 8月18日(月)～8月23日(土)

研修国の現状を自分の目で見て体験し、国際協力現場で活躍する日本人の生の声を聞きました。

■派遣後研修 9月6日(土)～7日(日) 会場：JICA 中国(東広島市)

国際理解教育における参加型・体験型学習について復習すると共に、海外研修で得られた資料や情報をいかに子どもたちに伝えるか、授業に還元するか学び、大まかな授業案を作成しました。

■各校で授業実践 9月～12月

研修で得た経験や資料を活かし、参加者が各学校で授業を行いました。

■第2回 国際理解教育研修会 10月25日(土) 会場：鳥取市高齢者福祉センター(鳥取市内)

映画上映会「オフサイド・ガールズ」

ワークショップ『違いを認め合い、異文化を楽しもう』

アクティビティ①「私の食事、マナーについて」アクティビティ②「日本の常識＝世界の常識？」

青年海外協力隊体験談【モロッコ】

講師：浅野由嘉 鳥取県 JICA デスク

■第3回 国際理解教育研修会 1月31日(土) 会場：JICA 中国(東広島市内)

「海外経験を帰って伝えるための教材作りのコツ」

今年度教師海外研修参加者の中から2名、授業実践の成果を発表していただきました。



海外研修日程

日 付	プログラム	滞在先
8月17日(日)	【出発前オリエンテーション】(関西エアポートワシントンホテル)	大阪
8月18日(月)	✈ [10:30] 関西空港からベトナム・ハノイへ 【JICA ベトナム事務所にてオリエンテーション】 ✍ ベトナム国概要、JICA の対ベトナム援助概要、青年海外協力隊活動概要 ✍ 健康・安全対策について	ハノイ
8月19日(火)	【技術プロジェクト視察】 ☞ 麻疹風疹混合ワクチン製造技術移転プロジェクト 【技術プロジェクト視察】 ☞ 人身取引対策ホットラインにかかる体制整備プロジェクト	ハノイ
8月20日(水)	【現地学校視察・交流】 ☺ Ngoc Khanh (ゴックカイン) 小学校 交流児童 20 名 ☺ 昼食交流会 (現地校先生方との意見交換) ✈ 国内線にてホーチミンへ	ハノイ ホーチミン
8月21日(木)	【視察・意見交換】 ティエンザン省インクルーシブ教育開発センター ■ 青年海外協力隊員 (理学療法士) 活動現場視察 昼食 (青年海外協力隊員との意見交換会) 【視察】 ■ 戦争証跡博物館 (ベトナム戦争と平和について)	ホーチミン
8月22日(金)	【円借款・技術プロジェクト視察】 ☞ ホーチミン下水処理場視察 ☞ ホーチミンインフラ (東西ハイウェイ) 視察 【日系企業視察】 ☞ イオンモール見学 【海外投融資視察】 ☞ エスハイスクール視察 ■ 帰国報告会 ✈ [深夜] ホーチミン出発、日本へ	ホーチミン
8月23日(土)	関西空港着	

ベトナム社会主義共和国 (Socialist Republic of Viet Nam) 基本情報

2014 年 12 月現在

面 積	32 万 9, 241 平方キロメートル
人 口	約 9,170 万人 (2013 年時点、国連人口計画推計)
首 都	ハノイ
民 族	キン族 (越人) 約 86%、他に 53 の少数民族
言 語	ベトナム語
宗 教	仏教、カトリック、カオダイ教 他
通 貨	ドン (Dong) 1 ドル = 21,348.47 ドン (2014 年 11 月) exchange-rates (http://ja.exchange-rates.org/converter/USD/VND/1/Y)



外務省ホームページ各国地域情勢より <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html>

海外研修トピックス

【技術プロジェクト視察】麻疹風疹混合ワクチン製造技術移転プロジェクト

ベトナムでは、これまで自国で麻疹や風疹のワクチンを製造する技術がなかったため、ワクチンは輸入に頼っていました。このため、ワクチンのコストが高く、必要な時に必要な量が手に入らないなどの問題がありました。この問題に対応するために、ワクチン製造の技術移転プロジェクトが実施されています。

参加者の皆さんからは、これまで詳しく知ることがなかったワクチンの製造方法に驚きの声が上がると共に、その技術を如何にベトナムの人々に伝え、根付かせるのか、その工夫に「モチベーション UP のための方法は学校教育の中でも活用できるのではないか」という意見も聞かれました。

＜参加者感想＞

「予防医学という分野の大切さを知った」、「成果がすぐに出ない、成果が見えづらいことに対しても支援を続ける大切さを感じた」



【技術プロジェクト視察】人身取引対策ホットラインにかかる体制整備プロジェクト

人身取引という普段聞くことのない言葉に参加者一同、衝撃を受けながらも24時間体制で人身取引の相談ホットラインを運営しているスタッフの説明に真剣に耳を傾けていました。

＜参加者感想＞

「国籍を超えて命を守るために精一杯働いている人がいることを伝えたい」、「自分の命が誰かに守られていること、それを通して自分を大切にすることをもっと伝えていきたい」



【現地学校視察・交流】Ngoc Khanh（ゴックカイン）小学校 交流

交流は、日本側から学校の様子をまとめた映像を流し、学校の様子を知ってもらうことから始まりました。

ベトナムの子供たちからは、日本語で（！）挨拶をしていただきました。彼らは、自宅でインターネットを使って日本語の発音を調べて練習してくれていたということで、思いがけないおもてなしに参加者一同非常に感動しました。その後、ベトナム人教員の皆さんと昼食をとりながらの意見交換会を実施しました。ベトナム側からは、「日本では、教員の指導力向上のためにどういうことをしているのか」、「クラス内での理解度（学力）の格差にどう対処しているのか」など沢山質問をいただきました。

ベトナムと日本の先生、お互い共通の悩みもあり、会は大いに盛り上がりました。

参加者による振り返りの時間では、「子どもたちの『知りたい』という意欲に触れ、改めて教員になってよかったと思った」、「時間が足りず、すべての子供の発表をじっくり聞けなかったのが残念だ」という感想が出ました。



【青年海外協力隊活動現場視察】ティエンザン省インクルーシブ教育開発センター

メコンデルタの緑豊かな農村地帯の障がい児インクルーシブ教育開発センターで理学療法士として活動している T 隊員の活動を見学しました。このセンターでは、脳性マヒや聴覚障害など様々な障害を持った子ども 108 人を受け入れているものの、受け入れ体制や障がい児の家族がセンターに送迎しなければいけないことから、1 人の子供がこのセンターに毎日通えるわけではありません。そのため、家族も一緒にケアの方法を学び、家でも実践できるよう指導しています。現在活動中の T 隊員は手に入る素材を工夫して活用し、活動に役立てています。

〈参加者感想〉

「機材があることは必要だけど、機材だけが大切なのではなく、工夫することでいろんなことができるということが見て取れた」、「街の様子など、まだまだ障がい者に配慮したまちづくりはこれからの課題なのだと思う」など様々な感想や意見が出されました。

【円借款・技術プロジェクト視察】ホーチミン下水処理場視察

ホーチミン市の下水道分野の運営や維持管理体制の改善のための技術支援を目的としたプロジェクトを視察しました。

〈参加者感想〉

ホーチミン下水処理場には、良い施設があるだけでなく、ベトナム側も頑張って管理しているので、良い状態がまもられていることが分かった。改めて、ベトナム側の強い意志の上に、ODA 事業は成り立つのだと実感することができた。



【海外投融資視察】エスハイスクール視察

技能実習生・技術者に対する派遣前の日本語および職業訓練の取組みについて視察しました。

〈参加者感想〉

エスハイスクールの生徒の「謙遜（の気持ちを大切にする精神）」は衝撃だった。日本人の習慣や文化を改めて考え直す機会になった。彼らが日本に来て、がっかりしないような社会を作っていかなければ、と思った。



現地研修を終えて

・「熱を抱いて世界へ飛び出せ」

帰国直前、空港での写真撮影のとき、一言としてこのように書いた。ベトナムから、ベトナム人から、ベトナムで働く日本人から、「熱」を感じた5日間だった。この「熱」を生徒に伝え、共有し、新たな「熱」を生み出していきたい。

・今回の研修で、「百聞は一見にしかず」ということわざの意味を実感しました。実際に JICA が行っているプロジェクトや現場を視察することで、ベトナムの人の熱意や笑顔、ベトナムで働いている日本人の熱い思いを肌で感じることができました。

参加型手法を取り入れた

授業実践例

教員および生徒の原文をそのまま掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

ベトナムの小学生へのアンケート【抜粋】

現地で交流をしたベトナムの小学 5 年生 20 人にアンケートをお願いしました。
(アンケートの質問は、参加者所属校の児童・生徒が考えたものです)

★ 一番大切なものは何ですか？理由は？

■家族が大切（15 人）

理由

- ・大好きな人々がいて、嬉しいときも悲しいときもそんな気持ちを共有してくれるからです。
- ・家族そろって食事をすることは何より大切です。
- ・人間の道理を教えてくれて自分を愛してくれる人々だからです。
- ・家族は頑張る原動力です。育ててくれ、嬉しいときさびしいとき気持ちを共有してくれるからです。
- ・なんでも手に入り、出来たとしても、家族がいなくなるとは悲しく意味のないことです。

■勉強が大切（2 人）

理由

- ・勉強しないと良い人にならないし、国の役に立つ人間にならないからです。
- ・良い人になって、将来役立つ人間になるためには勉強しかないからです。

■健康が大切（2 人）

■国家が大切（1 人）

理由

- ・国家がちゃんとしていれば、平安な生活ができるからです。

★ 幸せだなと思うときは、どんな時ですか？理由は？

■家族の皆が元気である（6 名）

理由

- ・家族の皆が嬉しいと自分も嬉しいです。皆が元気であると嬉しいです。
- ・誰かが病気になると寂しいからです。

■ほかの人を手伝ったとき／ほかの人のために良いことをしたとき（4 名）

理由

- ・小さなことでも手伝ってもらった人が喜んでくれると自分もうれしいです。
- ・ほかの人を手伝うことは自分を手伝うことと同じだからです。

■良い点数をとったとき（3 名）

■家族と一緒にいるとき（3 名）

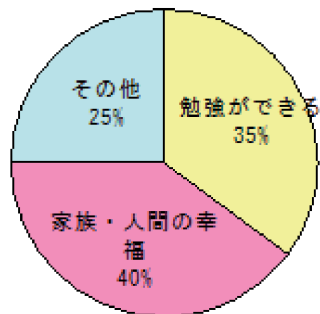
理由

- ・みんな笑い声が好きです。家族と一緒にいるとき、みんなは自分のそれぞれの嬉しい話をして笑いあっています。

■家族と遊びに行くとき（2 名）

■家族と一緒にいるときです。ほかの人を手伝うとき（1 人）

■家族そろって食事するとき（1 人）



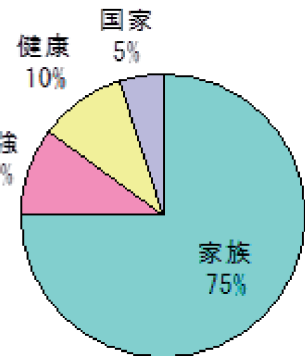
★ 今一番ほしいものは何ですか？

主な回答は、①勉強がよくできること②家族・人間の幸福③その他です。

■勉強がよくできること（7名）

理由

- 出来たら、自分も両親も嬉しいです。
- 小学校5年の勉強が良くでき、良い中学校に進学できることです。勉強
- よく勉強して、将来日本または韓国に留学できることです。



■家族／人間の幸福（8人）

理由

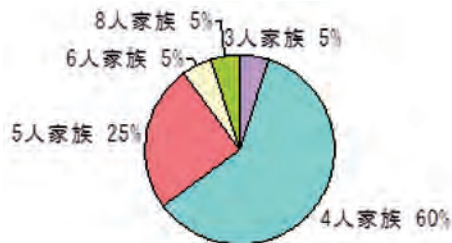
- 世界の永遠な平和・独立・自由・幸福です。
- 皆が元気で、家族は幸せで、貧乏な人がいないことです。
- 家族の皆は喧嘩しないで幸せで一緒にいることです。

■その他（5人）

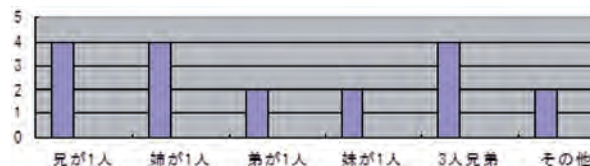
理由

- 家族、両親は一生そばにいます。
- 早く大きくなってベトナムを発展させ、他国に劣らないように貢献することです。
- 人が困るときにお互いに手伝い合うことです。

★ 何人家族ですか？



★ 兄弟はいますか？



★ 家の手伝いをしていますか？

していない（お手伝いさんがいるから）：1名／している：19名

どんなことを手伝いますか？

- 料理や配膳、家の掃除、食器洗い、服をたたむことなど。
- 食器洗いや妹／弟の子守をする。
- お母さんの料理を手伝っています。またお祖父さん、お婆さんの薬を買いに行きます。

★ 学校は好きですか？

全員（20 人）が「好き」だと答えました。

★ 好きな教科を教えてください。

その他:数学 + 国語（1 名）、音楽 + 美術（1 名）、歴史 + 科学（1 名）、美術 + 英語（1 名）、美術 + 国語（1 名）

★ 宿題はありますか？あるならどんな内容なのか教えてください

全員（20 人）が「ある」と答えました。

主な内容は、予習や字を書く練習、読む練習が多いです。他に、資料集めもあります。

★ 日本と言えば〇〇、日本に対するイメージは？

主なイメージは下記の 3 つです。

・綺麗な国・先進国である。・日本人は団結力が強く、真面目である。・名所・食事（富士山・桜・着物・お寿司）

回答

- ・日本は景色が綺麗で先進国です。また、日本人は真面目です。
- ・寿司などの色々な食べ物があります。伝統的な服の着物です。
- ・日本は強い国で日本人は団結力が強いです。

ベトナムで働く日本の方へのアンケート【抜粋】

ベトナムで働く日本人 11 人と日本人と働くベトナム人 1 名に、「働くこと」についてのアンケートをお願いしました！
(アンケートの質問は、参加者所属校の児童・生徒が考えたものです)

1. ベトナムで働いていて、やりがいを感じることはなんですか？

- 日本とそんなに変わりませんが、この環境でできることややるべきことに一生懸命に取り組むことです。
- 我々が一緒に仕事をしているベトナム人は、多くが日本での研修経験があり日本人の考え方を理解していて能力も高く、話をすれば分かりあえるので大きな問題が起きた経験はありません。
- 日本との関係が深く、物事が前向きに動いていることに関与できる楽しみがある。
- 双方の国の人々の役に立つ事業の手伝いをできるところがやりがいです。

2. 海外（ベトナム等）で働くことで自分の力になったと思うことは何ですか？

- 日本とは違う環境だけれど、ここでできることを考えたり、日本ではできないことにチャレンジしたりする経験はよかったと思います。
- 仕事の仕方や方法の幅が広がりました。また、ものの見方や考え方が柔軟になりました。コミュニケーションを積極的にとったり、あいさつを大切にしたりすることの必要性を再認識しました。
- 海外では個人の能力で評価されることが多いので、常に自身の能力向上に努力するようになったことではないでしょうか。
- 海外で働くことについて、一番大事なのはやはり語学能力だと思いますが、他国の人のことも理解できることも大切です。(仕事のやり方、考え方、商習慣、風習等わかって、思いやりをもつ)
- あきらめずに交渉することが非常に重要である。日本人は一般的にあっさりしすぎているとも感じる。
- 日本のことを日本にいるときよりも学ぶ必要があります。日本の優れたところや過去の経験を知ることが開発途上国にとって非常に役に立ちますので、それをうまく伝える能力が求められます。
- 今までにも異なる国の異なる機関で働いてきましたが、今回のように政府組織内で仕事をするのは初めてでしたし、これまでの国とも政治体制が異なる国での業務ですので、また新しい状況への対応をさらに学ぶことができたと思います。
- 寛容さ、異文化への適応能力が身に付いたと思います。
- 英語能力が向上した。アジアの現状を体感できた。想いを伝える事の難しさを学んだ。
- 日本だったら受け入れられないと思うことでも、外国だと思えばとりあえずおもしろい。

3. 海外（ベトナム等）で働くことで以前の自分と変わったなと思うことはありますか？

- 日本の中での情報を、自分から得ようとしないと見逃してしまっているかなと思います。
- 日本の国と日本人を客観的に見られるようになったことと、語学(英語)を一生懸命勉強したことと思います。
- 自分の視野、考え方、独立性等が変わったと思います。自分が失ってしまったのは、母国での関係(友達、親戚等)だと思います。もちろん海外で暮らせば、知人や同僚や友達等ができるかもしれませんが。
- 国籍や分野、言語の違う様々な人と交流することに抵抗がなくなった。失くしてしまったと思うのは、日本の四季・風土からくる日本人の持つ繊細な感覚が減ってきたようにも感じる。
- ベトナムでは英語を使う機会が余りありません。英語力が落ちてきた実感があります。
- 異なる環境・状況に対応するための自分のカードが増えたように思います。
- 海外で働くとはプニングに遭遇することが多いので、柔軟性が身に付き、また、めったなことで怒らなくなったと思います。海外にいと、日本の家族や友人に頻繁に会えないことが寂しいです。
- 何事にも時間を要するので忍耐強くなった面もあるが、あきらめる事も早くなった。
- こだわりをあまり持たなくなった。

4. 海外で働くのに必要なことは何ですか？グローバル人材とはどういう人だと思いますか？

- 相手を理解する力と、自分の考えを伝える力。言語力も必要かと思いますが、それ以上に、理解しようとする気持ちや振る舞いや、自分の思いをしっかり持つことが必要なのかなと思います。
- その場に適応できる柔軟性と家族や友人がいない孤独を楽しめることだと思います。
グローバル人材とは、決して“海外で通用するか”的なことではなく、日本の地方であっても、人種、職種、世代、年代という枠にとらわれず、コミュニケーションをとることができ、互いを認め合い、高めあえる人のことではないでしょうか。
- グローバル人材というのは世界のどこでも自分の才能を発揮できる人のことだと思います。
- 物事の背景を理解できる想像力、相手を知り、また自分の事を伝えられる教養、また、物事を変革し、動かすことのできる実行力は必要なスキルだと感じる。
- どんな環境でも周囲の人たちとコミュニケーションできて、自分の役割を果たすことができる人材
- 語学も必要ですが、語学は道具であって、内容が重要です。政治経済を始め、広い視野と関心を持つ必要があると思います。それから、異なる考え、基準があることを理解することも大切だと思います。自分の思い込みで判断するのではなく、相手の立場や状況を考慮して共通点・相違点を「理解」することができる人かと思います。
- 日本でもどこで働いても同じことで、生活空間であればきちんとした人間であること、職場であればきちんとした社会人であることが重要（＝グローバル人材）であると思います。
- チャレンジ精神と社交性。失敗しても次で挽回しようと思えるようなポジティブ思考でないと長期海外生活すらできないと思う。
- 自国の文化を大切に、そして相手の文化を認めることだと思う。違って当たり前で、おかしいことではないと認識すること。ただし、仕事上では、時にその違いを乗り越えることも必要で、その部分については、真摯に丁寧に議論ができる関係を形成できることだと思う。

5. 社会人になる前に、高校生のうちにしておいたほうがよいことは何でしょうか？

- 自分の国、地域、学校のよさを知っておくこと。身の回りのことがひととおりできること。（料理、洗濯、繕い、掃除、整理整頓など）そして、本分である勉強。
- 政治、経済ニュースを良く見るようにして頂きたい。そして、肯定か否定か自分自身の考え方を頭で整理し、他の人に簡潔に説明する訓練をして頂ければと思います。
中学、高校で勉強する英語を理解すれば、コミュニケーションは可能ですので、少しでも早く一度海外に出て異文化を経験し、外国の人と話す機会を体験して頂ければと思います。
- どのような人生にしたいのか、早く決めることは大事だと思います（自分ではできなかったが…苦笑）そして、習慣は小さな習慣でも、人生に大きな影響を与えるので悪い習慣を取って、良い習慣を身に着けること。
- 社会人に接する機会をもっと増やすべきだと思う。また、ディスカッションやディベートをつかった教育を多用すべきと思う。
- コミュニケーション力（人との関わり方）。SNS などではなく、人と人との直接的なやり取りやつながりを重視できる様になってほしい。

参加型手法を取り入れた

授業実践例

小学校編

教員および生徒の原文をそのまま掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

日本から世界に目を向けよう～世界中がともだち～

福山市立伊勢丘小学校 担当教科：全教科

古川 英理

実践教科：教科等外・学活・音楽 対象学年：小学1年生 対象人数：33名（1年1組）・100名（1学年全体）

■実践の目的

- ベトナムの輸出品（海老）を通して、児童にベトナムと広島をつながりを伝える。
→お好み焼きに入っている海老（輸入率51.2%）の21.2%はベトナムから輸入していることを伝える。
- ベトナムクイズを通して、児童にベトナムの文化などを伝える。
- ベトナムの食材や町の様子から、児童に国が違っていると違うものもあるが、同じものもあることを伝える。
- ベトナムの町の標識の意味を考え、児童に言葉が分からなくても理解できるものがあることを伝える。
- ベトナムの町の標識の学習を通して、クラスのルールを学ぶ。
- ベトナムでの挨拶の言い方を知り、児童に世界の国の言葉で挨拶をすることの楽しさを伝える。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	○ベトナムという日本とは違う国があることについて知る ・ベトナムの文化について知り、興味や関心をもつ	【1学年全体を対象】 (1) ベトナムと広島をつながりを知る（お好み焼きの材料を使用する） (2) ベトナムクイズを行う (3) ベトナムの文化を体験する（おもちゃ、食べ物、マスク、バイクの写真など） (4) 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ	・パワーポイント① ・ベトナムの品物 ・振り返りシート①
2	○ベトナムと日本の国を比べる ・国が違っていると、違うところもあるが、同じところもたくさんあることに気づく	【1年1組を対象】 (1) ベトナムの町の様子やベトナムの人の生活の中から日本と同じ所、違う所を見つける (2) レスカの学びカードで、ベトナムの小学生と日本の小学生の学校生活の様子を比べる (3) 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ	・パワーポイント② ・レスカの学びカード（ベトナム版） ・振り返りシート②
3	○世界の国の標識が、何を伝えようとしているのかを考える ・言葉が分からなくても伝わるものがあることに気づく	【1年1組を対象】 (1) ベトナムの標識を見て、標識が何の意味を表しているのかを考える 標識のイラストだけでなく、色や形にも注目して考える (2) 世界のいろいろな国の標識をみて、標識が何の意味を表しているのかを考える (3) 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ	・標識の写真 ・振り返りシート③
4 5	○クラスのルールを学ぶ ・みんなに伝えたいルールの標識を考え、言葉を使わなくても伝わるように作る	【1年1組を対象】 (1) 身の回りには、どのような標識があるのかを確認する (2) どのようなイラスト（色や形）にしたら伝えることができるのかを、前時に学習した標識を基に考える (3) 他のクラスの児童に伝えたい教室や学校のルールを考え、標識の構想を練る（グループ学習） (4) 考えた構想を基に、教室のルールの標識を作成する（グループ学習） (5) 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ	・標識の写真 ・標識を書くシート ・振り返りシート④⑤

6	○世界の国の挨拶を知る ・言葉を使わないと伝わらないものがあることに気づき、自分からも進んで言葉にして伝えようとする意欲をもつ	【1 学年全体を対象】 (1) 1 年 1 組の児童が作った標識を他のクラスの児童にクイズ形式で伝える (2) 言葉を使わないと伝わらないものについて考える (3) 世界の国の挨拶（日本、ベトナム、フランス、ケニア、ドイツ、アメリカ、中国、韓国）を知る (4) 挨拶の時の表情について考える (5) 世界の国の挨拶を笑顔で言う (6) 音楽発表会で歌う歌「世界中がともだち」を練習する (7) 本時の振り返りを行い、音楽発表会への見通しをもつ	・児童が作った標識 ・世界の国の国旗（掲示物） ・世界の国の挨拶（掲示物） ・振り返りシート⑥
7	○音楽発表会で歌の発表をする ・学んだことを表現する場として、世界の国の挨拶の歌を笑顔で歌い、聞いている人に気持ちを届ける	【1 学年全体を対象】 ・「世界中がともだち」を笑顔で歌う ・世界の国の楽器を取り入れて、代表児童が演奏する ・世界の国の挨拶（日本、ベトナム、フランス、ケニア、ドイツ、アメリカ、中国、韓国）の所では、その国の国旗を代表児童が提示する	・世界の国旗 ・世界の楽器 ・振り返りシート⑦

■この授業に注目！

1 時間目

○ベトナムという日本とは違う国があることについて知る。

ねらい：ベトナムの文化について知り、興味や関心をもつ。

〈本時の流れ〉

1 時間目の授業の導入として、まず、身近な食べ物のお好み焼きの材料をあげさせ、多くの材料が海外から輸入されていることを話した。そして、材料の一つである「えび」（輸入率 45.1％）は、21.2％がベトナムから輸入されていることを話し、ベトナムと広島のつながりを子どもに感じさせた。

その後、ベトナムの国について興味・関心が深まるように、ベトナムクイズを行った。1 年生の児童の興味が継続するように、ベトナム研修の内容を旅行記のような形にしながら合間にクイズを挟んだ。

【ベトナムクイズの内容】

- ①ベトナムには、どうやって行ったのか。
- ②日本のお金はベトナムでも使うことができるか。
- ③ベトナムのお金の単位は何か。
- ④ベトナムにたくさんある乗り物は何か。
- ⑤ベトナムの人がバイクで運ぶものは何か。
- ⑥ベトナムの民族衣装「アオザイ」はどういう意味なのか。
- ⑦ベトナムの人が食べないお肉は何か。
- ⑧ベトナムにある特別な日は何か。
- ⑨ベトナム語で挨拶をするとき、何と言うか。
- ⑩ベトナムの国旗は何か。

①のクイズの前に、ベトナムと日本の位置関係を教えた。自分たちが住んでいる広島県の位置も十分には分かっていない段階であったが、日本が海に囲まれており、海外に行くには海を渡らなければいけないことを、知っている児童もいた。④のクイズの時には、たくさんのバイクが信号待ちをしている場面の写真だけでなく、2 人乗り、3 人乗り、そして 4 人乗りしている場面の写真も紹介した。その後、⑤のクイズの時には、豚や犬、ロバ、風船、自転車を運んでいるバイクを紹介した。

⑨、⑩のクイズの時には、6時間目の授業内容である世界の国のあいさつにつなげるため、⑨の時には、中国やフランス、韓国の挨拶を、⑩の時にはアメリカや日本の国旗を回答の選択肢に入れた。最後に、ベトナムのおもちゃ、食べ物、マスク、バイクの写真などでベトナムの文化を体験した。

〈児童の反応〉

○町の様子

- ・バイクが町にいっぱいあったからびっくりしました。
- ・バイクにいろんなものを乗せることができて、ベトナムの人はすごいと思いました。
- ・動物をバイクで運んでいたから、びっくりしました。

○食べ物

- ・ベトナムのおやつで日本と似ているものがあったからびっくりしました。
- ・かえるを食べることがびっくりしました。

○服装

- ・ふく（アオザイ）がきれいでした。

○勉強

- ・算数の教科書を、自分たちの教科書と比べて見たけど、違うところがたくさんありました。

○お金

- ・日本のお金がどこでも使えないことがびっくりしました。

○授業の感想

- ・もっとベトナムのことが知りたいです。
- ・クイズでベトナムのことが知れて、うれしかったです。

〈所 感〉

1年生にとって、難しすぎず、優しすぎない問題や選択肢を作ることに試行錯誤したが、そのクイズを通して、児童が興味・関心をもち、結果的にベトナムの文化を知ることができた。しかし、クイズにしたため正解数にこだわりすぎてしまう児童もいた。正解の数ではなく、「どのクイズが難しかった?」「どのクイズが楽しかった?」という、視点を与えておく必要があった。

振り返りカードから、街中を走るバイクの多さに驚きを覚えた児童が多いことが分かった。自分が普段見ている光景との違いが、よほど衝撃的だったのではないだろうか。また、日本のどのお菓子に似ているかという観点でベトナムのお菓子を見た児童がいた。中でも私が一番驚いたのは、算数の教科書を比較した児童がいたことで、つくりだけでなく、絵を見ただけでは何の問題なのか分からないことを見つけていた。これらのことから、写真等のように視覚でとらえることのできるものや、実際に実物に触れることができる環境を整えることが、児童が異文化に興味をもつのに効果的であることに改めて気づかされた。

2 時間目

○ベトナムと日本の国を比べる。

ねらい：国が違っていると、違うところもあるが、同じところもたくさんあることに気づく。

〈本時の流れ〉

まずは、ベトナムの町の様子やベトナムの人の生活と比較して、日本と同じ所、違う所をみつけた。



天秤棒で果物を売る人



屋台で果物を売る人

〈児童の反応〉

児童がみつけた、ベトナムと日本の「同じところ」と「違うところ」をまとめると次の表になる。

	同じところ	違うところ
乗り物	•車やバイクが走っている。	•バイクがたくさん通っている。
服装	•服を着ている。 •くつをはいている。 •帽子をかぶっている。	•ノンラーという帽子をかぶっている。
横断歩道	•横断歩道の色は、日本と同じ白い線でひいてある。	•無い所があり、渡るのが大変そう。
信号機	•色が同じで、青色、赤色、黄色だ。	•隣に数字があり、何秒間待つかわかる仕組みになっている。
食べ方・道具	•お箸を使って、ご飯を食べている。	•お箸が長い。
町の様子	•ちょうちんがある。 •電柱がある。	•果物を路上で売っている人がいる。 •道端で食べ物を食べている人がいる。

その後、より身近な文化の相違比較をさせるために、レヌカの学びカード（ベトナム版）で、ベトナムの小学生と日本の小学生の学校生活の様子を比べた。番号順にベトナムのカードと日本のカードの内容を読み上げた。9番までそれぞれのカードをベトナムの位置と日本の位置に並べ、その後カードを裏返すように指示をした。カードを裏返すと、ベトナムカードは、ベトナムの小学校の写真に、日本のカードは、伊勢丘小学校の写真になるようにした。

最後に、ベトナムの小学校の様子の写真を見せて、カードに書いてあった内容が本当のことだということを確認した。

～ベトナムのカード～

①にんきのキャラクターは 1. ドラえもん 2. くれよんしんちゃん 3. めいたんていコナン だよ	②くつをはいたままきょうしつにはいるよ。	③たいこのおとでじゅぎょうじかんのかわりがわかるよ。
④がっこうにはばいくやじてんしゃでおくってもらうよ。	⑤そうじのじかんはないよ。	⑥むらさきいろのインクのボールペンでノートにじをかくよ。
⑦なつでもすいえないのじゅぎょうはないよ。	⑧ひるごはんをたべたあとはおひるねをするよ。	⑨たいそうふくにきがえずにたいいくをするよ。

～カードを裏返したら出来あがる写真～



ベトナムの小学校

～日本のカード～

①にんきのキャラクターは 1. ようかいウォッチ 2. アイカツ ミッキーマウス だよ。	②げたばこでくつ をぬいできょう しつにはいるよ。	③チャイムのおと でじゅぎょうじか んのおわりがわ かるよ。
④がっこうにはと うこうはんであ るいていくよ。	⑤じぶんたちでそ うじをするよ。	⑥えんぴつでノー トにじをかくよ。
⑦なつになるとす いえいのじゅぎ ょうがあるよ	⑧ひるごはんをた べたあとはきゅ うけいじかんが あるよ。	⑨たいそうふくに きがえてたいい くをするよ。

～カードを裏返したら出来あがる写真～



福山市立伊勢丘小学校

〈児童の反応〉

- 似ているところに着目
 - ・ベトナムは違う国だけど、日本と似ていると思いました。
 - ・違うところがいっぱいあったけど同じところもいっぱいあったからびっくりしました。
 - ・日本でも有名なキャラクターがベトナムで人気なのがびっくりしました。
- 違うところに着目
 - ・ベトナムは小学生になっても、お昼寝があるのでびっくりしました。
 - ・ベトナムは学校のチャイムが太鼓でびっくりしました。
 - ・ベトナムの学校では、靴をぬがないことにびっくりしました。
 - ・危ないから、バイクに乗るときはヘルメットをかぶったほうがいいよ。
 - ・ベトナムでは、学校に送り迎えしてくれるから、うらやましいと思いました。

〈所 感〉

まず生活の中で同じ所、違う所みつけを行い、その後に学校生活の中で同じ所、違う所みつけをおこなった。これは、児童の思考の流れを遠くからより身近なものへともってくるもので、その結果、日本と同じ所、違う所を楽しみながら見つけることができた。お箸を使って食べるのは一緒だが、お箸の長さが違うといった、日本にあるけどちょっと違うものを見せたとき、児童はとても驚いていた。しかし、それと同時に、違う国だけど日本と似ている所があるということが実感できた児童もいた。「国が違ふと、違うところもあるが、同じところもたくさんあることに気づく。」ということで、本時の授業のねらいは、達成できたと思う。

また、ベトナムの人の日本に対するイメージの多くが「桜が綺麗」だということを今回の研修で知り、自校や日本の素晴らしさにも気づいてほしいという思いから、桜が満開に咲いている時の伊勢丘小学校の写真を使用した。

3 時間目

- 世界の国の標識が、何を伝えようとしているのかを考える。

ねらい：言葉が分からなくても伝わるものがあることに気づく。

〈本時の流れ〉

導入として、ベトナムのトイレの写真を2枚見せた。



①



②

①の写真では、男性用、女性用がどちらか分からないが、②では、どちらのトイレを使用すればよいのか分かることに気がついた。言葉が分からなくても、絵で意味を伝えることができるということを考えていくために、世界の国の標識が何を伝えようとしているのかを考える活動を設定した。まずは、ベトナムの標識を見せて、標識が何の意味を表しているのかを考えさせた。標識の写真をアップとルーズで提示することで、標識の絵や色、形だけでなく、どのような場所にあるのかにも注目させた。標識から、青色の標識は、「～してもよい。」「～するところがある。」といった意味の「指示標識」だということ、赤色の標識は、「～したらだめ。」といった意味の「規制標識」だということに気付くことができた。

【標識の写真をアップで提示】

① 横断歩道



【標識の写真をルーズで提示】



② バイク通行禁止



③ 動物牽引車通行禁止

【動物牽引車の紹介】



次に、ベトナムではない世界の国の標識を見せて、標識が何の意味を表しているのかを考えさせた。ベトナムの標識での体験を生かし、楽しみながら考えることができていた。

④ コアラに注意



⑤ ペンギンが道路を渡るので注意 ⑥ ガムをかんだら罰金車の速度を下げてください



〈児童の反応〉

- ②→バイクが通ってはいけないところがあるのが知らなかったです。
- ②③→ベトナムの標識も外側が赤色は禁止の標識なの分かりました。
- ④→オーストラリアには、野生のコアラがたくさんいることが分かりました。
- ⑤→ニュージーランドでは、ペンギンが道路に飛び出してくるなんて、びっくりしました。
- ④⑤→コアラとペンギンの絵の標識があつてびっくりしました。
- ⑥→ガムを町で食べたらダメな国があるのが知らなかったです。
ガムを町で食べたらお金を払わないといけない国があるのにびっくりしました。
シンガポールは、とても綺麗な国っていうのが分かりました。

○感想

- ・世界の国には、いろんな標識があつておもしろかったです。

○標識について

- ・色によって、標識の意味が違ふことが分かりました。
- ・言葉が分からなくても、標識の意味が分かつて、おどろきました。

〈所 感〉

児童は標識だけでなく、標識の絵にも大変興味をもった。例えば、動物牽引車の紹介を写真で見た時に、牛に角がはえていることに驚いていた児童や、バッファローという動物に興味を抱いていた児童などがいた。児童の生活経験によって、知識に個人差があり、国際理解教育の授業では、授業を行うための前提条件に差が表れることを実感した。その個人差にどのように対応するのが今後の課題だと考えた。

また、青色の標識を1つしか用意していなかった。1つだけでは、その色はどのような意味をもつ標識なのかを決めることはできないので、複数用意する必要があることが分かった。

4・5 時間目

○クラスのルール of 標識をつくる。

ねらい：みんなに伝えたいルールの標識を考え、言葉を使わなくても伝わるように作る。

〈本時の流れ〉

まずは、どのようなルールがクラスや学校にあるのかを確認した。その中から、班でどのルールの標識を作りたいか選ばせた。

【児童が選んだルール】

- ・給食を残さずに食べよう。
- ・服装を整えよう。
- ・ロッカーからブレザーをたらさないようにしよう。
- ・字をきれいに書こう。
- ・挨拶を大きな声でしよう。
- ・廊下の右側を歩こう。
- ・授業中のおしゃべりをゼロにしよう。
- ・本棚に本をぐちゃぐちゃにおかない。

その後、どの色や形にするのか、どのようなイラストにしたらルールが伝わるかといった標識の構想を考えさせた。

標識を作りながら、「給食を残さずに食べよう。」よりは、「給食を残したらだめ。」といった意味の規制標識にしたほうが、ルールが見た人により伝わるのではないかと考え、赤色の標識にしていた。その他に、赤色標識で作ったルールは以下の通りである。

- ・ロッカーからブレザーをたらさないようにしよう→ロッカーからブレザーをたらしたらだめ
- ・ノートに字をきれいに書こう→ノートに字をきたなく書いたらだめ
- ・廊下の右側を歩こう→廊下の左側を歩いたらだめ
- ・授業中のおしゃべりをゼロにしよう→授業中におしゃべりをしたらだめ
- ・本棚に本をぐちゃぐちゃにおかない

また、黄色標識でつくったルールは、「服装を整えよう」と「挨拶を大きな声でしよう」の2点である。

【完成した標識】



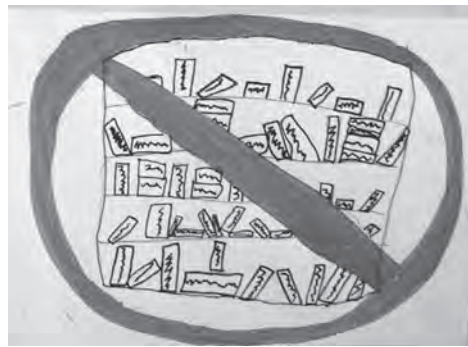
(授業中におしゃべりをしたらだめ)



(ノートに字をきたなく書いたらだめ)



(給食を残したらだめ)



(本棚に本をぐちゃぐちゃにおかない)

〈児童の反応〉

- ・班のみんなで力を合わせて標識をつくりました。
- ・標識を見た人がすぐに分かるように丁寧につくりました。
- ・分かりやすく書くのが大変だったけど、がんばりました。
- ・また、標識作りをしたいです。
- ・他のクラスの子が分かってくれるのか、楽しみです。

〈所 感〉

標識を作る作業に入る前に、みんなが作った標識を他のクラスの児童に伝える授業をするということを伝えていたので、標識を見る人のことを考えながら、分かりやすい標識を作ることができた。ただ、青色の標識をつくった班がなく、赤色の標識に偏ってしまったので、どのようなルールが青色の標識になるのか事前に考え声かけをする必要があることが分かった。

また、1年生にとって、標識作りは難しい作業になるのではないかと思っていたが、どの班も前時で知った標識のルールを活かしながら、意欲をもって楽しく作ることができていた。個人ではなく、協同学習を取り入れたことで、助け合いながら作ることができていた。

6 時間目

○世界の国の挨拶を知る。

ねらい：言葉を使わないと伝わらないものがあることに気づき、自分から進んで言葉にして伝えようとする意欲をもつ。

まずは、1年1組の児童が作った標識を、1年2組と3組の児童に、どのような意味を表しているのかクイズを出した。標識の意味が書いてある短冊を用意しておき、児童に選ばせた。標識の意味を当てることで、2組と3組の児童も、言葉がなくても意味が伝わることに気付くことができていた。

1年生の児童みんなが、言葉がなくても意味が伝わることに気付けたところで、クイズを出した。「お辞儀をして、何の意味を表すでしょう。」といったクイズである。児童は、「挨拶をしている。」「ごめんなさいをしている。」「お礼をしている。」などと答えた。答えは、どれも正解であるが、お辞儀のジェスチャーだけでは、どれの意味を表しているか分からないということが実感でき、言葉がないと動作や絵だけでは伝わらないこともあり、言葉で伝える必要もあるということに気づくことができた。児童にジェスチャーだけでなく言葉も使って伝えたいことを聞くと、「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」などの言葉があがった。

そこで、本時は、世界の国の挨拶を練習することを伝えた。まずは、「こんにちは」と、隣りに座っている児童に挨拶をした。次に、ベトナム語の挨拶を覚えているか聞くと、ほとんどの児童が1時間目におこなったベトナムクイズの内容を覚えており、笑顔で「シンチャオ」と挨拶をする

ことができた。その後、フランス、ケニア、ドイツ、アメリカ、中国、韓国の挨拶をクイズ形式で出し、「ジャンボ」、「ゲーテンターク」、「ハロー」、「ニーハオ」、「アニョハセヨ」とそれぞれの国の言葉を使って挨拶をした。その際、どのような表情で言ったらよいのかを考えさせると、笑顔で挨拶を言ったら、相手も自分もいい気持ちになることが分かったので、世界の国の言葉を使い、笑顔で近くの人に挨拶をした。

その後、音楽発表会で、世界の国の挨拶を使った歌「世界中がともだち」を歌うことを伝え、歌の練習をした。

〈児童の反応〉

○言葉を使わなくても伝わった感想

- ・標識の絵だけで、意味が伝わったからびっくりしました。
- ・絵で意味が伝わるのが分かりました。
- ・友だちが作った標識の意味を分かってくれてよかったです。
- ・みんなが標識の意味を答えてくれてうれしかったです。

○言葉を使って伝えたことの感想

- ・世界の挨拶が分かって、どの場所でも挨拶ができるようになりました。
- ・日本と違う挨拶だったけど、練習すると、すぐに挨拶ができるようになりました。
- ・笑顔で挨拶をすることができました。
- ・音楽発表会で「世界中がともだち」を歌うのが楽しみです。

〈所 感〉

作った標識の意味が、他のクラスの児童にも伝わったことで、言葉がなくても伝わるということが実感できた。今回は、時間が取れず教師が標識を発表したが、もう少し時間を取り、児童自身が標識を発表すれば更に、言葉がなくても伝わることを実感できるのではないと思った。

世界の国の挨拶を使って、挨拶練習をする際は、友だちと向かい合い、ハイタッチや握手をして笑顔で挨拶できるようにした。日本を含め、8カ国の国の挨拶をおこなったが、どの児童も国による言葉の違いを感じながら笑顔で挨拶をすることができていた。

授業後には、廊下に世界の国の国旗や挨拶を掲示して、廊下を通りながら、世界の国の挨拶を覚えることができるようにした。

～「世界中がともだち」の中にでてくる世界の国の国旗と挨拶～



フランス「ボンジュール」



ベトナム「シンチャオ」



日本「こんにちは」



アメリカ「ハロー」



ドイツ「ゲーテンターク」



ケニア「ジャンボー」



中国「ニーハオ」



韓国「アニョハセヨ」

7 時間目

○音楽発表会で歌の発表をする。

ねらい：学んだことを表現する場として、世界の国の挨拶の歌を笑顔で歌い、聞いている人に気持ちを届ける。

〈本時の流れ〉

「世界中がともだち」の歌の途中にある世界の国の挨拶の所では、世界中の人と仲良くなれるように、世界中の人に挨拶が届くようにと笑顔で世界の国の挨拶を言った。また、その国の国旗を代表児童が頭の上に上げて提示をした。国旗を提示する際に、JICA 中国から貸していただいた世界の楽器も一緒に演奏した。マダル（ネパールの楽器）、バオバブの実のマラカス（マリの楽器）、シュケレ（タンザニアの楽器）などを珍しい楽器を挨拶に合わせて元気良く演奏することができた。



アメリカの言葉でハロー、ハロー



ベトナムの言葉でシンチャオ



「世界中がともだち」を笑顔で歌えたよ

〈児童の反応〉

- ・笑顔で歌を歌うことができました。
- ・世界の国の挨拶をする所をがんばって歌いました。
- ・世界の国の挨拶を頑張って覚えて、みんなの前で発表できてよかったです。
- ・世界の楽器を演奏できて楽しかったです。
- ・世界の人の心が一つになるように歌えました。
- ・世界の人に挨拶が届くように笑顔いっぱい歌えました。

全体を通しての成果と課題

今回の授業実践の単元のゴールを音楽発表会にもってくることで、保護者の方や地域の方にも、学びを発表することができた。そこで、児童が、世界の人の心が一つになるようにという願いをもって歌を歌ったり、世界の人に挨拶が届くように笑顔いっぱい歌を歌ったりすることができた。しかし、挨拶がその国の人に伝わったときの楽しさを体験させることができなかったのが、課題として残った。今後、学校に来ている ALT と連携をして、交流の場を設定したいと考える。

また、ベトナムクイズや、ベトナムと日本の文化を比べた授業の後には、「もっとベトナムのことが知りたい。」「ベトナムではない国のことも知りたい。」という声が児童からあがったので、教室に他の国の暮らしや文化を知ることができる本を置いた。置いた本は、「文化のちがい 習慣のちがい ウキウキ生活スタイル」と「写真でみる 世界の子どもたちの暮らし」の2冊である。1年生の児童にとっては、習っていない漢字が多くあったので、朝の会や帰りの会などの空き時間を利用して、一緒に読んでいった。「文化のちがい 習慣のちがい ウキウキ生活スタイル」の本は、文化がどうして違うのかといった背景も詳しく書いてあるので、文化の違いに驚くことはあったが、文化の優劣をつけることなく、児童が「いろんな文化があって面白い。」「国が違ってもしっかり日本と似た所もある。」といった感想をもっていた。

そして、廊下にベトナムコーナーを作ったり、ベトナムの標識や世界の国の国旗や挨拶を書いた模造紙を掲示したりすることで、1年生の児童だけでなく、他学年の児童もベトナムについて興味・関心をもつことができた。保護者の方から、テレビでベトナムのことをやっている際、子どもが、「ベトナムにはバイクがたくさん走っているよ。」と教えてくれたことや、ベトナムに単

身赴任している父親に子どもが電話で「シンチャオ」と挨拶をしたことなどをお便りで教えていただいた。

以上のことから、授業実践を通して、日本のことだけでなく、世界のことにも興味・関心をもつようになったのではないかと実感した。その知的好奇心を持ち続け、音楽発表会の歌詞にあった、「こんなにちはと挨拶すれば世界中がともだち」のように、異なる文化をもつ人々と出会ったときにも積極的に楽しく関わっていった欲しいと思う。そのためにも、教師自身が、人と人との繋がりやグローバルな視点を大切に国際理解教育の実践を継続し、さらなる習熟をめざしていきたい。

参考資料

【書籍】

- JICA 中国「どうなってるの？世界と広島県」
- JICA 中国「平成 25 年度ベトナム教師海外研修 参加型で学ぶ国際理解教育授業実践報告書」
- unicef「写真でみる世界の子どもの暮らしー世界 31 カ国の教室からー」（あすなろ書房）
- 須藤健一「文化のちがい 習慣のちがい ウキウキ 生活スタイル」（学研）

【インターネット】

- 「DEAR 開発教育教会（レヌカの学びカード）」 http://www.dear.or.jp/book/book01_renuka.html
- 「AEFA アジア教育友好協会」 <http://www.nippon-aeffa.org/>
- 「ベトナム社会主義共和国ー外務省」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/>
- 「世界の面白い道路標識まとめ」 <http://matome.naver.jp/odai/2128399924794850201>
- 「KICTEC 道路標識何でもコーナー」 <http://www.kictec.co.jp/varieties-road-sign/>
- 「世界の国の国旗」 http://www.suginami-s.net/travelrep/world_data/flag.html

アジアの民族音楽を聴こう

岡山大学教育学部附属小学校 担当教科：音楽・国語・学活 水門 美穂子

実践教科：音楽 対象学年：第3学年 対象人数：103人

■実践の目的

ベトナムを含む3つのアジアの民族音楽の鑑賞を通して、それぞれの曲の違いを感じ取ったり曲の特徴や演奏のよさに気付いたりするなど、味わって聴く

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2	3つの音楽を鑑賞し、気に入った曲を1つ選び紹介文を書く	(1) 3つのアジアの民族音楽を鑑賞する (2)気に入った曲を一つ選び、鑑賞しながら紹介文を書く (この時点では、3つの曲はそれぞれ国や地域が違うということ以外の情報は与えていない)	CD ・モンゴル チ・ボラグの馬頭琴より「万馬のとどろき」 ・教育芸術社小学校音楽鑑賞CD6-2(平成8～11年度用)よりカヤグムの音楽 ・ダン パウより「béo đạt mây trời」
1	紹介文を読み合いながら3曲を改めて鑑賞する	(1) 3つの楽器の写真を見てどの曲がどの楽器だったか想像する (2) 友達の紹介文を見ながら3つの曲を改めて鑑賞する (3) 3つの楽器の構造を知る(詳細は学習指導案参照)	CD ・モンゴル チ・ボラグの馬頭琴より「万馬のとどろき」 ・教育芸術社小学校音楽鑑賞CD6-2(平成8～11年度用)よりカヤグムの音楽 ・ダン パウより「béo đạt mây trời」 写真(資料1参照)

■この授業に注目！

第3学年は組 音楽科 学習指導案

題材名 「アジアの民族音楽を聴こう」 ～いろいろな弦楽器～

教材 モンゴル・朝鮮半島・ベトナムの民族音楽

平成26年12月5日(金)3校時音楽室 指導者 水門 美穂子

1 はじめに

本年度の夏、ジャイカの研修でベトナムに行く機会を得た。この研修はグローバル教育を学校教育の中でどうやって進めていくかといったテーマがメインだったが、研修中に訪れた地域の風景・ベトナム人の人柄などに感銘を受けた。郊外に出ると、田園風景がどこまでも続き、菅笠をかぶった人がのんびりと農作業をしている。所々田んぼの中にお墓があり、ベトナムの人々が稲作と先祖を大切にしていることがうかがえた。出会う人々はみんな温厚で人なつこい。ベトナムの民族音楽に興味があったが直接聴く機会はなかったのでCDショップで民族音楽のCDをたくさん手に入れた。帰国して聴いてみると、研修中に見た風景や人柄が腑に落ちた。温暖な気候、美しい田園風景、温厚な人、そういったものが音楽にもにじみ出ていると感じた。

異文化に出会ったときの驚きや、感銘を子どもにも経験させたい。そして、このような経験を重ねることで、国際人としての感覚を磨いていってほしいとの願いを込めて、本題材を行う。

2 本題材について

(1) 児童観

本学年の児童は低学年で音楽に合わせて体を動かすなどしながら鑑賞をする経験を積んできている。体を動かすことで、曲想を感じたり音楽を形づくっている要素（以下要素）に気付いたりしている。そのような活動のスタイルには慣れているが、鑑賞して書く体験はまだない。

本題材では複数のアジアの民族音楽の中から気に入ったものを1つ選び、その紹介文を書く活動を取り入れる。

また、本学年の児童は、海外の文化に対して興味を示している。月に1度の外国語活動での異文化の学習を楽しみにしている。海外旅行の経験がある児童も多い。音楽にも国や地域によって特徴があることを知ること、ますます異文化への興味・関心が高まることを期待している。

(2) 教材観

○題材構想について

アジアの音楽のうち弦楽器の音楽を取り上げる。こする楽器（モリンホール・モンゴル）・はじく楽器（カヤグム・朝鮮半島）・倍音を利用した楽器（ダン バウ・ベトナム）の3曲を鑑賞する。同じ弦楽器で奏法が異なるため、音色の違いに着目しやすい。また、楽器の構造の違いから、「しっとりした感じ」「びんびんした感じ」など、曲想の違いもとらえやすい。

○3つの民族楽器について

・モリンホール（モンゴル）

モンゴルの代表的な民族楽器。馬頭琴の名前で知られている。2本の弦。弓は馬の尾を縫って作られている。独奏曲には馬の疾走する様子を描いたものが多く、人々が昔から馬と共に生活してきたことが関係している。

・カヤグム（朝鮮半島）

朝鮮半島の弦楽器。弦の数は12本。伽耶（かや）という国で生まれた楽器と言われている。日本の琴によく似ており、また、アジアの他の地域にも似た楽器があることから、アジアの中で文化の交流があったことがうかがえる。日本の琴と同じように、右手で弦をはじき、左手で弦を押さえて高さを調節する。爪をつけず直接指で弦をはじくところが日本の琴と違っている。

・ダン バウ（ベトナム）

ベトナムの民族楽器。昔は盲人の芸に用いられたところが日本の琴と共通している。ダン バウは倍音（ハーモニクス）を使ってメロディーを奏でるという点が大変珍しい。小指で弦を押さえ、竹のピックではじき「びーん」とのびる長く高い音を出す。弦が1本だけなので「一弦琴」とも呼ばれる。

○選曲の意図

中学年での教材選択の観点として「生活している地域で親しまれている高度の音楽・諸外国の音楽など興味・関心をもちやすいもの」と学習指導要領に示されている。モリンホールは昨年度国語科で「スーホの白い馬」を学習し「馬頭琴」という名前で子どもになじんでいる。また、モリンホールは馬が走る様子を描いた曲が多く、モンゴルの生活に根ざした民族音楽であることがとらえやすいと考えられる。朝鮮半島のカヤグムは日本の琴に形も音色も似ているところから、琴との共通点や相違点をとらえやすいと考える。ベトナムのダン バウはなじみのない楽器であるので、倍音が聴き取りやすい曲を選曲した。

○紹介文を書き、読み合う活動の意図

本題材では第1時で3つの民族音楽を聴き、一番気に入った曲を選んで紹介文を書く活動を設定した。紹介文を書く前に、鑑賞して感じたことや思い浮かべたこととそう感じた理由をメモすることで、「（曲想を）感じ取る」と「（音色・旋律などの要素を）聴き取る」ことを促したい。また、その紹介文を本時で読み合った後、再び鑑賞することで、はじめは気付かなかった要素への気付き、自分は選ばなかった曲のよさなど、再

発見のある鑑賞活動にしたい。民族音楽は国や民族によってそれぞれ特徴が違う。その違いやそれぞれのよさを認められるような感覚がいずれは国際感覚につながるもとと期待もして、本題材を実践する。

(3) 題材の目標

- 3つのアジアの民族音楽それぞれの音色・旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさ・面白さを感じ取りながら、それぞれの曲の違いを感じ取ったり曲の特徴や演奏のよさに気付いたりして、味わって聴くことができる。

(4) 題材の評価規準

ア 音楽への感心・意欲・態度

3つの曲それぞれの曲想を感じ取ったり3つの曲の特徴の違いを聴き取ったりする学習に進んで取り組もうとしている。

エ 鑑賞の能力

それぞれの曲の曲想と音色・旋律などのかかわり合いから感じたことや気付いたことをもとに紹介文を書き、それを読み合うなどして、それぞれの曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

(5) 題材の構想（全3時間）

第1・2時 3つの民族音楽を鑑賞し、気に入った曲を1つ選び紹介文を書く

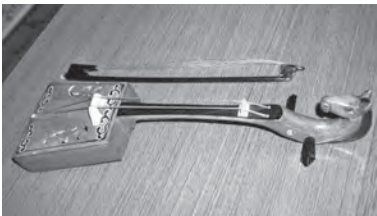
第3時 紹介文を読み合いながら3つの民族音楽を改めて鑑賞する

(6) 本時案（第3時）

本時の目標	3つの民族音楽を鑑賞し、音色・旋律などを聴き取ったり、それぞれの曲の違いやよさ・面白さを感じ取ったりすることができる。	
学習活動	教師の支援と指導の留意点	評価規準
1 楽器の写真を見る	1 前時に鑑賞した3つの曲を演奏していた楽器の写真を提示し、どの曲でどの楽器が使われていたかクイズを出すことで、改めて3つの曲を聴いて確かめたいという気持ちにさせる。	ア 音楽への関心・意欲・態度 〈活動の様子観察〉
2 本時のめてをもつ	2 前時に書いた紹介文の中に「琴に似た音だった」など、すでに楽器を想像していたものなどを紹介することで、友だちの書いた紹介文を読みながらもう一度聴きたいという気持ちにさせる。 友だちのしょうかい文を読みながら3つの音楽をきこう	
3 友だちの紹介文を見ながら3つの音楽を改めて鑑賞する	3 次のようにすることで、3つの音楽それぞれの音色や旋律の特徴に気付きやすくする。 (1) 鑑賞する前に、紹介文を提示し、文中の音色や旋律について話題にすることで、前時に気付かなかったことを確かめようという視点をもって聴きやすくする。 (2) 感じたことは赤・音色や旋律などについて気付いたことは青と、色を変えて紹介文を提示することで、音色や旋律に着目して聴いたり、それらの働きと感じたこと（曲想）を結び付けやすくしたりする。 (3) 鑑賞した後、「（紹介文のおかげで）新しい発見があったか」発問することで、前時には気付かなかった音色や旋律への気付きを明確にしやすいようにする。 (4) 前時に選ばなかった音楽について感じたことや気付いたことを書き込んだり、選んだ音楽に新たに気付いたことを書き足したりできるようなワークシートを準備することで、新しい気付きを明確にしたり、選ばなかった音楽のよさや面白さも感じ取ったりできるようにする。 (5) 紹介文や発言の中に出たきた「感じたこと」と気付いたこと（音色・旋律・その他）を分けて板書することで、それぞれの音楽の特徴の違いをとらえやすくする。	エ 鑑賞の能力 〈ワークシート記述〉

4 3つの楽器の構造を知る	4 弦楽器を使って「弓でこする」奏法と「指ではじく」奏法とハーモニクスを出してみることで、音色の違いは奏法の違いも影響していたことを知り、演奏の面白さにも気付くことができるようにする。	
5 まとめる	5 (1)前時に選ばなかった音楽についての感想を問うことで、「自分はやっぱり1番の音楽が気に入っているけれど、Aさんの紹介文を読んで他の音楽も面白いんだと思った」といった感想をもちやすくする。 (2)3つの音楽の国名と、3つの音楽はその国独特の音楽であることを知らせることで、「気に入った音楽の国のことを知りたい」「他の国や地域の音楽も聴いてみたい」という気持ちをもたせる。	ア 音楽への関心 ・意欲・態度 〈活動の様子観察〉

(資料1 授業で使用した写真)

 モンゴルの馬頭琴（モリンホール） 本時は実物をJICAからお借りして 子どもに見せることができた	 弓でこする楽器	 モンゴルの放牧風景
 カヤグム 朝鮮半島のカヤグム 見た目も日本の琴にそっくり	 爪を使わず指で直接はじくと ころが日本の琴との違い	 田園風景も家屋も、なんとなく 日本と似ている
 ダン バウ（一弦琴） ベトナムのダン バウ（一弦琴）	 倍音（ハーモニクス）の原理 を使った珍しい楽器	 唯一ベトナム研修で実際に水門 が見て撮った写真を授業で使用

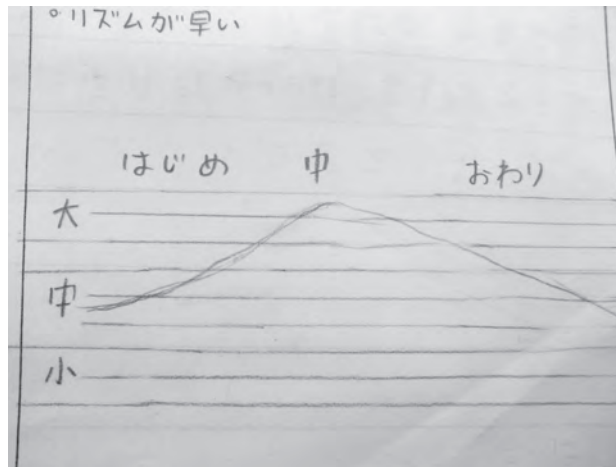
モンゴル 馬頭琴

わたしは1番をえらびました。

なぜかという、ゆっくりのところとはやいところがきれいだったし、外国の曲みたいで、きれいな同じところが2回あって、はねるからなめらかになっていて、いろいろなすごい楽きを使っているみたいだからです。トゥルルが2回あるんだけど、そこもとってもきれい。トゥルルルが3回あるんだけど、そこもきれいだから。昔っばいのに、今っぽくてきれい、これは多分、昔の曲なんだな。昔のドラマやアニメで見る楽きの音だからです。

はやいところが2回あり、ゆっくりになって終わる。

はじめは小から中が大にいっていたので、(強弱が)「ふじ山」みたいな感じに思えました。



わたしは、1番が気に入りました。

この曲は強弱(の変化)がはげしいから、好きです。

はく力もあり、バイオリンのような楽きの音色もよく、終わり方も「ジャン、ジャン」という終わり方が気に入ったので、おすすめします。はやさもはやく、リズムもとってもくふうされていました。大きくなったり、いきなり小さくなど、(強弱の変化が) だいたんだと思いました。ぜひきいてみてください。

わたしは1番をえらびました。

イメージは、はじめは数ひきで、だんだん多くなって、追いかけてくるような感じです。おそい→はやい→ふつうで終わります。「ボーン」「ジャンプン」などと、いろいろなメロディーがきこえます。楽きは、ウクレレを使っているのかなと思ったけど、よくきくと三味線などを使っています。よくきき、心で感じたら、どのような感じなのかも分かったり、楽きが何か分かったりするかもしれません。カッコいい曲なので、きいてください。

1番をえらんだ理由は、ハチが追いかけてくる感じで、一気にちがう楽きをたくさん使っていたりもしていた。

ほうけんをしていたり、何かに追いかけている感じもした。しかも、えんそうがはやかったから、きれいだった。

すきなところは、だんだん高くなったりひくくなったりするところと、タララララ……のところが好き。

音も高くてきれい。だから1番の曲にしました。

わたしは2番の曲がすきです。音楽をきくと、おことの音がします。

と中、「タラア」というところがいくつもあります。その音がなんかふしぎな感じです。音が大きくなったり小さくなったりするところがすきです。とってもはく力があるからすきです。一回もきいたことがなかったけど、なつかしい感じです。みなさんもじっくりきいてください。

だれかが木をおっているみたいで、小さかった音がうるさいぐらい大きくなるところや、オオカミがほえているみたいなところがあるから、きもだめしやおばけやしきにぴったり。

おすもうさんが、手をたたいて「ドスン」としているみたい。

2番は、しずかな曲で気に入りました。なぜかというと、おち着いてきけて、気に入りました。音も、大→小→大とかわっていて、おもしろいと思いました。ボン、ボン、ボンと何かをおしつけている感じでした。それで、この曲が気に入りました。森みたいで、すごいなって思いました。昔の曲だと思います。

なぜ、2番をえらんだかというと、しずかな音とか、江戸時代とかにありそうな楽きで、なつかしい感じだから、えらびました。感じたところはいっぱいあって、むかしの曲みたいで、しずかでいい曲です。

何かのおどりをしたり、「テンテン」というところが気持ちよくて、小さい音のところがきれいで、おもしろい音で、何回もききたくなる曲です。

ベトナム ダン バウ

わたしは3番にしました。

なぜかというと、なめらかで、いろいろな楽きを使っているから、いいなと思いました。あと、ハワイの音楽みたいで、はじめてきいたときは、ハワイにいるみたいでした。わたしは、この曲が、とてもきれいだったと思います。

わたしがこの曲をえらんだわけは、とつてもなめらかで、やさしい感じがしたからです。

この曲は、とてもきれいで、ハワイの海に夕日がしずんでいくような気がします。

そして、メロディーは、たまに「シャララン」となったりするところが、わたしのお気に入りです。なぜなら、ねむくなりそうになるところだからです。

わたしが想ぞうしたことは、ウッドブロックを使っているのかな。(タンタンというところ) さい後の方は、夕日がしずんでいっている。おもしろいので、みなさんもきいてみてください。

わたしが気に入った曲は3番です。

なぜかというと、なめらかで、おきなわでおどっているみたいだったからです。

この曲は、波にゆれているとか、流れているイメージです。

でも、さいしょにきいたときは、おもしろい、中国で生まれたような曲だとイメージしていました。ほかの人も、とてもいい曲なので、きいてみてほしいです。

わたしは、3つの中で、これが一番ピンときた曲です。

はじめは、おきなわっばいとか思っていたけど、中身はおもしろくて、楽しい曲でした。さい後のへんは、夜のまい（おどり）のような感じがしました。この曲をきいたら、なめらか、ねむくなる〜、ふしぎな音だな、平和な感じなど、色々な感想が自分の中がありました。でも、一番強く思ったのは、「やさしい」でした。「なめらか」「風にのっている」感じがしたからです。お母さんが子どもに語りかけているようにも思えました。

ちょっとわらえるおかしなところもあったけど、やさしくて、すてきな曲です。

わたしは3番の曲が気に入りました。

この曲はのんびりした曲で、ふしぎな音がと中から出てきます。とてもなめらかで、原っぱにいたような感じがします。

一番さいしょは高い音で、「パー」という音がと中から出てきます。とてもおち着いて、子守歌のような感じです。

音はいろいろな音が出てきます。高い音やひくい音が、いっぱい出てきます。

とってもあたたかくなるような、いい曲です。

〈児童の反応〉 (第3時・発言)

- 1番の曲はスーホの白い馬に出てきた馬頭琴だったんだ
- 2番の曲は日本のお琴だと思っていたけど、朝鮮半島のお琴だった
- 3番のベトナムの一弦琴はすごく不思議な音がする
- たった1本の弦であんな演奏ができるなんてすごい
- 先生は実物を見たの？ (見ていません……水門)
- 一弦琴の本物を見てみたいな
- 1番は蜂の曲だと思ったけど、本当は馬だと知って聴き直したら馬のように思えた
- 僕は逆で、馬だと知ってもやっぱり蜂のようにしか聞こえないなあ
- 友達の紹介文に書いてあることが音楽の中からたくさん見つけられた
- 最初に聴いたときは馬頭琴の音楽がいいなと思ったけど、友達の紹介文を読んで聴いたら、後の2曲のいいところもたくさん見つかった

〈児童の反応〉 (第3時・記述) 下線は、国際理解教育の視点でのねらいに迫る記述

- えらんでいない曲も、楽きのひきかたや気づいたことをくわしく知ると、だんだんすきになってきました。わたしがえらんだ1の楽きは、「スーホの白い馬」の馬頭きんだったのは、今日はじめて知りました。本当は馬が走っている様子でした。けれど、わたしは、はちが「ブーン」ととんでいるように思えました。2番も3番もとてもきれいな曲でした。
- 馬頭きんの曲ははちに追いかけていると思ったけど、馬だったからかこよく聞こえる。カヤグムの曲はなつかしいし、おまつりの曲みたい。ベトナムのダン バウの曲のさいしょは朝日がのぼったみたい。「パウン」のところがなんかしっくりくる。南国っぽい曲です。全部いい曲！
- さいしょはちがとんでいると思ったけど、馬頭きんを見ていると、馬が「パカラパカラ」と走っているみたいに聞こえてきました。いろんな曲がきけてうれしいです。
- 世界にはわたし(みんな)が知らない楽きがある。気づいたことにはいてるけど、感じたこと、思いうかべたことはみんなちがった。カヤグムはことにいていたが、ゆびでならす楽きだった。馬頭きんははじめて見たけど、本当に馬の頭にていた。ベトナムの曲はメロディーはゆっくりだけどベースははやかだった。(リズムが細かった 水門補足)
- 馬頭きんの曲ははちが追いかけている感じがしたけど、馬が走っていることが分かってびっくりした。馬頭きんでこんなむずかしい曲がひけるんだな。それぞれな楽きでこすったりはじいたりツボにさわったりしてすごかった。友だちの意見を聞いて、「楽しい」とかいろいろなことが分かった。
- 楽器にはいろいろな音の出し方があり、たとえば、一げんきんのえんそうの仕方で、ツボの部分を使って、一げんだけなのに、一つの音以外の音も出している。
- 本当は馬が走っているけど、人によってはちがとんでいるみたいという人と、馬が走っているみたいという人がいて、人は思うことがちがうんだなあと思った。カヤグムの曲は、むかしのイメージできいてみたら、やさしい曲でとてもきれいだった。ダン バウの音は、明るい感じで、「プル」というところがきれいだった。ほかにもいろいろな国の曲をきいてみたいと思った。
- 人それぞれ思ったこと、感じたことはちがうのに、気づいたことは同じだった。楽きも、ひく、はじく、ツボにふれるなどしてひく。自分がえらんだ曲じゃなくてもすきになった。

- ことという楽きのすごいところは、すごいきれいな音が出るところです。はじめて知ったことは、糸のツボの部分に当てれば、もっときれいな音が出せるところで、とてもびっくりしました。
- いろいろな楽きがあって、ほくはダン バウをえらんだけど、馬頭きんの曲もすきになった。ツボをおすと、へんな音が出ることにおどろきました。
- 1 番の曲ははちに追いかけられる感じがしたけど、先生から馬頭きんを使って馬が走っている様子を表していると聞いた。だけど、ほくは、はちからにげている感じにしか聞こえなかった。バイオリン（実際にやってみせたのはチェロ 水門補足）にもツボがあって、そこに当てたら音が変わったからおもしろかった。
- B くん（馬の曲と聞いても蜂にしか聞こえないと発言した児童）みたいな人もいるし、人それぞれ感じることに、思いうかべることはちがう。感じたこと、思いうかべたことに正かいはないから、B くんみたいな意見は悪いことではなく、いいこと。
- 馬頭きんの曲は、はちに追いかけているという人も、馬が走っているという人もいておもしろかった。自分で気に入った曲もいいと思うけど、ダン バウのツボもおもしろくて、全部好きです。
- 世界中にはおもしろい楽きを使ったいろんな感じの曲があって、ツボなどで工夫されている楽きもあると分かった。

〈所 感〉

第1・2時で書いた紹介文を読みながら色分けをしてみると、赤字(感じたこと)が多い子どもや、青字(気付いたこと)が多い子ども、また、すでに自分が感じたことの原因を気付きから見つけるなど、知覚と感受を関連づけている子どももいて、それぞれの子どもの感じ方等を知る上で大変興味深いものがあった。

本題材では、聴き取る要素を、それぞれの楽器の音色と旋律の2つに想定した。音色に着目できるように、第3時の活動4で実際にチェロを弾きながら「こする」「はじく」をやってみせ、ハーモニクスの音を聴かせた。これは効果的だった。また、選曲の関係か、音色と旋律以外に、強弱や速度(テンポ)の気付きも多かった。

第1・2時で、馬頭琴の曲を選んだ子どもたちが「蜂の音楽だ」と言い出して、すっかり蜂だと思い込んでいたところに本時で馬だと知ったときの子どもの反応が面白かった。馬だと言われれば馬に聞こえた子どももいれば、蜂にしか聞こえないという子どももいて、感じ方の違いが顕著に表れた。子どもたちが「蜂だ」と感じたのは、本学年の子どもが1年生のときに「くまばちとはとぶ」(リムスキー＝コルサコフ)を鑑賞したことも影響していると思われる。(資料3)

今までの鑑賞は体を動かしながら聴くスタイルだったので、書く時間が多かった本題材での子どもの様子はややおとなしく活気に乏しい感じもしたが、知的な活動であったともいえる。また、子どもの発言や記述から、本題材の目標と、国際理解教育の視点からのねらいは達成できたという手応えがあった。

全体を通しての成果と課題

このたび、研修としてベトナムに行かせていただける貴重な機会を得た。この研修は、教師として、いやそれ以前に一人の人間として、考えさせられることが多いものとなった。ベトナムで働く日本人やベトナムの子どもや青年たちとの出会いによって、仕事にかけける情熱や誇り、自分の将来への夢など、国は違ってもことばが通じなくても、同じ人間として通じ合うものがたくさんみつかった。また、インクルーシブ教育・国際理解教育について改めて考えさせられる研修だった。

この研修で得たものを子どもに還元するための授業実践である。本来ならば私自身が「直接体験」したことをダイレクトに授業で扱う(「ベトナムの〇〇」「ベトナムと日本の文化の違い」など)のが一番いいのだらうとは思っていたが、迷った末、結局、音楽科での実践にした。理由はいろいろあるが、自分の分野(やりやすい教科)だということと、直接体験した感動をそのまま子どもに伝えても、私以上に子どもは感動しないのでは?と考えたところが大きい。私が体験したこ

とを、まず私自身が十分咀嚼し、その結果もったエキス（信念のようなもの）を、音楽の授業にいかに関与するかということにエネルギーを注いだ方がよいのではないかと考えたのだ。

そこで、音楽の授業の中で国際理解教育に通じる内容は何かということを考えるのが本実践構想のスタートだった。

真っ先に浮かんだ共通点は「異文化理解」だ。音楽科では平成元年の学習指導要領から、それまで西洋のクラシック音楽に偏りがちだった内容を見直し、日本の音楽や世界の民族音楽にもっと親しめるように改訂されている。これによって、今は、音楽の授業で、自国の文化はもちろん、世界の様々な文化に触れる機会が増えた。これこそ、国際理解教育に通じる授業といえそう。また、異文化に触れるということは、本学級・本学年の子どもの興味もひきそうである。そこで、ベトナムの民族音楽を含め、複数の異なる文化の音楽の鑑賞の授業をすることにした。

同じ音楽を鑑賞しても、人によって好きになったり気に入らなかったりと、自然と好み（嗜好）が出る。また、音楽を特徴付ける要素についての気付き（知覚）は誰が聴いても同じだが、感じたり思い浮かべたりしたこと（感受）は人によって違う。こういうところが鑑賞の面白いところである。そしてそれは異文化の受け止め方と似ている。「こういう文化があるのか！」という驚きもあれば、「いいな」という共感もある一方で、「（例えば箸で食べるとか手で直接食べるとかいった違いが）頭では理解できても自分はどうも受け付けられない」といった感覚もある。自分の感じ方を大切にすると同時に、自分とは違う友達の感じ方も尊重する態度を、この年齢から育てていきたいものである。本実践もその一つとなればと考えた。そこで、複数の曲を聴き、まずは好みの曲を選ぶという構想にした。

学習指導案でも述べたように、本学級・本学年の子どもは、それまで、体を動かしながら鑑賞するスタイル（資料3）をとってきており、鑑賞して気付いたこと等を「書く」のは本題材が初めてだった。そこで、紹介文を書く前に、感じたことと気付いたことを短いことばでメモさせ、それを見ながら紹介文を書くようにした。また、書く時間やワークシートの書くスペースを適度にして、いたずらに長い文になったり、文が音楽から離れていったりしないように配慮した。

紹介文を書いた後、友達と読み合い、聴き直すところが、本題材のミソである。全員の紹介文をパワーポイントでスクリーンに映し、それを見ながら聴き直した。その際、感じたり思い浮かべたりしたことを赤字（本文中は下線）で、曲の特徴、気付いたことを青字（本文中は太字）で示した。（資料2）これはとても効果的だった。〈児童の反応〉にあるとおり、「気付いたことはみんな同じだけど、感じたことは人によって違う」ということが子どもにも一目で分かった。そして、自分が選ばなかった曲の紹介文を読みながら聴き直すことで、新しい発見があり、「この曲も好きになった」という感想につながった。本来ならば全員の紹介文を紹介したかったが、時間の制約もあり一部しか扱えなかった。そこで、全員分の紹介文を後日子どもに配布した。

本実践での子どもの様子を見ていて、異文化に触れるということは、今まで自分が知らなかった世界をのぞくことであり、そこには新しい発見がある、ということに改めて気付かされた。これからも、授業の中で子どもたちに新しい発見をたくさんさせていきたい。新しい発見を喜ぶ心が、ひいては国際理解にもつながっていくのだということを、本実践をとおして子どもから教わったように思う。

(資料3 これまでの鑑賞の授業の様子)

ウッドブロックとトライアングルの音を聴き取り、時計になってシンコペーションのリズムに合わせてずっこけたり目覚ましのベルを鳴らしたりしながら曲の面白さを味わって聴く授業

第1学年 平成24年10月25日



平成24年度教育研究発表会（平成24年11月3日）「くまばちはとぶ」の鑑賞（第1学年）



くまばちになって動きながら、くまばちが何をしているか考える

「高く飛んだり低く飛んだりしているよ」
(旋律にあわせた強弱への気づき)



「ここが、くまばちが高くとんでいるところだ!」

「どんどん高くなっていく～」

本校 HP (岡大附小→研究室紹介→音楽)

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/fusho/ongaku/mito2013.html>

参考資料

【書籍】

- ・小学校音楽観賞用教材集解説書 NHKソフトウェア

【CD】

- ・モンゴル チ・ボラグの馬頭琴 KICW85029
- ・平成 8 ～ 11 年度用 小学校音楽鑑賞 CD 教育芸術社小学校の音楽 6 - 2 準拠 COCG12898
- * *dọc tàu đàn bầu* Mono chord show folk melodies 888/NTBD 07916
(以上 3 枚が授業で実際に鑑賞したもの)
- ・白馬の伝説～馬頭琴はうたう NKCD4859
- * *nhạc cụ dân tộc việt nam 2* (ベトナムの民族音楽 2) 02/svhtt-bdn 17294
- * *tranh sáo bầu tàu khúc* (sáo bầu バンブーフルート) 82/qd-ph-svhtt 12184
- * *dàn bầu việt nam dân ca quốc tế* (dân ca quốc tế 国際的な歌＝民謡) 20/vhtt-bdn 04975
- * *dọc tàu nhạc cụ dân tộc việt nam* (ベトナムの民族音楽の演奏) 02 / svhtt-bdn 17423
- * *nhạc nghi lễ* (儀式の音楽) 16/svhttdl-bdn 00143
- * *dàn bầu- đàn trans* (一弦琴と十六弦ツィター) 06/vhtt 04302
- * *vẽ quẻ hóa tàu tranh bầu sáo nhi* (十六弦ツィター 一弦琴バンブーフルート 二胡)
08/svhtt-bdn 04854

(*はベトナム現地で購入したもの)

【インターネット】



<http://lyshuki.nhatvietosaka.jp/syuki/coso8.html>

- ・私家版楽器事典 http://saisaibatake.ame-zaiku.com/gakki/gakki_main.html



<http://koizumi2.ms.geidai.ac.jp/asia/jp/index.html>

- ・連載 jr. 韓国と日本の違い <http://rensai.jp/?p=53931>
- ・板橋区公式 HP 交流国紹介 モンゴル国文部省 (当時)
http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/005/005810.html



- ・ <http://insightchina.jp/newscns/print/15615/>

目を向けよう世界の国々へ～みんながってみんないい！世界の文化を学ぼう～

宇部市立上宇部小学校 担当教科：全教科

丸山 登容子

実践学科：国語・社会・道徳・総合的な学習の時間 対象学年：第5学年 対象人数：32名

■実践の目的

- ・外国の人々や文化を知ること、色々な色々なものの見方や考え方ができるようにさせる
- ・青年海外協力隊員のベトナムや諸外国での活動内容を知ることを通して、国際貢献に対する理解を深めさせる
- ・世界で起こっている問題を知ること、そのことに疑問を感じる力を養い、自分たちに何ができるかを考えさせる
- ・外国の文化を学ぶことで、日本との共通点や相違点を発見できるようにさせる
- ・世界の国々の人たちに日本の文化を発信することを通して、日本の文化や伝統のよさにあらためて気づかせる

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	ベトナムと日本 同じと違いを発見しよう！ (総合的な学習の時間) ○異なる立場や文化を尊重し、根拠をもって自分の考えを伝えることができる	1 写真に込められた情報を読み解く 2 テーマについてクラス全員で自由に意見やアイディアをだすために、クイズ大会をする 3 異なる文化を尊重するために、日本と同じと違いを考え、発表する 4 本時の学習を振り返る	・フォトランゲージカード(ベトナム/日本/タイ) ・ベトナム絵葉書 ・ワークシート ・ベトナムの地図 ・すげがさ ・アオザイ ・パーシン
3	「幸せに生きていくということ」(道徳) ○国際社会に生きる一員である日本人としての自覚をもち、世界の平和と人類の幸せに寄与しようとする気持ちを養う[内容項目4-(8) 国際理解]	1 サティヤルティさんがノーベル平和賞を受賞した新聞記事を見る 2 資料「生きていくために必要なこと」を聞き、話し合う 3 サティヤルティさんのメッセージ⑤を聞く 4 世界の平和と人類の幸せのために、国際貢献や国際協力をしている日本人を紹介する	・自作資料 ・新聞記事 ・ベトナムの写真
4	「世界の人々とともに」(道徳) ○高倉さんの活動を支えた思いを知ることによって、外国の人々や文化を大切にしようとする心情を培う [内容項目4-(8) 国際理解]	1 ゴミで汚れているインドネシアのスラバヤ市の写真と改善された写真を見て、その違いを発表する 2 資料「タカラ・バスケット」の聞き、話し合う 3 スラバヤ市の人からのメッセージを聞く 4 自分と外国の人々や文化とのかかわりを振り返る 5 身近な人で国際貢献や国際協力をしている人を知る	・資料「タカラ・バスケット」 ・世界地図 ・スラバヤ市の写真
5 6	日本と外国とのつながりを知ろう！ ○青年海外協力隊のベトナムや諸外国での支援の具体を示し、支援の効果を考える	1 国際貢献や国際協力で、世界で活躍している人たちの存在を知る 2 どんな仕事をしてきたのか、仕事のやりがいや嬉しかったこと、困ったことなど話を聞く	・写真と動画 ・世界地図 ・アンケート結果
7 ↓ 11	日本の文化を学ぼう！ (国語/社会/総合的な学習の時間) ○日本の文化・伝統を調べ、あらためてよさを考える	1 日本のどんなことについて知ってもらいたいかを考える 2 日本の衣食住、行事、文化他、外国の人に紹介したいことを調べる	・世界地図 ・ワークシート ・社会副読本(山口県/宇部市) ・山口県内各市町村のパンフレット

12 ↓ 16	世界の文化を学ぼう！ (国語 / 社会 / 総合的な 学習の時間) ○世界の文化・伝統を調 べ、日本との共通点・ 相違点を見つける	1 ベトナムの衣食住について調べ、日本との共 通点・相違点を考える 2 世界ジャンボリーに参加する国から、自分が 興味をもった国について調べる	•世界地図 •ワークシート •様々な国の絵本と民族 音楽
17 ↓ 21	日本や各国の文化を発信 しよう！ (国語 / 社会 / 総合的な 学習の時間) ○自分が調べた国以外の ことについて知るととも に、日本の文化や伝統 と比較してみる	1 自分が調べたことを発表する 2 自分が調べた国以外のことに知ったことで、 日本の文化や伝統と比較する	•発表用資料 (各自)

■この授業に注目！

1・2 時間目 総合的な学習の時間

第 5 学年 2 組 総合的な学習の時間学習指導案

5 年 2 組教室

指導者 丸山 登容子

視点①児童に迷いや間違いを生じさせることで、いろいろな見方ができるようにするために、日本と似ているベトナムの風景や文化、衣食住の様子を提示する。

視点②問題解決過程を班→個→班とすることで、友だちの考え方・見方を知り、自分の考え方をもちあわせることができやすくする。

視点③次時の課題を見つけやすくするために、自分の考えの変容がわかるワークシートで振り返る。

- 1 単元名 目を向けよう世界の国々へ ～みんなちがってみんないい！世界の文化を学ぼう～
- 2 目 標 異なる立場や文化を尊重し、根拠をもって自分の考えを伝えることができる。
- 3 準 備 フォトランゲージカード (8 組) ベトナムからのエアメール 【絵葉書】
- 4 学習の展開 (第一次 1・2/8 時)

学習活動・内容	教師の働きかけ (評価☆)
1 写真に込められた情報を読み解く。 ・詩の音読 ・フォトランゲージカードの活用 【ベトナム / 日本 / タイ】	・本時のテーマ「みんなちがって みんないい」を感じるために、金子みすずの詩を音読する。 ・色々なものの見方をつけるために、3 カ国の似ている風景や衣食住 (田園 / 食卓にごはん / すげがさ / 野良犬 / 交通渋滞等) のフォトランゲージカードを提示し、本時の課題へとつなげる。 ・友だちの考え方・見方を知り、自分の考え方をもちあわせるために、問題解決過程を班→個とする。
2 テーマについてクラス全員で自由に意見やアイデアをだすために、クイズ大会をする。 ・ベトナムクイズ大会 ・資料活用 ・「なぜだろう」思考タイム	・今後の課題を発見しやすくするために、疑問を持ちやすい場面をクイズにだす。 ・根拠 (理由) を考えやすくするために、クイズごとのグループにわかれる。 ・課題意識をもたせるために、自分が受け取ったエアメールクイズを児童は出題する。
ベトナムと日本同じと違いを発見しよう！～みんなちがってみんないい！～	

3 異なる文化を尊重するために、日本と同じと違いを考え、発表する。 ・同じ／違い「おや？」 ・同じ／違い「なぜ？」 4 本時の学習を振り返る。 ・考えの変容の確認 ・ビックリ！発表タイム（個人／グループ） ・次時の課題発見	・「根拠をもって自分の思いを伝える」ことができるようにするために、発表するときは根拠を示すというルールを示す。 ☆根拠をもって、自分の考えを伝えることができたか。 【伝え合う力】（観察・発表） ・次時の課題が見つけやすくするために、自分の考えの変容がわかるワークシートで振り返る。 ・次時の課題が見つけやすくするために、「ビックリ！」を発表し合い共有する。
--	---

〈児童の反応〉

- ・3つの国は、お米をよく食べることが同じことが分かった。
- ・ベトナムのバイクの多さにびっくりした。
- ・道路は、思っていたよりみんな広かった。
- ・小学生の服装は、みんな似ていると思った。
- ・ベトナムの人が、死んだあとのことまで考えて、お墓を作る場所を考えているのがすごいと思った。
- ・ベトナムの人がかぶっている帽子と日本の帽子、似ている。

〈所 感〉

同じアジアなので、衣食住にも多くの共通点が多くあり、フォトランゲージカードも最初は一部のものしか渡さなかったのですが、根拠をもって分類することに戸惑っていた。しかし、相違点を見出しやすいものを加えると、これまでの経験や知識から、意欲的に3ヶ国を考えていた。小学生の写真もどれも似ているようなものだが、ワイをしている子どもに注目し、以前授業中に教師が話した事柄と結びつけて、タイ国を考え出したところは、素晴らしいと思った。学習を進める中で、いかに日常からそういったものに、子どもたちに経験させたり、話を聞かせたりすることが大切か、学習を通して感じた。

今回の学習で気をつけたことは、その写真や情報すべてがその国の特徴ではないということ、根拠をもって考えることである。また、直感も大切だが、「どうして」「なぜ？」そう思うのか、根拠を持って考え伝えることができることこそ、これからの国際社会に生きる人育成に必要不可欠であると考えている。

学習活動 1

フォトランゲージカード（日本・タイ・ベトナム）資料

〈お 墓〉

	日本の墓（墓地） ・お寺の敷地内に集めて墓があったり、地域の決まったところや霊園に墓が集めてあったりする。 ・灰色や黒色の石でできた墓が多い。
---	---

	タイの墓（墓地） • お寺の敷地内に集めて墓があったり、地域の決まったところに墓が集めてあったりする。 • 色とりどりのタイルで作られていることが多い。
	ベトナムの墓 • 自分の家の畑や田んぼの中にお墓をつくる人が多い。死んだ人が、お腹をすかせないようにするため。 • 最近では、土地がない人や都会の人は、お墓をつくるのが難しいという問題がおきている。

〈食 事〉

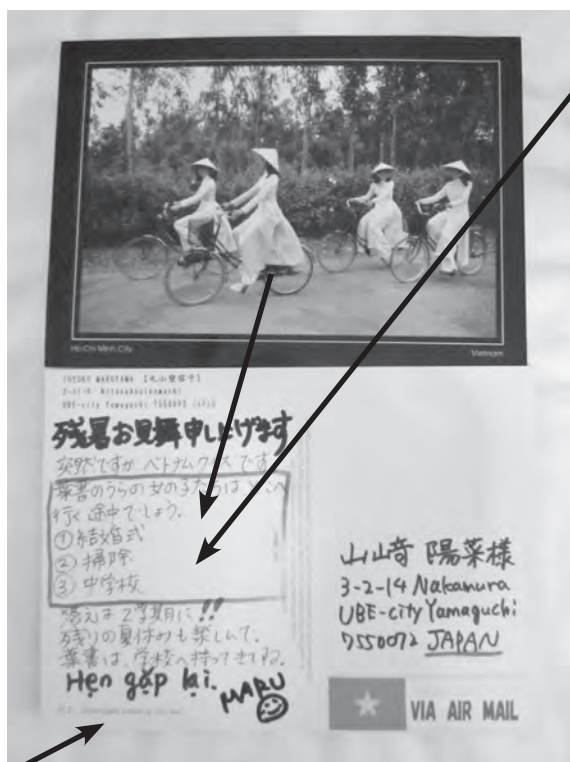
	日本の食事の例 • 和食 • 主食 ご飯 • 汁物 • おかず • はしを使って食べることが多い。
	タイの食事の例 • ガッパオライス • 主食 ご飯 • 1つのお皿にご飯とおかず乗っていることが多い。 • はしまたはスプーンとフォークを使って食べる。
	ベトナムの食事の例 • フォー（米粉の汁麺） • はしを使って食べることが多い。 • ご飯のかわりにこれを食べる場合もある。

〈小学生〉

	日本（山口）の小学校 第5学年 ・ 服装 ・ 髪型
	タイ（バンコク）の小学校 第5学年 ・ 挨拶の方法 ・ 服装 ・ 髪型
	ベトナム（ハノイ）の小学生 第5学年 ・ 教室の中 ・ 服装 ・ 髪型

ベトナムクイズ大会資料

昨年度の研修生の方に教えてもらった方法を取り入れ、研修期間中にベトナムからクラスの子どもたち全員に絵ハガキを送った。絵ハガキには、絵ハガキの写真に関するクイズ「ベトナムクイズ」(3択)を書いた。



絵ハガキを読んだ子どもたちは、こちらが質問を投げかけなくても、自然とベトナムについて興味をもつことができた。2学期が始まってからすぐにベトナムに関して質問してきたり、自主学習で調べてきたり、意欲的に学習を進めていってくれた。ハガキのクイズを学習活動2で出し合い、担任から画像や資料とともに、答えを発表した。

クイズ 何をしているところか？	答 え 稲の苗植え。日本では、ほとんどが1年に1度しか苗を植えませんが、ベトナムでは多いところで、4度苗植えをする。(4期作)
	
クイズ ベトナムでは、バイクは何人まで乗ってよいか？	答 え 法律では2人まで。小学校にもバイクでくる子供たちが多い。
	

学習活動 3・4 ワークシート

5年 総合的な学習の時間「目を向けよう世界の国々へ」氏名		
①くらべてみて		
日本と同じ	日本とちがう	どちらか迷う
☆	☆	☆
理由	理由	理由
☆	☆	☆
理由	理由	理由
☆	☆	☆
理由	理由	理由
②最初のイメージと変わったことや驚いたこと、心に残ったことを書きましょう。		
  		

3 時間目 道徳

第 5 学年 2 組 道徳科学習指導案

平成 26 年 12 月 11 日 (木) 4 校時

場所 5 年 2 組教室

指導者 丸山 登容子

- 1 主題名 幸せに生きていくということ (資料名「生きていくために必要なこと」)
- 2 ねらい 国際社会に生きる一員である日本人としての自覚をもち、世界の平和と人類の幸せに寄与しようとする気持ちを養う。 [内容項目 4 - (8) 国際理解]

3 授業展開

段階	学習活動・内容	教師の働きかけ (評価 ☆)
導入	1 サティヤルティさんがノーベル平和賞を受賞した新聞記事を見る。 ・資料内容の理解	・サティヤルさんの新聞記事を紹介するとともに、ノーベル賞は世界の平和や進歩のために貢献した人に贈られる賞であることなどの理解を深め、資料への関心を高める。
展開	2 資料「生きていくために必要なこと」を聞き、話し合う。 (1) 自分たちが幸せに生きていくために必要なものは何かを考える。 ・自分にとっての幸せについて理解の確認と共有 (2) 資料①～③を聞き、この子どもたちにとって幸せに生きていくために必要なものは何かを考える。 ・資料の子どもたちにとっての幸せについての理解を共有する。 (3) 資料④からベトナムの現状を知り、日本と共通しているところ、日本と違うところを考える。 ・日本とベトナムの教育事情の比較 3 サティヤルティさんのメッセージ⑤を聞く。 ・できることは何かを思考 4 世界の平和と人類の幸せのために、国際貢献や国際協力をしている日本人を紹介する。 ・色々な形の国際協力の形態紹介	・資料は、教師が範読する。 ・幸せという漠然としたものにどんなものを想像するのか、友だちの意見を聞きことで、子どもたちのなかに、共通の尺度をつくる。 ・自分たちの今の生活が、当たり前ではなく特別なことだと気づかせるために、資料①～③の子どもたちにとっての幸せは何かを考えさせる。 ・ベトナムの就学状況について日本とあまり変わらないことを理解するために、比較する。 ・サティヤルティさんのように、問題意識を持つだけでなく、解決するために自分ができるかを考え実践することの素晴らしさに気づかせるために、メッセージを範読する。 ・世界の平和と人類の幸せのために活動することが特別ではなく、自分も国際協力をしていきたいという憧れを児童に持たせるために、異国の地で、国際貢献や国際協力をしている日本人を紹介する。
終末	5 世界中の子どもたちが幸せに生きていくために、自分たちはどんなことができるかを考える。 ・実践計画発表	・できることを実践するために、どんなことを取り組んでみたいかを発表する。

5 年道徳資料 「生きていくために必要なこと」

- ① 2014 年 (平成 26 年) 12 月 10 日、ノーベル平和賞を受賞したインドの児童労働問題活動家カイラッシュ・サティヤルティさんは、受賞について「深刻な問題に光を当ててくれた」と話しました。

多くの子どもたちが動物のように売買されています。生まれながらにテロや危険な状況に置かれ、無理やり働かされたり、少年兵にされたりした子どもたちもいます。ノーベル平和賞の栄誉は彼らのものです。たった一人の子どもが危険にさらされているとしたら、それは世界全体が危険にさらされていることです。たった一人の子どもでも教育を受けられないとすれば、世界が完全に分かったとは、言えないのです。

- ② 私は、朝 7 時から夕方 5 時までボールを縫う仕事をしています。私は、5 才からこの仕事をしています。ボールは、1 個縫い上げると約 15 円もらえます。縫うとき、手に針をさしてしまいとても痛かったです。勉強をしたかったけど、病気の母の看病をしている父に、「学校へ行かせて欲しい」とは、言えませんでした。

サッカーボールは、32 まいの六角形の硬い人工の皮を縫い合わせてできています。針で皮を縫い合わせる作業は、とても時間がかかり、1 日かけてボールを 2 個縫い終わるのがやっとです。

私の母は、病気です。父は、その看病に追われていたので仕事をすることができません。

私は、7 才のときに目が見えづらくなりました。それでも、私しか働くことができないので、サッカーボールを縫い続けました。

- ③ 5 年生の Aくんは、1 日 8 時間、週 7 日間、セメント袋の再生の仕事についています。収入は、1 日約 20 円。同じく 5 年生の B さん女の子は、1 日 7 時間、週 7 日間、屋台の仕事についています。収入は、わずか 1 日約 25 円。中学 2 年生の C くんは、1 日 12 時間、三輪の荷車でゴミを回収する仕事についています。しかし彼の収入もまた、1 日わずか約 30 円。働く子どもたちの多くは、「毎日、遅くまで働かなくてはいけないけど、家にお金が送れるからうれしい」と言います。家族にお金が送れることに満足しているのは確かですが、このように働く子どもたちの給料は、年間にしてもわずか約 1 万円くらいです。

- ④ ベトナムにおける義務教育は小学校 5 年間 + 中学校 4 年間の 9 年間です。法律では、15 才以下の子どもを仕事につかせることは禁止しています。また、許可された職業でも父母あるいは保護者との同意と連絡がなければ、いけないとしています。法律に定められた 18 才以下の労働者の仕事できる時間は、1 日 7 時間または週 42 時間です。ベトナムの人口の 8 割 (10 人中 8 人) の人は、農村や山間部に住んでいます。小さい頃から農業や家の手伝いをするのは、普通なことであり、家族にとって子どもたちは、貴重な働き手です。

小学校に入学する年になって、入学の手続きをするのは、9 割の子どもたち (10 人中 9 人)。しかし卒業をする子どもたちは、6 割 (10 人中 6 人) 程度です。学校に通わない子どもたちは、110 万人を超え (2014 年 9 月現在)、多くが、農村や山間部に住む子どもたちや貧しい家庭の子どもたちです。

ベトナムでは大都市の人口が増加しすぎないようにするために、農村や山間部などからの移住を制限しています。したがって、お金をかせぎに家族みんなが大都市にくることはほぼ不可能です。そのため、ふるさとを離れ、農村や山間部でまっ家族のために大都市で働いている子ども (6 才 ~ 15 才以下) も多いのです。

* 搾取 (さくしゅ) …必要労働時間以上に働かせ、ただでその労働をえること。
働かせるだけ働かせて、それにあった給料を支払わないこと。

- ⑤ サティヤルティさんは、「子どもが安価な労働力として搾取（さくしゅ）されている」状態が、世界にはびこっている現実を指摘し、各国の政府や企業に行動を求めました。

サティヤルティさんは、1980年に「子どもたちを救え運動」を立ち上げ、労働現場から8万人を超える子どもを解放してきました。「世界で今も1億6800万人の子どもたちが働かされている。人道に対する犯罪だ」と強く批判。「子どもたちは、政治的、社会的無関心の最大の被害者だ」と訴え続けました。十分に教育を受けてこないまま親になった大人たちが、子どもを安易に働かせており、その子どもたちが親の世代になったときに同じことを繰り返すという「悪循環が続いている」と懸念を示しました。

悪循環を絶つため、児童労働が広がっている国では、「子どもが働いて収入を得る代わりに学校で教育を受けることに対してはげましてやることや無料で質のよい義務教育制度をつくる必要があるだ」と語りました。

日本など主要国の企業に対しては、「途上国に発注する製品については、製造の最初から最後まで、児童労働が入り込まないように責任を持つべきだ」と述べました。

〈児童の反応〉

- 自分たちが幸せに生きていくために必要なものとベトナムの子どもたちが必要と思うものが違っていたことに驚いた。
- 小学校へ行くことが、あたり前ではない子どもがいることを知った。
- 遊びたいけど生きるために働くてはいけない子どもがいることを知って驚いた。
- 色々な国があることは知ってはいたが、学校へ行ったり好きなことができたりする日本は裕福で、幸せであると思った。わがままは、言うてはいけな思った。
- 自由が奪われている人たちが、世界に在ることを知り、びっくりした。
- 私が普通と思っていることが、普通じゃない子どもたちがたくさんいることを知り、びっくりした。今は、自分がどうしたらよいか分らないが、サティヤルティさんみたいな人が、増えたらいい思った。
- 普通ということや幸せに感することが、国によって人によって違うということが分かった。

〈所 感〉

自分たちの日常があたり前ではないこと、教育も生活も自由をうばわれている同世代の人が、世界中に在るということを知り、そのことについて、自分は何ができるかを考えて欲しく設定した。中には、「かわいそう」「日本は裕福でよかった」「日本は、金持ち」で思いが終わっている子どもたちもいた。また、「学校へ行けることが幸せ」、「自由があることが幸せ」と感している子どももいた。「幸せ」とは、主観的で人によって尺度が違い、共通で考えることが難しいものであるが、ただ今を幸せでよかったで終わらせることなく、じゃあ働きながら生活している子どもたちの幸せとはなんだろうか、自由があると思っている自分たちは、案外、幸せじゃないのではないかと、一方通行な見方で幸せをはかるだけで、学習が終わらないようにしていきたい。

成果 ちょっとした違いや発見に興味を持ち、人にそれを伝えようとするようになったことは、大きな成果である。今までは、与えられたものを消化することだけで満足し、冒険しない子どもたちが多く見られた。そのため、違いや異質なものには、極力反応を示さなかった。しかし学習を進めるなかで、違いを見つけることを楽しむようになったり、違っていても否定する必要がないことを何度も経験したりすることで、違いや異質なものに、寛容になってきた。

また、世界で起こっていることに興味をもち、授業中に学習していることに関連させて、みんなの前でその話をしたり、自主学習で、興味を持ったことを詳しく調べてきたりする子どもたちが増えたことは、成果である。ただ「調べなさい」、「興味をもちなさい」では、子ども自身その必要性を感じられないので、どうしていいか分からないままである。しかし、今回の学習のように、色々な種類の種を蒔くことで、子どもたちの興味関心に、芽を出させることができたのは、成果である。

最後に、外国を知るためには、まず自分の国のことを知らなければ、何を知っているのか、何を調べていいのか分からない。改めて自分の国日本⇒山口県⇒宇部市を調べることで、自分の身の回りを知り、その良さを知ることで、郷土愛を高めることができたことは成果である。

課題 どうしても一方的な見方で、それをその国の特徴と子どもたちに伝えてしまう傾向が強くなったことは、課題である。傾向や特徴を決め付けると、分類や学習をしやすくなるのは事実であるが、異文化理解は違いを受け入れることではないことを子どもたちも単元を計画する私自身も気をつけていきたい。

また、調べたことや学習したことを伝える相手がまだ不明確なため、その学習への関心意欲が、子どもたちの中で高まっていないことが課題である。来年度、山口県で開催される世界ジャンボリーに向けてと設定はしているが、目の前に対象者がいるわけではないので、子どもたちにとったら、現実味も必要性も感じることはない。この点については、今後学習を進めていくなかで、さらなる支援を考える必要があると思う。

〈参考資料〉

- ・①の記事 : 2014 年（平成 26 年）12 月 9 日（火）オスロでの記者会見中のサティアルティさんの発言より引用。
- ・②の記事 : 児童労働から守る NGO ACE（エース）HP 記事より作成。
- ・③④の記事 : 岐阜大学地域科学部研究報告「ベトナムにおける子どもの生活と福祉の課題」（1997 年 3 月 21 日）より作成。
- ・⑤の記事は : 2014 年（平成 26 年）12 月 9 日（火）朝日新聞 13 面記事より引用。

日本からベトナム、そして世界へ

島根県安来市立比田小学校 担当教科：1 年生 藤原 沙樹

実践教科：生活科、社会科、総合的な学習の時間 対象学年：1～6 年生 対象人数：全校児童 37 名

■実践の目的

- ベトナムの文化や風習を知ることを通して、ベトナムや外国に興味をもつ。
- ベトナムで奮闘する日本人を知ることを通して、日本が世界で果たす役割を考える。
- ベトナムの子ども達の生活を知ることを通して、世界の子ども達に目を向ける。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ベトナムってどんな国？ ・ベトナムに興味をもつ (生活科：1 年生)	(1) 夏休みに担任がベトナムに行くことを伝える (2) 地図や地球儀を使い、日本とベトナムの位置関係を確認する (3) 図書館の本を使い、ベトナムについてイメージを膨らませる	(2) 地図、地球儀 (3) 図書館の本
2	ベトナムをちょっと知ろう ・ベトナムに興味を持ち、楽しんで活動に参加しようとする ・自分達の生活との共通点や相違点に気付くことができる (生活：1・2 年生、総合的な学習の時間：3～6 年生)	(1) ベトナムについて知る 国旗、地図上の場所、民族衣装 (2) びっくり!クイズをする 街の様子、食べ物、子ども達や学校の様子、お店・ホテルの様子 (3) ベトナムの物に触れる (4) 感想交流をする	(1) パワーポイント 3 カ国（ケニア、日本、ベトナム）の国旗 世界地図 アオザイ (2) パワーポイント 現地で撮影した写真 (3) 現地で購入した物品 (漫画、教科書、おもちゃ、食品) (4) ワークシート
3 4 5	世界ってどんなところ？ ・世界に目を向け、日本と共通しているところ、異なっているところに気付くことができる (生活：1・2 年生)	(1) 前時のベトナムの学習で、印象に残っていることを振り返る (2) 自分が知っている国を発表する (3) 名前を知っている国の中から、自分がもっと知りたいと思う国を選ぶ (4) 図書館の本を使って、調べ学習を進める 衣・食・住等（調べた内容をワークシートに記入） (5) 自分が調べた内容について付箋に記入する	(1) (2) ホワイトボード (3) ワークシート (4) 関係する本 ワークシート (5) 付箋
6	日本ってふしぎ？ ・自分達の生活は世界から見ると当たり前ではないことに気付く (生活：1・2 年生)	(1) 自分達が調べた内容について「日本と同じ」、「日本とちがう」に分ける (2) 模造紙を見て、気付いたことをワークシートに記入する (3) グループで発表する (4) 全体で発表し、考えを共有する (5) 本時のまとめをする	(1) 模造紙 (2) ワークシート
7 8 9	ODA って何？ ～ベトナムの中の日本の役割について考えよう～ ・ベトナムで活躍する日本人を知る ・ベトナムにおける ODA を知り、日本との関わりに目を向ける (社会科：5・6 年生)	(1) 日本とベトナムの水のちがいについて知る (2) 「ベトナムの中の日本」クイズをする 考える→話し合う→発表する ○ワクチン製造工場 ○ハイウェイ道路 ○空港建設現場 ○下水処理場 ○インクルーシブセンター (3) 日本の ODA が果たす役割について知り、なぜ ODA があるのか考える (4) 振り返りをする	(2) ベトナムで撮影した写真 JICA から持ち帰った資料

10 11 12	シンチャオ!ベトナムの子ども達 - ベトナムの子ども達と自分達の生活を比較し、共通点や相違点を見つける - ベトナムの子ども達の生活を知ることを通して、世界の子ども達に目を向ける (社会科、総合的な学習の時間:3・4年生)	- ベトナムについて知っていることを発表する - ベトナムの小学校(子ども達)について知る教育課程、給食、登下校、遊び - ベトナムと日本の子ども達のアンケート結果を比較する - アンケート結果から考えたことをワークシートに記入する - 考えたことを全体で共有する - 世界の子ども達に目を向けさせる	- ベトナムで撮影した写真 - パワーポイント - ワークシート
----------------	---	---	--

■この授業に注目！

第1時 ベトナムってどんな国？

ねらい：ベトナムに興味をもつ。(1年生対象)

本時の流れ

夏休みに担任がベトナムに行くことを伝える。

地図や地球儀を使い、日本とベトナムの位置関係を確認する。

図書館の本を使い、ベトナムについてイメージを膨らませる。(学校司書と連携する)



学校司書や友達と話しながら本を囲んでいる児童達

第2時 ベトナムをちょっと知ろう (全校児童対象)

ねらい：ベトナムに興味をもち楽しんで活動に参加しようとする。

自分達の生活との共通点や相違点に気付くことができる。

授業の始めに提示したテーマ

本時の流れ

- ① ベトナムについて知る。
(国旗、地図上の場所、民族衣装についてパワーポイントで説明)
- ② びっくり！クイズをする。
(学年混合の縦割り班ごとのグループになり、相談しながらクイズに解答する。教師がベトナムで驚いたことをクイズにする。) 4つの観点からクイズを設定した

1 街の様子編

A バイクの数が多いい！

ヒント

- ・2人乗り、3人乗り、4人乗りは当たり前！
- ・ぶたが乗っていたことも！
- ・ヘルメットをかぶっていない人も…



2 ベトナムの小学校編

I ひるねがあります！

ヒント

- ・小学校でも〇〇〇〇？！
- ・ちょっとうらやましい…
- ・日本では、保育所の時に〇〇〇をします



2 食べ物編

F めんをよく食べる

ヒント

- ・白い
- ・お米から作ります
- ・もちもちしています



2 お店・ホテル編

K ホテルのすいどうのみずは飲めません！

ヒント

- ・飲めないかわりに、ペットボトルに入ったこれが置いてありました
- ・お店でも、〇〇〇〇の〇〇は使われていないようです
- ・日本では、飲めることが多いかな？



③ ベトナムの小学生が答えたアンケート結果を見る。

そのほかに、ベトナムの小学生に教えてもらったことがあります。

○ベトナムの良いところは何ですか？

- 1 食べ物がおいしい
- 2 景色がきれい
- 3 子ども用遊園地が多い
- 4 歴史遺跡が多い
- 5 伝統的なアオザイがある
- 6 ベトナム人は親切で、団結力が強い

みなさんは、日本や日本人の良いところ、いくつ言えますか？

ちょっとここで、一休み♪

夏休みの前にみなさんに書いてもらったアンケート、おぼえていますか？

○給食はありますか？

→あります。ただし、家に帰って食べる人もいます。

○習字はありますか？

→あります。予習や字を書く練習、読む練習、資料集め、など

○どんな授業がありますか？

→数学、英語、国語、美術、音楽、歴史、科学です。

みなさんが幸せだと思う時は、どんな時ですか？

ベトナムの小学生は…

○家族のみんなが元気である

理由：家族のみんなが元気だと嬉しいから。
家族がいないと幸せに生活できないから。

○ほかの人を手伝ったとき

理由：ほかの人のために良いことをした時、その人がうれしかったら、自分もうれしいから。
ほかの人を手伝うことは、自分を手伝うことと同じことだから。

みなさんの一番大切なものはなんですか？

ベトナムでは…

○家族

理由：何でも包んで支えてくれるから。
助けてくれるから。
おいしい時には、元気が出るようなぐさめたり、
はかましてくれるから。
笑ってくれるから。



など

④ ベトナムの物に触れる。(漫画、教科書、おもちゃ、食品)

〈児童の反応〉 ワークシートから抜粋

- ベトナムは、街も食べ物も、ホテルも日本とは大違いでした。(5年生)
- 今日学習してみてベトナムのことがちょっと知れてよかったです。水が有料なのはびっくりしました。(4年生)
- ベトナムは、日本とちがうことがあるのは分かっていたけど、ここまでちがうとは思いませんでした。バイクの4人乗りは、日本ではぜったいありえないし、そうじも日本でやるのは当たり前のことだと思っていることがそうでないのでびっくりしました。(6年生)
- ベトナムの人は、すてきな街に住んでいると思いました。(1年生)
- ベトナムの人達は家族が一番大切と言っていたけど、私にとっても家族が宝物です。(2年生)
- 日本と同じところもたくさんあったし、ちがうところもたくさんあってびっくりしました。(6年生)
- 初めて分かったことは、屋台がいっぱいあることです。行ってみたいと思いました。(1年生)
- ベトナムの人は、人を大事にしています。すごいいいと思いました。(4年生)
- ベトナムの販売品に実際に触れてみたので、良かったです。(3年生)
- 小学校でそうじがなかったり、昼寝をしたりするのはびっくりしました。(多数意見)

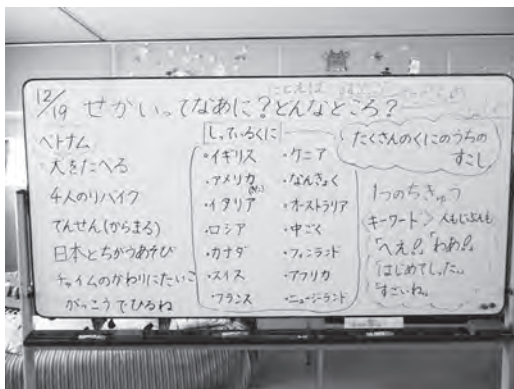
〈所 感〉

クイズ形式を取り入れたことにより、子ども達は、意欲的に活動に参加していた。縦割り班で相談しながらクイズの答えを考えていた。自分達の生活では考えられないような内容が多くあり、答えが分かる度に「えー!」、「本当に?」「いいなあ」などと声をあげていた。衣食住など、子ども達にとって身近なものを取り入れたことにより、子ども達の興味をひいたと考える。ベトナムで購入したものを提示した際には、興味深そうに見ていた。日本でも人気の漫画やキャラクターがベトナムでも人気があると知り、驚いていた。日本と異なる部分だけでなく、共通する部分もあり、ベトナムを身近に感じる事ができたのではないかと考える。また、子ども達の感想から、ベトナムや世界に対して関心が高まったと感じた。

第3～5時 世界ってどんなところ? (1・2年生対象)

ねらい:世界に目を向け、日本と共通しているところ、異なっているところに気付くことができる。

導入段階での板書。調べ学習をする際には、自分や友達が「へえ!」「わあ!」と思うようなことを見つけるように指導した。(観点の明確化)



本時の流れ

- ① ベトナムについて知っていることを発表する。(前時の学習を振り返る。)
- ② 本時は世界に目を向けることがねらいであることを知る。
- ③ 自分が知っている国を発表する。(ホワイトボードに板書していく。)
- ④ 名前を知っている国の中から、自分がもっと知りたいと思う国を選ぶ。
- ⑤ 図書館の本を使って、調べ学習を進める。(衣・食・住・その他について調べ、ワークシートに記入)
- ⑥ 自分が調べた内容について付箋に記入する。(付箋1枚につき、1つの情報を記入していく。)

〈児童の反応〉

- ・本を選択する場では、どの国を調べればよいのか迷っている児童もいたが、実際に調べ始めると、意欲的に取り組んだ。
- ・友達が調べたことに対して、「えー！」、「すごい！」、「初めて知った」など素直に反応していた。
- ・児童間で、「〇〇ってことかな？」、「日本とちがう（一緒だ）ね」など話をする姿も見られた。
- ・一つの国について調べ終わると、「先生、もっと調べてもいいですか？」と聞いたり、自主的に休み時間を使って調べたりする児童が多かった。

〈所 感〉

前時の学習を進めるなかで、子ども達は、ベトナムや世界の他の国に興味を示していた。子ども達の興味・関心をもとに、自分達が気になった国について図書館の本を使って調べた。自分達が知りたいと思う国について、集中して調べ学習に取り組んでいた。子ども達の興味・関心を生かした学習を展開することで、より意欲的に調べ学習を進めることができた。

第6時 日本ってふしぎ？（1・2年生対象）

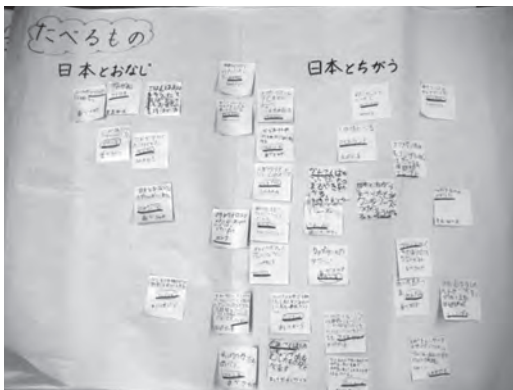
ねらい：自分達の生活は世界から見ると当たり前ではないことに気付くことができる。

本時の流れ

- ① 前時までに作成した付箋を日本と同じか違うかで分ける。さらにその中でも、衣・食・住・その他に分類して、模造紙に貼っていく。
- ② 模造紙を見て、気付いたことを発表する。
一人で考える→ペアで意見を交流する→全体で意見を共有する
- ③ 今までの学習を振り返り、感想などをワークシートに記入する。
- ④ 教師の話を聞く。



模造紙に貼った付箋を見て、友達と意見交換をしているところ



衣食住、その他の観点ごとに調べ、さらに日本と同じか違うかで仲間分けを行った。

上の写真は、食とその他についてまとめたもの。どの観点も、日本と違うことの方が多いことが分かり、世界にはいろいろな生活があることが理解できた

ふりかえりシート		
名まえ（ ）		
☆あてはまるところに○をつけましょう。		
①	ベトナムやせかいのことに ついて、しることができた。	◎ ○ △
②	ベトナムやせかいのことに ついて、たのしくしらべること ができた。	◎ ○ △
③	ベトナムやせかいのことに ついて、もっとしりたいとおも う。	◎ ○ △
☆はなしをきいたり、じぶんでしらべたりして、 おもったことやかんがえたことをかきましょう。		

①	ベトナムや世界のことに ついて、知ることが できた。 9人 ○5人 △0人
②	ベトナムや世界のことに ついて、楽しく調 べることができた。 ◎9人 ○5人 △0人
③	ベトナムや世界のことに ついて、もっと知 りたいと思う。 ◎13人 ○1人 △0人
※感想は、児童の反応に記載。	

<振り返りシートの結果>

〈児童の反応〉 ワークシートより抜粋

- 世界がとってもいいところやくるしいところでも、私は世界のことを知って、またいろいろな人や世界のことをもっと知ってみたいです。いろいろな国に行ってみたいです。
- 私は初めに何も思いつかなかったけど、ポブラディアでいっぱい調べて、いろいろな国が見つけられてすごくうれしかったです。知らないことばかりで、びっくりして、すごいと思いました。
- みんなで仲良くすることが大事だと思いました。
- ベトナムのことをもっと知りたいです。
- 世界は、いろいろな生活をしていると思います。
- 日本とちがうところがいっぱいあって、世界って面白いと思いました。
- 家でもいっぱい調べて、家族のみんなに教えてあげたいです。

第7～9時：ベトナムの中の日本の役割について考えよう（5・6年生対象）

ねらい：ベトナムで働く日本人がいることを知る。

ベトナムにおける日本のODAを知り、ベトナムと日本の関わりについて考える。

本時の流れ

- ① 日本とベトナムの水道の違いについて知る。
- ② 「ベトナムの中の日本」クイズをする。
- ③ ベトナムで教師が見たことを聞く。
- ④ 日本のODAがベトナムで果たす役割について知り、なぜODAがあるのかを考える。
- ⑤ 振り返りをする。

導入で、日本とベトナムの水道の水について比較し、ベトナムのより良い生活のために日本の技術がいかにされていることをおさえた。



どの写真が日本と関わりがあるのか相談しながら考えているところ。日本の国旗を手がかりにして、関わりがあるかどうかを考えていた。



教師がベトナムで撮影した写真をもとにクイズを作成した。学習のまとめとして、日本の ODA は、生活、医療、教育など様々な分野で行われていることを確認した。

〈児童の反応〉 ワークシートより抜粋

- 日本の技術をベトナムに教えていることが分かって良かったです。お互い助け合っていていいと思いました。ベトナムの中で日本は役に立っているなあと思いました。
- ベトナムで日本の技術がたくさん使っていることに驚きました。日本の技術はすごいと思うけど、それを世界に広げていていろんな国のために役立っていることがうれしいです。
- ベトナムという国で日本がすごく役立っていることが分かりました。生活などすごく身近なことだし、医療とかで役立っていて、日本人としてうれしいなと思いました。ベトナムについて知れたし、日本が世界のために何かできていると知れて良かったです。
- 日本が世界の役に立つのならうれしい。
- ベトナムと日本の関係がいろいろ分かったし、ODA のことやちがう国のことがもっと知りたいです。
- 今回の授業を通して、ODA は世界中を豊かにする役割があることが分かって良かったです。
- 日本の技術は世界に認められていてすごいと思いました。下水処理場も日本の技術が加わっていて、改めて日本ってすごいと思いました。
- ベトナムの人達の生活に日本の技術が役立っていて、日本はすごいと思いました。

〈所 感〉

写真をもとに、「ベトナムの中にある日本」を探す活動を行った。児童は、JAPANという単語や国旗を目印にして「ベトナムにある日本」を探していた。6枚提示した写真のうち、2枚には分かりやすいものがあったが、残りの4枚には手がかりになるものはなかったため、児童は6枚中2枚（空港建設現場、ワクチン製造工場）が日本と関わりのあるものだと予想した。

予想し終えた後、6枚全てが「ベトナムの中にある日本」だと告げると、かなり驚いた様子だった。実際に教師が見たり、聞いたりしたことを説明すると、集中して聞いていた。なかには身を乗り出して聞いている児童もあり、関心の高さが伺えた。

ODAという言葉や意味を初めて聞いた児童ばかりだったが、日本の技術がベトナムで活かされていることを知り、日本人として誇りをもったのではないかと感じた。また、何のために日本はODAを実施しているのか尋ねた際に、児童から「世界を平和にするために日本は技術を提供している。」「世界を平等にするためにODAがあるのではないか。」という意見が出てきた。ベトナムに対してのODAを切り口にして、児童なりに世界へと視野を広げたのではないかと思う。

本時では、ODAの表面的な部分を扱ったが、今後社会科で深く学習を進めた時、児童にさらにグローバルな観点から物事を考える力を付けてほしい。

全体を通しての成果と課題

【成果】

- 児童にとって遠い存在だったベトナムが、学習を通して身近に感じられるようになった。
- ベトナムに関する学習を展開したことで、ベトナムに対して「もっと知りたい」「調べたい」という意欲を高めることができた。（ベトナムに興味をもつ児童が増え、自発的に調べる児童がいた。）
- ベトナムの学習を通して、世界に興味をもち、もっと知りたいと感じる児童が増えた。
- 調べ学習を進めるうちに、今の自分達の生活は当たり前ではなく、恵まれたものだということに気付いた児童がいた。
- 日本の技術が他国で活かされていることを伝えたことにより、日本の技術の高さを伝えることができた。
- ODAのことを知るきっかけになる学習を展開することができた。また、日本に対するプラスイメージを持たせることができた。

【課題】

- 低学年の児童に、外国についての学習をすることは難しかった。外国についての調べ学習を設定したが、日本と外国の区別がついていない児童にとっては、「何となく自分達と違う」という感覚だったと思う。児童の実態や学習のねらいを明確にして、単元を組んでいく必要があった。
- 担任外の学級でODAに関する授業を行ったため、前時や次時とのつながりが曖昧なものになった。自分自身がODAについてもっと詳しく知っておく必要があった。
- ベトナムに関して興味を持たせることができた。しかし、世界に目を向けさせるという意味では、まだ不十分なところがある。小規模校のメリットを活かして、情報を発信していきたい。

参考資料

【書籍】

- ・永武ひかる（2013）「世界のともだち ブラジル」偕成社
- ・永武ひかる（2014）「世界のともだち ケニア」偕成社
- ・永武ひかる（2014）「世界のともだち アメリカ」偕成社
- ・永武ひかる（2013）「世界のともだち 韓国」偕成社
- ・永武ひかる（2014）「世界のともだち フランス」偕成社
- ・永武ひかる（2013）「世界のともだち フィンランド」偕成社
- ・永武ひかる（2014）「世界のともだち ベトナム」偕成社
- ・秋山仁 他（2011）「総合百科事典ポプラディア」ポプラ社

【インターネット】

- 日本水道協会「安全でおいしい水道水供給の推進」 <http://www.jwwa.or.jp/anzen/about.html>

【パンフレット】

- 対ベトナム日本の ODA ～ Inclusive and Dynamic Development ～ (JICA ベトナム事務所)
- mundi (JICA)
- ホーチミン市周辺の ODA 案件 (JICA ベトナム事務所)
- ホーチミン市における下水道 (ホーチミン市洪水対策プログラム管理センター)
- ビンフン下水処理施設 (ホーチミン市洪水対策センター)
- 集まれ！地球の教室 (JICA)
- 日本とベトナムのパートナーシップ これまで、そしてこれから (JICA)
- みんなでつくる、よりよい世界。(JICA)
- なんとかしなきゃ！見過ごせない 55 億人 (なんとかしなきゃ！プロジェクト-見過ごせない 55 億人 実行委員会事務局)
- 世界の女の子に、生きていく力を。(公益財団法人プラン・ジャパン)

命をつなぐ食

岩美町立岩美北小学校 担当教科：全教科 澤田 孝志

実践教科：総合 対象学年：5 年 対象人数：38 名

■実践の目的

- ・日本とベトナムの違いに注目し、ベトナムに興味を持つ
- ・世界の水事情を知る
- ・世界の食料事情を知る
- ・ある国の1週間分の食材を写した写真に注目し、その写真の国を考える
- ・食材の内容や量から判断して、食費の多い順番を考えランキングにし、食費の違いを知る
- ・食前の儀式で「感謝」の気持ちが、どの宗教も共通していることを知る
- ・世界の諸問題に対して、取り組んでいる団体 JICA について知る
- ・私たちができることを考え、行動する態度を養う

■授業の構成

本校5年生の総合的な学習の時間において2学期のテーマが「命をつなぐ食」であった。地元、岩美町の特産物について調べ、それをもとにして考えた「岩美オリジナルグルメ」を作り、友だちや地域の方に伝える学習を通して、自分達の住む地域の特性やよさに気づくことができることをねらいとして実践を行った。本実践は、その続きの小単元として位置づけ、単元を構成した。自分達の町の食に触れた経験を生かして、日本や世界に目を向けることができるよう以下のように計画し、実践した。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	○ベトナムの生活 ・日本とどう違うの？ (衣食住・環境・歴史・学校 など)	・ベトナムの町の写真を提示し、気が付いたこと、考えたことを書き込む (フォトランゲージ) ※日本と違うところ・似ているところという観点を示しておく	ワークシート 写真(ベトナムの町) →提示用 写真(ベトナムの町) →フォトランゲージ用
2	○水問題の現状 ・日本での使われ方 →ほとんど衛生のために使っている ・世界で安全な水を飲んでいる人 →ほとんどない	・普段、家庭でどんな時に水を使うか意見を出す ・その中で、使う水の量が多いと思う順番を予想して並べる (ランキング) ・世界の水の使われ方について知る	ワークシート 円グラフ (日本の家庭の水の使われ方) 世界地図 (世界の生活用水量の量)
3	○世界の食に目を向けよう ・世界には日本と違うことがある(衣食住・環境・歴史・学校 など) ・食べ物の違いは？	・ある国の1週間分の食材と家族の写真を見て、気がついたこと・疑問に思うことを書こう (フォトランゲージ) ・家族が住んでいる国を考えよう。 (国当てクイズ)	ワークシート ある国の1週間分の食材と家族の写真 →フォトランゲージ用 →国当てクイズ用
4	○食糧問題の現状 ・国によって食料にかけている金額が違う ・輸入しないと質素な食事は ・日本は廃棄が多い ・一方で世界では貧困も	・家族の1週間分の食費が、高い順に並べる (ランキング) ・日本の食料事情はどうなっているのか考える (紙芝居) ・日本は多くの食品を輸入している。また廃棄が多いことを知る ・反対に、世界では満足に食べられない国や地域があることを知る	ワークシート ある国の1週間分の食材と家族の写真 →提示用 →ランキング用 紙芝居
5	○食で共通することは ・宗教によって食前の儀式は違う ・共通することは、「感謝」の気持ち	・食料の量、内容、金額が各地域で違っていた ・反対に共通することは何か、考える ・主な宗教の食前の儀式や意味を知る ・どの宗教も、「食べられることに感謝」する意味があることを知る	ワークシート 『写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン10』 ～食前の儀式～

6	○食の問題に自分達ができること ・ JICA でやっていること → Win - win の関係になるために ・ 自分たちのできることとは	・ 世界には、食べ物や水の問題で困っている人が多くいることを復習する ・ このような問題に対して、いろいろなサポートをする団体について知る ・ 自分達が身近にできることについて話し合い、意見を出す	ワークシート 指相撲ゲーム 映像（子ども向け）もつと知ろう世界のこと～ JICA は世界とともに～ 写真（ベトナムの JICA の取り組み）
---	--	--	---

■この授業に注目！

【2 時間目】 水問題の現状

ねらい：水問題の現状について知る

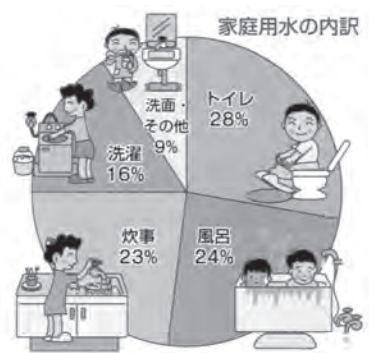
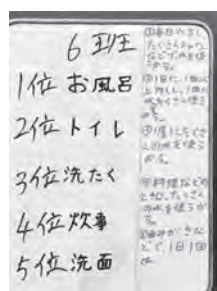
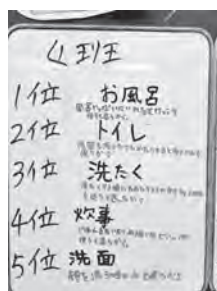
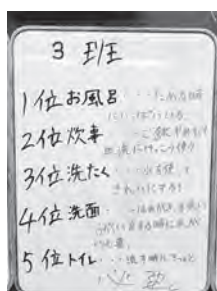
(1) 日本の家庭で使われている水の使われ方にはどんなものがあるか、意見を出そう。

(洗濯 お風呂 洗面 トイレ 炊事)

(2) そのうち、使われる水の量が多いと思う順に、ランキングにしてみましょう。

個人→班→全体発表

(各班の予想)



本当は、

1 位 トイレ 28%

2 位 お風呂 24%

3 位 炊 事 23%

4 位 洗 濯 16%

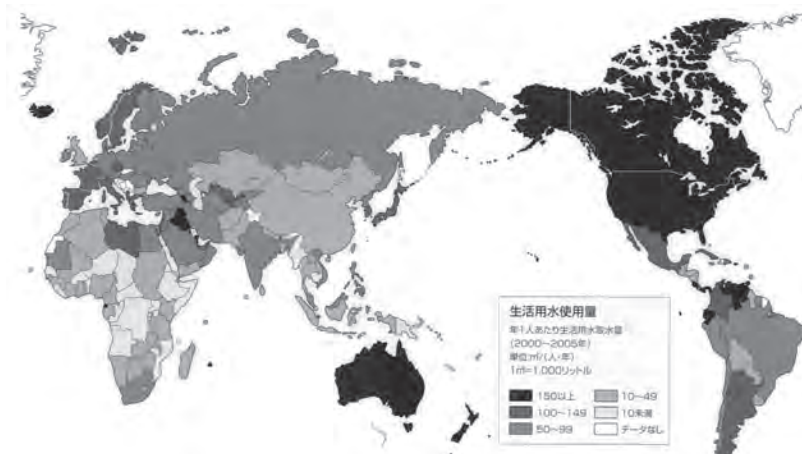
5 位 洗 面 9%

1 人 1 日 296L (シャワーを 24.6 分、流し続けた量になる)

日本での使われ方 →ほとんど衛生のために使っている

(3) 世界の水事情について考えよう

世界で安全な水を飲めているのは →ほとんどない



〈児童の反応〉

- お風呂が1番、使う水の量が多いと思う。理由は、お風呂をためるのはたくさん水を使うし、シャワーも使っているから
- トイレが一番多く使うのがびっくりした
- 洗面だけで約26Lも使っていてびっくりした
- 1人1日296Lも使っているのは多い。もったいないと思った
- 日本で炊事に使われているのは、23%だけは少ないと思う
- 世界にはきれいな水が飲めない国があることを知った
- 国ごとに差がある。特にアフリカで、使われる水が少ない
- 子どもが頭の上にバケツを置いて、長い距離を歩いている映像を見たことがある
- 世界では水不足も起きているので、水を大切に使用したいと思った
- 今まで、たくさん水を無駄に使ってきたことが分かった。無駄遣いしないようにしたい

〈所 感〉

- 日本では、飲み水として使われているのは約23%で、主に「体を清潔に保つため」に多く水を使っていることを児童は理解していた。
- 一方、世界では満足に水を得ることができていない国や地域があり、世界で生活に使う水の量に差があるという現状を理解していた。

【3時間目】 世界の食に目を向けよう

ねらい：世界の食に目を向けよう

- (1) 写真を見て、気がついたこと・疑問に思うことを書こう（フォトランゲージ）

（フォトランゲージの様子）



（発表して共有している場面）



- (2) 国当てクイズ 家族が住んでいる国を考えよう。

1班：エジプト

2班：中 国

3班：ドイツ

4班：チャド（アフリカ大陸中央の国）

5班：アメリカ

6班：インド

- (3) 世界地図で、その国の位置を確認する

(フォトランゲージで書き込みした物)



〈児童の反応〉

	予 想	本当は
1 班	アラブ首長国連邦	エジプト
2 班	中 国	中 国
3 班	アメリカ	ド イ ツ
4 班	ケ ニ ア	チャド
5 班	ロ シ ア	アメリカ
6 班	イ ン ド	イ ン ド

- 国ごとに1週間分の食料が違う。差がある
- 家族の人数や部屋の雰囲気も違う
- マクドナルドのハンバーガーやチキンナゲットがある
- ナンがあるから、この写真はインドだと思う
- ドイツは、食べ物より飲み物が多いのが分かった。また、肉も多い
- チャドの写真の中に、日本の国旗が見える。日本の水だったのがびっくりした

〈所 感〉

- フォトランゲージをこの単元で初めて実践したが、児童の考えが視覚的に分かり、教師の見取りがしやすかった。また、全体ではなかなか意見を言いにくい児童も積極的に参加する姿が見られた。
- 国当てクイズで、食材の内容やそこに写っている人に注目して、児童は考えていた。
- チャドの写真の中に、日本の国旗を発見した児童がいた。その場では説明せず、第6時に扱った国際貢献の一部で紹介した。児童の観察力に感心した場面だった。

【4時間目】 食糧問題の現状

ねらい：日本と世界の食糧事情について考えよう

(1) 家族の1週間分の食費が、高い順にランキングにしてみよう

(エジプト 中国 ドイツ チャド アメリカ インド)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
本当は	ドイツ 3 班 59009 円	アメリカ 5 班 28614 円	中国 2 班 18297 円	エジプト 1 班 8087 円	インド 6 班 4633 円	チャド 4 班 143 円

(ランキングを予想)

(理由を説明)

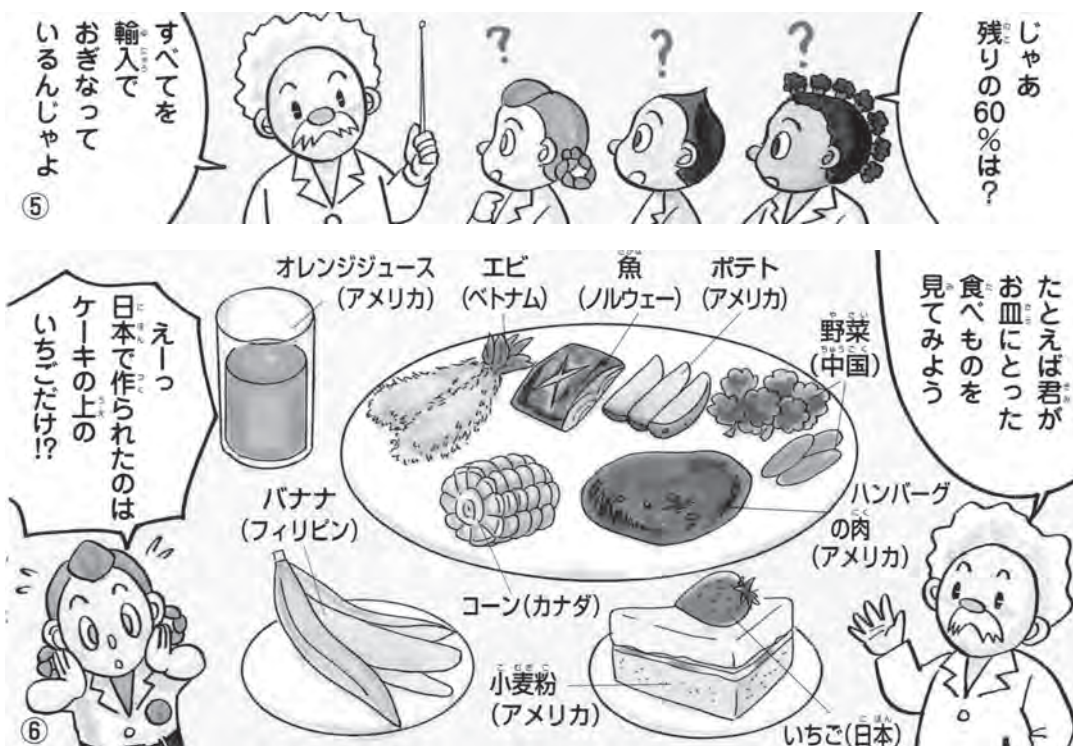


(2) 日本の「食」について 見てみよう (紙芝居風に印刷して、読み聞かせ)

日本の食料自給率は、約 40%

主な食料の自給率

食パン…1% スパゲッティ…3% そば…21% 醤油…0% ごま…0% こしょう…0% 納豆…13%
えび…5% 豚肉…5% 卵…9%



輸入が止まったら献立 (こんだて) は・・・



でも、台所からのごみの約 4 割 は、まだ食べられるのに捨てられている

(児童の予想)

5位	
1位 ドイツ	15000円?
2位 エジプト	12000円?
3位 アメリカ	10000円?
4位 中国	8000円?
5位 インド	6000円?
6位 チャド	3500円?

4位	
1位 アメリカ	27328円
2位 チャド	186830円
3位 ドイツ	184250円
4位 エジプト	182325円
5位 インド	18円
6位 中国	9998円

(授業の板書)

命をつなぐ食	
④ 日本と世界の食料事情について考えよう。	
食費の多い順でランキング	
1位	59009円
2位	28614円
3位	18297円
4位	8087円
5位	4633円
6位	143円

〈児童の反応〉

【ランキングの理由】

- ・ドイツは、食品の数が多いから。飲み物が多いから (ランキングが上位になる)
- ・エジプトは、家族の人数が多いから (ランキングが上位になる)
- ・アメリカは、肉が多く、ファーストフードなど高そうな食品が多いから (ランキングが上位になる)
- ・中国は果物が多いから、それほど高くはない

- インドも野菜が多い
- チャドは、明らかに品数が少ないから高くはない
- チャドは意外に高い？ 水は貴重だと思うから

【結果を知って・・・】

- ドイツの 59009 円は、予想より高くてびっくりした
- チャドの 143 円はとても安い
- ドイツの食費とチャドの食費で 58866 円も違っていたのが分かった
- 国によって食料にかけているお金の金額が大きく違う
- 日本の食糧自給率は約 39% で低い
- 日本の台所からの食料のうち、約 4 割が食べられるのに捨てられていることが分かってびっくりした
- 一方で世界では貧困もある
- 輸入しないと大変なことになる
- 卵や肉は週に 1 回しか食べられない
- 輸入することは、今の日本に必要なこと
- 普段自分達も、つい給食を残してしまっている
- 食べ残しをせずにちゃんと全部食べるようにしていく

〈所 感〉

- 児童は、写真をじっくり眺めて食費を予想していた。結果は、児童の予想を見事に覆して、児童に興味を持たせることができた
- ドイツの 59009 円は予想より高く、チャドの 143 円はとても安いと感じていた。とくにチャドの食費の安さには驚いている児童が多かった。

全体を通しての成果と課題

(成果)

児 童

- 国によって、食料の内容、量、金額が大きく違っていることを実感できた
- 世界の水事情や食糧事情について多く知ることができた
- 普段何不自由なく生活している児童が、世界で起きている状況を知り、自分達にできることについて考えるきっかけになった
- 外国とのつながりを実感できた。児童の感想でも「つながり」「協力」「Win-Win の関係」という言葉が出ていた

教 員

- 国際協力の現場を視察し、その現場を見たり働いておられる方々の話を聞いたりして、教員が学んだことを児童に還元することができた
- 「参加型」の学習を取り入れたことで、全ての児童が授業に参加する機会を保障できた
- 中国 5 県の先生方とつながりを持てた。事前研修や現地研修で、多くの人と出会い、いろいろな話を聞いた。そのような話を、授業で子ども達に多くの人のことについて話すことができた。

(課題)

- 児童に偏った知識を持たせる可能性に気を付ける。(原付バイクに何人も乗っている、道にごみが落ちている等の) 事実の背景にある環境や社会情勢も教えていく必要性を感じた。日本との違いを肯定的に捉えられるよう、宗教や気候、経済システムなどにも触れることが必要である
- 児童の普段の生活とかけ離れていて、自分のこととして考えられていない児童の姿も見られた。授業で、自分達の問題として考えられる必然性が生まれる授業方法や問いを考えていく
- 教材の精選が必要。ベトナムでの写真や聞いた話の一部しか授業では扱えない。何を、どうやって教えるかを来年度以降も検討していく

参考資料

【書籍／パンフレット】

- 「写真で学ぼう！『地球の食卓』学習プラン 10」 DEAR30 周年記念特別基金対象事業
- JICA 地球ひろば（2012）「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～」
- JICA 地球ひろば（2011）「いのち、輝け！－発展途上国の健康を守るために－」
- JICA 中国（2013）「どうなってるの？世界と日本」
- JICA 中国（2013）「どうなってるの？世界と鳥取県」
- JICA ベトナム事務所（2013）「日本とベトナムのパートナーシップ これまで、そしてこれから」
- JICA（2011）「JICA の仕事 みんなでつくる、よりよい世界。」
- JICA「日本も元気にする青年海外協力隊 vol.2」

【映像資料】

- 「JICA は世界とともに（JICA 事業紹介ビデオ）」 <http://www.jica.go.jp/pictures/movie/index.html>
- 「（子ども向け）もっと知ろう世界のこと～ JICA は世界とともに～」 <http://www.jica.go.jp/pictures/movie/index.html>
- 「JICA イメージムービー」 <http://www.jica.go.jp/pictures/movie/index.html>

【インターネット】

- 「独立行政法人 国際協力機構（JICA）」 <http://www.jica.go.jp/>

〈参考：ワークシート〉

命をつなぐ食 名前（ ）

めあて：

日本の家庭の水の使われ方にはどんなものがあるか、意見を出そう

--

そのうち、使われる水の量が多いと思う順に、ランキングにしてみましょう。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
自分の予想					
理由は					
班の予想					

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
本当は	→ L	→ L	→ L	→ L	→ L

合計： 1 人 1 日 L（シャワーを 分流した量になる）

（2）世界の水事情について考えよう

感想、分かったこと、初めて知ったこと、自分にできること、など

■第1時のフォトランゲージで使った写真

ベトナム行ってみたらこんなトコだった～JICA 教師海外研修の歩き方(学び)を通して～

呉市立昭和東小学校 担当教科：全教科

福田 充真

実践教科：国語・算数・生活・音楽・図画工作・道徳・学活 対象学年：小学1年生 小学2年生 対象人数：1年7名 2年8名 計15名

■実践の目的

- ・ベトナムの生活様式、衣・食・住について見たり、聞いたり、体験したりしたことを通して、画像やクイズなどで伝え、世界に興味を持つ。
- ・ベトナムの子どもたちや学校の様子を通して興味を持ち、自分たちとの共通点や相違点について考える。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	(事前学習1) しおり作りをしよう	○色画用紙に絵や文字を書く	色画用紙、色鉛筆、鉛筆
2	(事前学習2) しおり作りをしよう	○育てたあさがおを使って色染めをする	和紙、あさがお
3	ベトナムを知ろう ・ベトナムの国について興味を持つ	○ベトナムの小学生や生活様式についてクイズ形式にしながら紹介する (1) 世界地図でベトナムを確認する (2) ベトナムの小学校についてクイズを出す (3) ベトナムの生活様式についてクイズを出す (4) ベトナムの衣・食・住について伝える	世界地図 パワーポイント ノンラー、ベトナム語の漫画、お菓子、フォー（ベトナムのお土産）
4	親切について考えよう ・相手の気持ちを考えて行動する	○道徳「はしのうえのオオカミ」で親切・思いやりについて考えた後、教師の話伝える (1) ベトナムの子どもたちが書いた色紙を紹介する (2) みんなが書いたしおりのお礼に名前を書いてくれたことを伝える (3) 相手のことを考えて作ると相手もその気持ちを受け止めて行動する～Heart to Heart～について考えさせる	色紙
5 6	ベトナム料理を作って食べよう ・「フォー」を作ってみる	○ベトナム料理「フォー」を作って食べて感じたことを出し合う	ベトナムの「フォー」 収穫した野菜
7	世界の国旗やめずらしいものにフレーズを使って表現しよう	○外国の旗や物に興味を持って英語で話す (1) ベトナム (Vietnam) 日本 (Japan) カナダ (Canada) 中国 (China) アメリカ (America) イギリス (U.K) を英語で言う (2) 魚釣りゲームを通して Where are you from? I'm from ～. の言い方を練習する (3) これ何ゲームを行う。ベトナム、カナダ、日本の写真を見て、What's this? It's a ～. の言い方を練習する	つりセット 国旗 ベトナムの写真 CD
8	ベトナムをもっと知ろう ・ベトナムの国についてより一層興味を持つ	○ベトナムの小学生と自分たちのアンケートの相違点について考える (1) 大切なもの、幸せだと感じる時などアンケート結果から考えさせる (2) 3時間目に見たことを動画も交えながら見る (3) ベトナムから児童に送ったクイズ付エアメールの答え合わせをする	ベトナムで取ったアンケート エアメール パワーポイント（動画）

9	ゲストティーチャーのJICA 青年海外協力隊員の話聞こう	○外国に住んで活動された方の実際の声を聞く (1) 写真を見たり、体験談を聞いたりして日本との共通点や相違点について考える	パワーポイント
10	ペープサート（紙人形劇）や紙芝居を作ろう	○ベトナムの十二支のペープサートを役割分担して作る	割り箸 色鉛筆
11	みんなで1・2・3♪の歌を歌おう	○「みんなで1・2・3♪」を世界の言葉バージョンを練習する ○「ちきゅうはひろば」という歌の練習をする	国旗のペープサート、鈴、トライアングル
12 13	くじらぐもや、くじらぐもに乗っている自分を作ろう	○くじらぐもの絵を綿で作ったり、くじらぐもに乗っている自分の似顔絵を画く	綿、模造紙、色鉛筆
14	自分以外の人や物に目を向けよう	○ベトナムの十二支のお話を2年生の前で発表する (1) 自分が担当した動物のペープサートを使って台詞を言う (2) ベトナムの干支と日本の干支の違いを確認する (3) 2年生の感想を聞く (4) 多様なものの見方を逆さまの地図やアクティビティを通して持たせる	紙芝居 ペープサート 南北上下逆さまの地図
15	ベトナムのことを知ること、日本のことをもっと知ろう	○レヌカの学びで日本、ベトナム、アメリカに関するいろいろな分野の問題を解いていながらベトナム一周旅行をする (1) 「みんなで1・2・3♪」を日本語、ベトナム語、英語で歌う (2) 国語、算数などの3カ国の問題に取り組む (3) 3カ国のじゃんけんやゲームに取り組む (4) 3カ国の子どもや学校の様子についてクイズに答えていく (5) 3カ国の生活様式や、衣・食・住に関するクイズに答えていく ※3つのグループに分かれて正解すると出た数だけコマを動かし、最後に各問題を裏返して3カ国のキャラクターができるか確かめる	パワーポイント レヌカの学び（カルタ） ギター
16	今までの学習を振り返ろう	○今までの学習を振り返る	プリント
17	今まで学習したことを「5・7・5」の川柳に書こう	○今までの学習を振り返る (1) 今まで学習したことを項目ごとに上げ内容を思い出しながら確認する (2) 短冊に書く	短冊

■この授業に注目！

1・2 限目 しおりづくりをしよう

ね ら い：ベトナムの子どもたちに送るためにあさがおで色染めした和紙の上にキャラクターを描いてしおりを作る。

実施経緯：夏休みにベトナムの小学校に研修で訪れることを伝えた。ベトナムという国について子どもたちはテレビなどで聞いたことがあるようで、情報社会の中、世界が身近に感じるようになってきているのかと思った。そこでベトナムの小学生に日本で流行っているキャラクターを描いたしおりを渡す考えにみんな賛同してくれて張り切ってしおりを作った。

〈所 感〉

「先生は、ベトナムの小学校に行きます。ベトナムって聞いたことがありますか？」という投げかけに全員聞いたことがあるという反応が返ってきた。「ベトナムの小学校の子どもたちにプレゼントをするのに、しおりを作りますか。」という呼びかけにもみんな飛びついてきてくれたので、しおり作りが楽しくできたことが成果としては大きかった。

表には、「しおり」と書いてキャラクターを載せ、裏には「よんでね」と書いて似顔絵と個々の名前を書くことで自分が作ったしおりという認識も持てたようだ。ベトナムの小学生に喜んでもらいたいという気持ちが前面に表れたしおりを作ることができた。



しおりを作りました。

3 限目 ベトナムを知ろう

ね ら い：ベトナムを例に挙げて世界について考えることができる。

実施経緯：世界地図を見せてベトナムがどこにあるのか感心を持っていた。ALTの先生の「カナダがどこだったかな？」と言う声も聞こえてきた。ベトナムに関するクイズを出し、子どもたちの興味を持たせようと考えた。



〈児童の反応〉

- ・バイクに乗るときにマスクをしていて驚いた。
- ・いろんな生き物を食べることに驚いた。
- ・バイクにかごを付けてその中に豚が数匹入っていることに驚いた。
- ・日本人に顔が似ているのに、話す言葉は違うので驚いた。
- ・日本でも馴染みのあるキャラクターがベトナムにもあり嬉しかった。
- ・ベトナムのキャラクターが日本のキャラクターとデザインが違っていた。

ベトナムのお菓子を
食べたり、パソコンの
画像を見たりしました。

4 限目 親切について考えよう

ね ら い：親切なクマの行動を見て行動するオオカミの気持ちを考えることを通して、身近な人に対して、優しく親切にしようとする心情を育てる。

実施経緯：オオカミはクマの取った行動から、優しさについて気づかせる。「あたたかい心で親切に」という内容で、「あたたかい心を、みんなにとどけましょう。」という項目がある。子ども達が相手に喜んでもらおうと一生懸命作ったしおりに、ベトナムの子ども達も喜んでくれ、色紙に一人一人名前を丁寧に書いてくれた。気持ちを込めて作ったものを渡すと相手も気持ちを込めて返してくれることを感じさせたいと思った。道徳授業の教師による説話で話すことが効果的だと考え、同授業を設定した。

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点及び☆評価【評価方法】
導入	1 親切にしてもらってうれしかった経験を発表する ○ 親切にもらって、うれしかったことはありますか	- 忘れ物をしたとき友だちに貸してもらった 2年生が学校探検に連れて行ってくれた	○ 本時のねらいにかかわる生活体験を想起させ、学習への導入とする
展開	2 「はしのうえのおおかみ」を聞いて話し合う ○ ウサギ、キツネ、タヌキを追い返した時、オオカミはどんな気持ちでしたか ○ クマに出会ったとき、オオカミはどう思いましたか ◎ クマの後ろ姿をいつまでも見ていたオオカミは、どんなことを考えていたでしょう ○ クマと同じようにしてウサギを渡らせたとき、オオカミが前よりずっといい気持ちだったのは、どうしてでしょう 3 自分の生活を振り返る ○ 親切にできたことがありますか	- いじわるはおもしろいな - たのしいなもっとやろう - おれはつよいんだぞ - クマには、かなわない - じぶんがもどらないといけない - やさしいクマさんだ - ぼくとは、ぜんぜんちがうな - ぼくはいけないことをしたな - いいことをしたから - ウサギが喜んでくれたから - 学習用具を貸してあげた - 落とし物を拾ってあげた - 勉強を教えてあげた	○ 児童の反応を受けとめながら読み聞かせるようにする。挿絵も分割して提示する ○ 自分より弱い者をいじめておもしろがっているオオカミの気持ちを考えさせる ○ 強いクマに出会ってあわてているオオカミの気持ちを考えさせる ○ 橋の上のやりとりから、クマの後ろ姿を見送るまでを教師クマ、児童オオカミ役で、役割演技によって表現させる ☆ クマの後ろ姿を見送るオオカミの気持ちを考えることができたか ○ ウサギを渡した場面を役割演技し、親切にすると両者とも、温かい気持ちになることを感じ取らせる ○ 児童の日常生活を振り返りながら、想起させる
終末	4 教師の説話を聞く	- 親切はいいな - 親切にしたいな	○ 教師の体験を語る

〈児童の反応〉

- ・オオカミのように人にやさしくしたい。
- ・ベトナムの小学生からの色紙が嬉しかった。

〈所 感〉

一人一人オオカミの役に成り切って担任クマとの関わりを演技したのでオオカミの気持ちについて考えさせることができた。

恥ずかしさもあったが、オオカミの気持ちになって考えることができた。

気持ちを込めて作ったものを渡すと相手も



しお리를送ったお礼に色紙に名前を書いてくれました。

気持ちを込めて返してくれるという～Heart to Heart～の説話を最後に入れた。心は国境を越え、心と心は通じ合うことを少しでも感じてほしい。

5・6 限目 ベトナムの料理を作ってみよう

ね ら い：ベトナムの有名な料理をみんなで作って世界の味を感じることができる。

実施経緯：ベトナム料理「フォー」を作ることを通して日本の食べ物との共通点や相違点について考えさせていきたいと思った。

〈児童の反応〉

- ・日本の麺と似ていた。
- ・ベトナムの麺は太かった。
- ・作って楽しかった。



「フォー」美味しかったよ！

〈所 感〉

パソコンの画像で「フォー」を見せていたので、子どもたちもいつ作るのか待ちわびていた。

パッケージを見せて「日本のラーメンにもこんなものない？」と聞くと「金ちゃんラーメンと同じ」と反応が返ってきた。

その日の給食に、フォーと似たようなフィリピンのビーフンが出た。普段食べている給食のメニューにも外国の食べ物が出ていることを感じる事ができた。

8 限目 ベトナムをもっと知ろう

ね ら い：アンケートなどを踏まえて世界についてより深く考えることができる。

実施経緯：衣・食・住以外の内面的なことに目を向けさせるために、ベトナムの子どもと同じアンケートを行った結果から共通点や相違点について気づいたことを考えさせたいと思った。

学習活動	主な発問 (○)	◇指導上の留意点及び☆評価【評価方法】
1 エアメールのクイズの答え合わせをする	○ みなさんに送ったエアメールのクイズの答え合わせをしよう	◇ 3種類のエアメール葉書の写真を見せて、前時で学習したことを思い出しながら答えを考えさせる
2 本時のめあてを確認する		
3 ベトナムの子どもたちと自分たちのアンケート結果を比べる	アンケートけっかからかんがえよう。 ○ 大切なものや幸せだなと感じる時などアンケート結果から振り返ろう	◇ 声に出してめあてを言わせる ◇ ベトナムの子どもたちと自分たちの共通点や相違点などを考えさせる
4 ベトナムの子どもたちやベトナムの様子を見る	○ ベトナムの学校の子どもたちの様子やベトナムの様子を動画で見てみよう	◇ 動画を見てより深くベトナムの様子について考えさせる
5 ベトナムの遊びを紹介する	○ ベトナムの遊び「ダーカウ」をしよう	◇ ベトナムの遊びを楽しむことができる ☆ ベトナムと日本の共通点や相違点について考えることができる
6 本時を振り返る		

〈児童の反応〉

- ・ベトナムの子どもたちは、算数が好きなんだということに驚いた。
- ・ベトナムの子どもも同じように家族が大切なんだ。

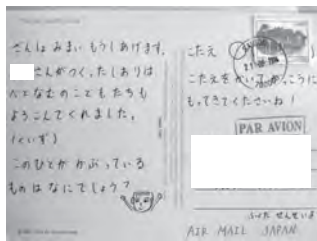
〈所 感〉

最初にエアメールのクイズの答え合わせをした。3種類の絵はがきを見せてそれぞれの写真が何だったのかをみんなで確認し合った。前時でパソコンの画像を見せていたので、もう一度確認しながら写真が何か確かめ合った。カタカナの答えばかりで外国のものだからということも説明した。

自分たちとベトナムの子どもたちのアンケート結果から気づいたことを話し合った。一番大切なものは何ですか？という質問では、「家族」と共通の答えがあった。子どもたちは、戦争がないような国というベトナムの子どもの答えに共感を得ていた。幸せだなと思うときはどんな時ですか？という質問では、家族と一緒にご飯を食べる時など家族と一緒に行動するという共通の答えがあった。

一番欲しいものは何ですか？という質問の解答にベトナムの子どもたちは、家族や勉強という解答があり、子どもたちも本当に大切なものについて気づくことも多かったようだ。

学校は好きですか？という質問では、全員が好きという解答で共通していた。好きな教科に関しては、自分たちは、図画工作、生活科、書写という答えが多かったのに対し、ベトナムの子どもたちは、算数、英語、国語、図画工作という答えが多かった。ベトナムの子どもたちは、勉強が好きなんだという感想があった。日本の子どももベトナムの子どもも真面目なんだということなど共通点があることにも気づくことができた。



9 限目 青年海外協力隊に行かれた JICA スタッフの話を聞こう

ねらい：実際に青年海外協力隊員として経験された方の体験談を聞くことで、世界を身近に感じ興味を持たせていきたい。

〈児童の反応〉

- ・ケニアの民族衣装を着て、「可愛いな」「ケニアに行ったら買いたいな」などの反応があった。
- ・ケニアの「チャイ」を飲んで「日本の紅茶と似ているな」「美味しい」などの声が聞かれた。
- ・「動物園にいる動物が身近にいるなんて」と驚いていた。

〈所 感〉

青年海外協力隊員としてアフリカのケニアとブルキナファソで村落開発普及員として活動された JICA スタッフの話を聞くことができた。最初にアフリカの場所を地図で確認し、衣・食・住の話を画像も交えてクイズ形式で楽しく話をしてくださった。

ケニアの小学校の様子も見て、床が土であることに驚いたりしていた。校舎は「自分たちの校舎と似ているな」という感想もあった。ケニアの民族衣装を一人一人着て、着たことのない衣裳を着ることで実体験ができたことが良かった。ケニアの「チャイ」を最後にみんなで飲んだ。終始、目をキラキラ輝かせながら、話を聞いていた。国語の「サラダでげんき」でアフリカぞうの話が出たり、「はがぬけたら どうするの」で世界の様子を学習するので、世界に興味を持ちながら学習ができるので、他教科との関連学習にもなった。

民族衣装
可愛かったよ！



14 限目 2年生の前で発表しよう

ね ら い：ベトナムの十二支の話を読んだりいろいろな種類の世界地図を見たりしていろいろなものの見方や個性を大切にする。

実施経緯：中国から伝わった干支の話で日本の十二支とベトナムの十二支では違うことを話すと、“ねこ年があるんだあ”と子どもたちは驚いていた。なぜ身近なねこが十二支に入っていないのかを知らない子どもたちも多かった。そこで十二支のお話のベトナムヴァージョンで紙芝居とペープサートを使って2年生を対象に発表させたいと思った。日本の十二支が世界共通のものではないことを理解させ、世界地図も日本が逆さになっているものもあることなどを知らせ、多様なものの捉え方をさせたいと思った。

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	●指導上の留意点
導入	2年生にベトナムの十二支のクイズを出す	○ベトナムの十二支では、ウサギの代わりに何がいるでしょうか	●みんなが知っていて身近な動物などヒントを出す
展開1	1年生がペープサートを使って紙芝居をする 感想を聞く	じぶんがいのほかのひとやものにめをむけてみよう。 ○ベトナムの十二支のお話を1年生に発表してもらいましょう ○2年生はお話を聞き、答えを確かめましょう ○お話を聞いて感想を言いましょう	●自分の持つ動物のペープサートなど役割分担をさせておく ●しっかり話を聞くようにさせる ●分かったことや思ったことなど何でも話そうにさせる
展開2	簡単なアクティビティと不思議な絵を見せる 日本が逆さになっている地図を提示する	○指を時計周りに回して徐々に下げていきましよう ○何が見えるでしょう ○地図を見て思ったことを言いましょう ○ことばや服を見て思ったことを言いましょう	●指の回転が変わることに気づかせる ●見方を変えると色々な物が見えてくることを感じさせる ●日本がどうなっているのか、日本で見る通常の世界地図と比べて考えさせる ●ことばや服を見て日本との違いなど考えさせる
まとめ	世界7カ国の言葉を使って歌を歌う 振り返りをする	○みんなで1・2・3を歌いましょう ○思ったことを言いましょう	●はっきりと外国の言葉を言わせる ●思ったことを振り返る

〈児童の反応〉

- ・2年生の前で楽しく発表することができた。
- ・2年生の反応が良くて嬉しかった。

〈所 感〉

2年生の前で、ベトナムの干支の話を発表した。今まで練習してきたことを一人一人がそれぞれの動物の役をペープサートを使って発表した。2年生から「1年生が一生懸命発表してくれました。」「ベトナムと日本の十二支が違うことが分かった。」「ペープサート劇が楽しかった。」などの意見が返ってきた。

気持ちを込めて最後に「みんなで1・2・3 ♪」を合唱したり、合奏したりした。

世界の各国の1・2・3を旗を振って歌ったり、すずやトライアングルの演奏したりした。2年生の前で練習の成果を生かして発表できたことが大きな自信になったようだ。

ペープサート劇や合唱・合奏をしました。



15 限目 ベトナム 1 周旅行をしよう

ね ら い：レヌカの学びやベトナム一周すごろく遊びを通して、ベトナムを身近に感じ、日本をもっと身近に感じ取ることができる。

実施経緯：今までの学習をクイズ形式にして振り返るようにしていった。クイズ形式にして日本と外国の相違点や共通点について迫る形で授業を展開していこうと考えた。

学習活動	主な発問 (○)	◇指導上の留意点及び☆評価【評価方法】
1. 「くじらぐも」を読む 2. 本時のめあてを確認する 3. 「みんなで1・2・3 ♪」を日本語、ベトナム語、英語で歌う 4. ベトナム1周旅行をいろんな問題に取り組みながらする レヌカの学びを行う 5. 本時を振り返ることができた	○「くじらぐも」に乗っている自分を想像しよう ベトナムをしり、にほんをもっとしろう。 ○「みんなで1・2・3 ♪」を歌おう ○ベトナム1周旅行をしよう	◇「くじらぐも」に乗っている自分の姿を想像することができる ◇声に出してめあてを言わせる ◇日本、ベトナム、アメリカの3ヶ国の言葉の1・2・3を伴奏に合わせて歌うことができる ◇3ヶ国に関する子どもや学校の様子、国語、算数などの問題に取り組むことができる ◇各分野の問題が3ヶ国のどの問題か分別して最後に組み合わせ（レヌカの学び） ☆レヌカの学びをして感想を言うことができる

〈児童の反応〉

- ・知らないことがたくさんあった。
- ・“アメリカ”“ケニア”など他の国のことを知りたい。
- ・日本のことを知りたい。

〈所 感〉

今まで学習したことを振り返る学習をした。くじらぐもに乗ってベトナム1周旅行をする形式で授業を展開した。日本、アメリカ、ベトナム3カ国の衣・食・住、スポーツ、お金などのクイ

ズやベトナムの国語や算数の問題に取り組んだ。いろんな問題を日本、アメリカ、ベトナムに関するものの箱に入れていき、最後に裏返すとそれぞれの国のキャラクターが出てくるゲームも楽しんで行っていた。

また、みんなで1・2・3を世界7カ国の1・2・3の言葉で歌った。「3カ国共通して一番大切なものは何ですか？」の問いに「くに」と答えが返ってきた。ベトナムの小学5年生のアンケートの中に「国」（戦争がなく平和）という答えがあったのが印象に残っていたようだ。

日本と外国では、相違点もあるけどどの国も気持ち（心）があることが分かったのではないかなと思う。子どもたちは、とても主体的に楽しんで活動することができた。



歌にクイズに楽しみながら
一生懸命頑張りました。

16 限目 今までの学習を振り返ろう

ね ら い：今まで学習したことを振り返り、自分を見つめることができる。

実施経緯：学習したことを写真を使いながら、振り返っていこうと思った。学習した内容を項目ごとに書いた内容のプリントを使って自分で分かったことを文で書くことで振り返りまとめさせようと考えた。

〈児童の反応〉

- しおりをつかって
 - ・気持ちを込めて作ることができた。
 - ・キャラクターを描いて作ったのが楽しかった。
- ベトナムの子どもたちから色紙をもらって
 - ・ベトナムの名前が書いてあったので驚いた。
 - ・ベトナム語で分からなかったけど嬉しかった。
- フォー作りをして
 - ・最初はどんなご飯か分からなかったけど食べてみて美味しかった。
 - ・日本のラーメンと違っていた。
- ケニアの話を聞いて
 - ・象がいるとは思わなかった。
- ペープサート劇（ベトナムの干支）をして
 - ・台詞を覚えたら楽しくできた。
 - ・日本と近いのに干支が違っていて驚いた。
- みんなで1・2・3♪をうたって
 - ・外国の1・2・3の言葉が分かった。
 - ・寂しい時もみんなで1・2・3♪を歌うと元気が出る。
- くじらぐもをつかって
 - ・くじらぐもに乗ってみたいと思った。
- ベトナムの話をきいて
 - ・田んぼに墓があって驚いた。
 - ・バイクの乗る時にマスクをしていることに驚いた。
 - ・ベトナムの干支に猫がいることに驚いた。
 - ・お金（札の絵柄）が全部ホー・チ・ミン（の肖像）だから驚いた。



〈所 感〉

項目ごとに学習したことを振り返りながらまとめることで自分が分かったことや気づいたことなどを振り返ることができたのではないかなと思う。自分で気づいたことを書くことで子どもたちの中でも整理でき、感想を共有し合うことでまとめ学習としては意義があったと思う。

17 限目 川柳を作ろう

ね ら い：今まで学習したことを振り返り、「5・7・5」の川柳づくりをすることができる。

実施経緯：運動会や行事などで川柳を作ることは、子どもたちは慣れていてこれまでもいろんな川柳を作ってきた。学習した内容から一つテーマを絞って川柳を作ることが子どもたちにも楽しい振り返りになるのではないかと考えた。

〈児童が作った川柳〉

アオザイを さわってみたい きてみたい／ベトナムの フォーをつくり おいしいよ
ベトナムの えとののはしを つたえたよ／ダーカウをし すごくたのしい うれしいな
ベトナムの すごろくゲーム たのしかった／みんなで しおりをつくり おくったよ
オレンジの ケニアのふくは かわいいよ

〈所 感〉

ベトナムのこと、世界のことにについて学習したことを振り返りながら川柳を作った。本校では、「5・7・5」で川柳を作ることに取り組んできたので、川柳を作ることに慣れている。クラスの子が7人なので、7種類の内容に分けて川柳作りを行った。

川柳作りを通して子どもたちは、今までの学習を振り返ることができたり、深く学びたいという意欲を持ったりしたようだ。自分が作った川柳に絵も描いて楽しく活動でき、まとめの学習になった。



全体を通しての成果と課題

今回の研修は海外であるベトナムで、対象学年は1年生。どんなことが子どもたちにとって分かりやすく興味を持ってもらえるか、現地の人に積極的に話をし、写真や物品購入などで資料を収集してきた。学んできたものをしっかり子どもたちに伝えられたか、授業を展開していく中で子どもたちの様子を見ていく中でどうだったか、という点も多々あったと思う。ただ、衣・食・住は世界共通の話なので、そこを切り口にして子どもたちに考えさせていった。最後に授業実践の中で見えてきた成果と課題について述べる。

成果としては、以下の点が挙げられる。

①世界に興味を持つ児童が増えたこと

- ・本校で取り組んでいる朝のトラック5周走るランランランニングで毎日世界地図のカードに1ヶ国ずつシールを貼っているが、「今日はイギリス」など正解の国名に興味を持った。
- ・外国語活動のALTの故郷「カナダ」や英語にも興味を持つ児童が増えた。
- ・ベトナム料理「フォー」作りを通して、給食に「ビビンバ（韓国料理）が出た」、「ナン（インド料理）が出た」、「ピーフン（フィリピン料理）が出た」など給食を楽しく食べるようになった。

②民族衣装に興味を持った。

- ・JICAの出前講座で「ケニア」を紹介していただいたことでケニアの衣・食・住に興味を持った。
- ・ケニアの民族衣装を試着したことが子どもたちには、思い出になりとても良かった。
- ・アフリカの動物や学校を動画などをクイズ形式で紹介していただいたことで楽しく学習ができた。

③他教科の学習とも関連して授業を展開できたこと

- ・国語の「サラダでげんき」の話では、「アフリカぞう」が出てきて出前講座で話をされたことを覚えて

いて「アフリカぞうは、18時間かかってりっちゃんの家まで行ったんだ。」と授業の時に話が出てきた。

- ・音楽で「みんなで1・2・3」のうたを日本、アメリカ、ベトナムなど7ヶ国の言葉で「1・2・3」を旗を振りながら楽しく歌うことができた。
- ・「くじらぐもに乗って世界へGO!」というテーマで学習してきたので、協力し合ってくじらぐもの絵に綿を貼って共同制作を作ることができた。

④世界の遊びに興味を持った。

- ・ベトナムの蹴る遊び「ダーカウ」を通してどこで蹴ったら上がるかということを考えてサッカーのインサイドキックにつながる学習になった。

一方、課題は以下の点が挙げられる。

①研修で学んできたことを子どもたちに還元していく教材づくり

- ・研修でたくさんのことを見たり聞いたりしたことを精選しながら授業の単元計画を立て授業を行ったが、学んだ内容と子どもたちに伝える内容には大きな隔たりがあったと思う。

②児童の実態にあう授業の工夫や教材づくり

- ・ベトナム（外国）と日本の違いに目が行きがちだった。ベトナムの子どもたち（小学5年生）と自分たち（小学1年生）で同じアンケートを行って考えさせたが、学年差もあったりして比較して考えるのが難しかった。
- ・衣食住について興味を持ったりしたが、学年実態から表面的な内容になってしまい、日本と違って珍しいなど興味は持ったが、違いだけに終わってしまったと思う。

③学習したことを実生活に生かすための指導法の工夫

- ・例えばベトナムの水やごみ事情を切り口にして学ばせてから自分たちにできることは、何だろうかと考えさせて行動に移すような授業実践ができなかった。

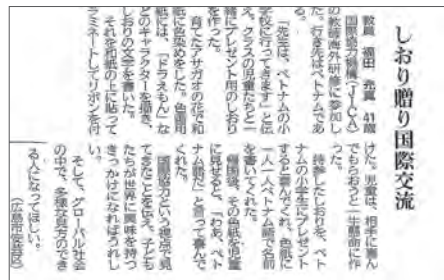
成果と課題を列記したが、子どもたちが学んで感じたことや思ったことは十人十色だと思う。

子どもの感想の中に「ベトナムに行ってみたい」、「英語を勉強したい」という言葉があった。

自分自身、教科指導と違い試行錯誤しながら授業実践を行った。国際理解教育の実践は、まだ開発の余地が多いと思う。教育公務員特例法に「教職員は、絶えず研究と修養に努めていかなければならない」とあるように今後もグローバルな視点で授業実践しながら研修を深めていきたい。そして今後、グローバル化が進む社会の中で多様な見方のできる人に今の子どもたちには育ってほしいと思う。

研修をして率直に感じたこと、これから授業を展開していく際に思ったことを書き、中国新聞に投稿した。

『9月15日（月）の中国新聞の「広場」の投稿欄』



参考資料

【書籍】

- ・「JICA 中国 平成 24 年度、25 年度 ベトナム教師海外研修 参加型で学ぶ国際理解教育授業実践報告書」
- ・「国際理解教育指導事例集」文部科学省
- ・「地球の歩き方 '13～'14 ベトナム」ダイヤモンド社
- ・「メナムよ永遠に～バンコク日本人学校実践記」岡山真崇・谷中龍三編書 創友社
- ・「世界の子ども遊び事典」馬場桂一郎・岸本肇編書 明治図書
- ・「十二支のはじまり」岩崎京子・文 二俣英五郎・画 教育画劇

【インターネット】

- ・文部科学省 HP
- ・ JICA 中国 HP

参加型手法を取り入れた

授業実践例

中学・高校編

教員および生徒の原文をそのまま掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

国際理解学習（国際協力・平和）

広島市立翠町学校 担当教科：英語・道徳・総合・学活・言数

宗本 千鶴

実践学科：英語・道徳・学活 対象学年：中学2年生 対象人数：160名

国際理解学習（国際協力）

ねらい

- 外国の風土や独自の文化・生活に触れることで、外国に対して興味・関心を高める。
その国の実情を理解する。

↓

- 国際協力にはどんなものがあり、どのような成果を生み出しているのか、また、意味のある国際協力を進めるためにはどんな注意が必要か、そして、国際協力の機会は、身近なところにもあることに気づく。
- 国際協力について幅広く知り、国際協力に対する興味関心を育てる。
- 互いに補いあう対等な関係であることに気づく。
- 途上国の貧困問題について知り、先進国の生活が大きく関わっていることを知る。
- 世界の不平等解決のために私たちが何をしなければならないのかについて考える。

↓

- ベトナムの人、ベトナムで働く日本人の姿から、働くことの意義ややりがいを考える。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	国際理解 (世界を知ろう) 【英語】 ・世界の国に興味を持つ ・国の背景に存在する情報を知る	(1) ベトナム・シンガポール・日本の写真を見て、それぞれがどこの国かを想像し、その理由を話し合う グループ学習 (2) 3か国の衣食住・建物などに関する英文でのクイズを行う グループ学習	(1) 3か国の写真 (2) パワーポイント
2	国際協力 0 【道徳】 ・世界を知る	講和を聞く 「共に生きる地球市民として ～Hunger Zeroを目指して」 田村治郎さん (日本国際飢餓対策機構 国内啓発総主事)	・プロジェクター（スクリーン） ・パソコン ・マイク
3	国際協力 1 【道徳】 ・さまざまな分野で行われている国際協力活動を知る	(1) -この曲の生まれた背景は？ 『We are the World』を視聴（9分）する (2) 国際協力にはどんな活動があるのかな？ ODAを始めユニセフやユネスコ等の紹介 様々な人が行動している現状を知らせる (3) 「世界に国際協力がなかったら？」（15分）	(1) 資料 『We are the World』 (2) 資料 「国際協力に取り組む人々」 (3) 模造紙（半裁）
4	国際協力 2 【道徳】 ・国際協力の必要性について考える	国際協力や国際援助は互いのメリットにつながり、互いにとって必要であることを知る (1) 「援助は誰のため、何のため？」（40分） (2) 自分たちができる国際協力とは？（10分）	(1) 模造紙（半裁） (2) ワークシート
5	国際協力 3 【道徳】 ・途上国の貧困について知る	(1) チョコレートがどんな手順で作られるか考える (2) カカオ豆生産についての問題点は何か考え、その関係を線で結ぶ (3) VTR『世界が100人の村だったら』 「ガーナ/チョコレートって何？カカオ農園で働き続ける兄弟」視聴	・カカオ写真 ・ガーナチョコレート (1) (2) 製品化カード10枚 問題点カード10枚 カードを貼る台紙 カカオの写真シート (3) VTR

6	国際協力 4 【道徳】 ・世界の「不公平」「不正」への「解決策」を考える ・世界の人々と共に生きるために、自分たちにできることは何か考える	(1) クイズ「世界は今…」を考える (2) 南北問題について説明する (3) 世界の「不公平」を解決するにはどうしたら良いか解決策を考える (4) 日本も援助を受けていたことを知る (5) 世界の誰もが幸せになるために・・・ ・今の私ができること、・未来の私ができることを考えて書く	(1) ワークシート (2) 図「シャンパンガラスの世界」 (3) 記入用紙「世界の誰もが幸福になるために」(班1枚) (4) 記入用紙「世界の誰もが幸福になるために」(1人1枚)
7	国際協力 5 【学活】 ・JICAの活動紹介をする ・ベトナムで働く日本人を紹介する ・ベトナムで働く日本人の生き方に学ぶ (働く意義・やりがい)	(1) JICAの活動や援助国の現状について知る VTR『ODAって何だろう／政府開発援助の現場から』を視聴(23分)する (2) ベトナムで働く日本人を紹介する (3) 情熱ややりがいを持っていることを知る 国際的に通用する人は、日本のこと世界のことをよく知っており、日本でも通用する力を持っている人 ベトナムで働く人の思いを紹介する 3年で進路学習について詳しく学ぶこと いろんな生き方があることを伝える	(1) VTR (2) パワーポイント

3 限目～4 限目 国際協力とは？

2 年 道徳（国際理解学習） 学習指導案

ねらい

- 国際協力活動についてのイメージを膨らませる。
- いくつかの国際協力団体の活動について具体的に知る。どのような成果を得ているのかを知る。
- 国際協力や国際援助は互いのメリットにつながり、互いにとって必要であることを知る。
- 国際協力活動は多様であることを知り、自分にもできる活動があるという認識を育てる。

2005年9月に発表された国連開発計画の『人間開発報告書2005』によれば、世界の人口64億6500万人の4割に当たる約25億人がいまだに貧困（1日2ドル未満の生活）にあえいでおり、毎年約1000万人の乳幼児（5歳未満）が栄養不良、感染症、清潔な水の不足など、予防可能な原因で死亡しており、1億1500万人の子どもが未就学のみである。

こうした緊急性を持つ問題の解決のための方法のひとつが「国際協力」「国際援助」である。しかし、「国際協力」や「国際援助」という言葉はよく知られていても、具体的にはどのような人々が真に援助を必要とし、どのような援助活動が行われ、どのような成果を上げているのかは、あまり知られてはいない。また、生徒自身との関わりという意味では「募金」以外にはあまり考えついでいない現実もある。

今回の学習は、これまでの国際理解学習を土台にして、独立行政法人国際協力機構（JICA）及び開発途上で活躍する日本人を中心に紹介し、国際協力・国際援助とはどういうものか、また自分たちには何ができるのかについて考えさせたい。

学習日程（2時間）

日 時	内 容
【第3次】 道 徳	① 国際協力1（国際協力の活動内容） ・さまざまな分野で行われている国際協力活動について知り、関心を持つ。 ・世界に国際協力がなかったらどうなるか考える。
【第4次】 道 徳	① 国際協力2（国際協力の必要性） ・国際協力や国際援助は互いのメリットにつながり、互いにとって必要であることを知る。 ・自分たちにできる国際協力について考える。

学習展開

【第3次】

- 【目標】 ・さまざまな分野で行われている国際協力活動を知り、関心を持つ。
 ・世界に国際協力がなかったらどうなるか考える。

学習の展開	学習支援の留意点
・VTR『WE ARE THE WORLD』を視聴する。(9分) この曲の生まれた背景は？ 【資料①】 ・資料をもとに、政府開発援助（ODA）を始めユニセフやユネスコ等さまざまな団体が国際協力や国際援助の活動を行っていること、また、さまざまな立場の人々が行動を起こし始めている現状を伝える。 ① JICA の活動・・・青年海外協力隊 他 ② ユニセフの活動・・・緊急援助 他 ③ ユネスコの活動・・・世界寺子屋運動 他 ④ 日本国際飢餓対策機構の活動・・・世界里親会 他	・資料「WE ARE THE WORLD」 ・資料「国際協力に取り組む人々」 ・ODA だけの援助では、質的にも、量的にも、不足しているのが現状である。 ・JICA 「独立行政法人 国際協力機構」 昨年度の国際理解学習でお話を聞いた濱長真紀さん達の活動 ・UNICEF「国際連合児童基金」 ・UNESCO「国際連合教育科学文化機関」 ・9月の国際理解学習でお話を聞いた田村治郎さん達の活動 (英語教科書 Program3 Charity Walk の振り返り) ウォーク・ザ・ワールド（アメリカ）世界イベント 集まった寄付金によって配られた給食を食べる子ども達（ハイチ）
【派生図】 「世界に国際協力がなかったら」 ・各班に模造紙（半裁）を配布し、その中心に「もし、世界に国際協力がなかったら」と書き、起こりうる状況を派生的に書き出す。 ・各班が書き出した模造紙（半裁）を教室や廊下に掲示し見ておくように伝える。	* 派生図 あるテーマに関して、それがどんなことにつながるのか、何が原因といった因果関係を派生させて模造紙に書き出していく。模造紙の真ん中にテーマを書き、そこから7つ以上派生させ、それぞれから3つ以上派生させていくと広がりイメージを持ちやすい。

【第4次】

- 【目標】 ・国際協力や国際援助は互いのメリットにつながり、互いにとって必要であることを知る。
 ・自分たちにできる国際協力について考える。

学習の展開	学習支援の留意点
【対比表】 「援助は誰のため、何のため？」 ・各班で「国際協力・国際援助のよいところ」を ① 相手にとって、② 日本にとって、③ 自分にとって、④ 未来にとっての四つの視点から考える。 ・模造紙（半裁）を四つに仕切り書き出していく。 ① 相手にとって 【例】 ・生活が改善する ・教育環境が良くなる。 ・産業が発達する。	・意見が出にくいようなら、具体的な活動の一つ決めて、その活動について考える。 ・【世界に国際協力がなかったら？】を参考にする。 ② 日本にとって 【例】 ・日本の国際的評価が上がる ・日本人が好かれる ・世界が平和になる ・日本の産業の利益にもつながる ・日本にとってもプラスになる
③ 自分にとって 【例】 ・人とのつながりが得られる ・達成感が得られる ・自分の知識・技術が生かせる ・それぞれの視点から考えられる良いところを発表し、共有する。 ・教師は各班の発表を黒板に書き出し、まとめる。 ・自分たちにできる国際協力は何か考え書く。	④ 未来にとって 【例】 ・環境保護につながる ・相互理解が増す ・戦争がなくなる ・班での作業、学級への発表の中で、国際協力・国際援助は互いのメリットにつながり、互いにとって必要であるということに気づかせたい。 ・この模造紙（半裁）は学習の終わりまで教室や廊下に掲示する。

6 班

■この授業に注目！

5 限目～6 限目 世界の誰もが幸福になるために

ねらい

- 世界に関心を持ち、地球市民的視点から世界を見る眼を培う。
- 世界の人々と共に生きるために、自分たちにできることは何か考える。

今回の国際理解学習では、現代の世界の抱える大きな課題の一つとして「南北問題」を取り上げる。地球市民として生きるために、私たちが取り組むべき共通の課題は、貧困・難民・飢餓・人権・環境などと多岐に渡っている。そんな中、今日のグローバリゼーションの波は、南北格差を拡大し、富めるものと貧しいものとの不正感を高めている。

今回の学習では、世界規模の「富の偏在」とその構造、つまりは途上国の貧困問題と私たち先進国の生活が大きく関わっていることを知り、その解決のために私たちが何をしなければならないのかについて考えることとする。

学習展開

【第5次】

学習の展開	学習支援の留意点
・（事前に何も話さず）「これ（猪口令糖）は何と読むのでしょうか？」チョコレート ・これからチョコレートについて学習することを知らせる（ガーナチョコレートの現物を見せる）	・「猪口令糖」…日本初のチョコレートは、1877年に東京両国の米津風月堂から発売された。 ・準備物…カカオの写真シート ガーナチョコレート
世界の多くの人に愛されているチョコレート、その原料となるカカオはそのほとんどが西アフリカで生産されている。それならきっと、西アフリカの人々はカカオの輸出で豊かな暮らしをしているだろうと思えるが、実際にはそうではない。なぜ、カカオを生産している農民は豊かにならないのだろうか。	
・チョコレートがどんな手順で作られるのかを考えてみよう。 各班で、「チョコレートジャーニー（カカオがチョコレートになるまで）」を考えて、台紙にカードを並べて貼っていく。 各班の台紙を発表する。写真を見せながら、カカオがチョコレートになるまでを説明する。 ・各班で「カカオ豆生産についての問題点」カードを読み、一番の問題点は何か考え、その関係を線で結びながら台紙に貼る。 結果として苦しい状態にあるカカオ豆農民が良い状態になるにはどうすればいいか。カカオ貿易のなかにある問題点の解決策について討論し記入する。 各班の台紙を発表する。 ・VTR『世界が100人の村だったら』『ガーナ／チョコレートって何？カカオ農園で働き続ける兄弟』（編集版／8分）視聴 （アベティ11歳・コフィ6歳）	・班隊形 準備物 製品化カード10枚【ワークシート①】 問題点カード10枚【ワークシート②】 カードを貼る台紙【ワークシート③④】 カカオの写真シート ・台紙の中央に一番の原因だと思うカードを貼り、線で結びながら周囲に他のカードを貼っていく。 ・どれが正しいというような評価はしない。考える過程を大切にする。 ・資料「チョコレート工場の秘密」の終末部分を教師が読み、アフリカ西海岸でのカカオ豆生産に関わる問題点について説明する。 先進国に決定されるカカオ豆の価格 児童労働・子ども奴隷… 教師用資料「チョコレートの歴史・フェアトレードとは？」
チョコレートとは	
カカオ豆を炒って粉にし、砂糖と牛乳と… そして、アフリカの子どもの汗と血と涙を加えたもの	

・田村治郎さんの講演を思い出させる。 貧困、飢餓、戦争、子ども兵…。 ・世界にはたくさんの課題があること、そしてその課題は途上国に集中していることを知らせる。(その中でも、最も辛い思いをしているのは、子ども、女性、年寄り…) 知っておかなければならないことは、	・特設道徳 (9/30) 「共に生きる地球市民として」 【資料②】 ・教師用資料「サッカーなんか、したことないよ」 ・国際労働機関 (ILO) 報告書 (2013 年) によると、全世界の児童労働者推計は 1 億 6795 万人。
途上国の人々の苦しみは、先進国の人々の豊かな暮らしと無縁ではない。	
・そうだとすれば、私たちはどうすれば良いのだろうか。私たちに何ができるだろうか？	・次時に考えることを予告する。

〈生徒の反応〉

・自分たちが作っているものが、甘くておいしいチョコレートだということも知らないで働いていることに驚いた。

〈所 感〉

導入で漢字の読み方を聞いたり、カードを並べたりして、生徒は楽しそうに活動していた。南北問題をおさえることができ、2 時間目の内容としては良かった。V T R を真剣に見ている姿が印象的であった。

全体を通しての成果と課題

班活動を行いそれぞれの思いや意見を交流できたのは良かったが、班活動ではじめがつかなくなった面もあった。準備物が多く準備は大変であったが、生徒が興味を持って取り組める教材であると感じた。

5 限目～6 限目 世界の誰もが幸福になるために

学習展開

【第 6 次】

学習の展開		学習支援の留意点	
・前時の話を、数字を使ってまとめてみよう。 ・クイズ「世界は今…」シートを全員に配布し、各自で解答を考える。【ワークシート⑤】		・100 人に換算した数字のみを答えさせる	
もし世界が 100 人の村だったら・・・		世界の人口が 100 人の時	世界の人口が 65 億人の時
A	開発途上国に住んでいる人は何人でしょう？	80 人	約 52 億人
B	読み書きできない大人は何人でしょう？	15 人	約 10 億人
C	適切な住居を持たない人は何人でしょう？	17 人	約 11 億人
D	40 歳まで生きられない人は何人でしょう？	13 人	約 8.5 億人
E	1 日 1 ドル以下で暮らしている人は何人でしょう？	20 人	約 13 億人

・一問ずつ答え合わせをしながら解説する。 ・「南北問題」について説明する。	・100人に換算した数字だけでなく、実数も挙げ、日本の人口等と比較などして、それがどれだけ大きな数字であるかに気づかせる。 ・図「シャンパンガラスの世界」（模造紙半裁大）を掲示する。
【南北問題】先進国の約20%の人々が世界の富（GNP）の約80%を占め、80%の人々が残りの20%の富（GNP）を分け合うという極端にアンバランスな世界の経済構造（「シャンパンガラスの世界」）によって生み出されている貧困などの問題をいう。先進国と言われる国々が世界地図で北側に多く位置し、開発途上国が南側に多いことから「南北問題」と呼ばれている。東西冷戦が終結した現在、世界の最も大きな共通の課題と言ってもよい。先進国のエネルギー消費は環境問題の背景ともなっている。	
・この世界の「不公平」「不公正」を解決するには、どうしたら良いだろうか。その「解決策」を考えてみよう。 (各班で必ず5つ以上考える) ・各班は考えた意見を発表する。	【ワークシート⑥】 ・記入用紙「世界の誰もが幸福になるために」（班1枚）を配布する。 ・ここで何らかの結論を出すことを目的とした討議ではない。考えるプロセスを大切にしたい。 ・各班で必ず5つ以上出すことを要求する。 ・「募金する」「援助する」は必ず出てくる方法である。それに加えての方法を考えさせる。 ・模範的な回答でなくてもよい。きれいごとにと終わるのではなく、「私たちに、今の豊かな生活は捨てられない。」ことを前提にした論議、「どうしようもない。」「しかたがない。」という意見も排除しない論議が望ましい。多様な意見が出せる雰囲気作りに努めたい。
・世界の様々な人々も、この世界の「不公平」「不公正」を解決するために取り組んでいる。資料をもとに、政府開発援助（ODA）を始めユニセフやユネスコ等さまざまな団体が国際協力や国際援助の活動を行っていること、また、さまざまな立場の人々が活動している現状を再確認する。 ① JICAの活動 … 青年海外協力隊 他 ② ユニセフの活動 … 緊急援助 他 ③ ユネスコの活動 … 世界寺子屋運動 他 ④ 日本国際飢餓対策機構の活動 … 世界里親会 他 ・第二次世界大戦が終わった後、全土を焼き尽くされてしまった日本が立ち直ることができたのは、海外から多くの援助を受けたからだったことを知らせる。 ・東日本大震災の時、日本は世界中の国々から支援を受けた。少し前に災害にあった国（ハイチ・インドネシア等）や、戦争・紛争の中にある国（アフガニスタン・イラク等）も支援をしてくれたことを知らせる。 ・まとめとして、ワークシートに記入する。 世界の誰もが幸福になるために… 【ワークシート⑦】 ・今の私ができること… ・未来の私ができること…	・教師資料「国際協力に取り組む人々」 ・ODAだけの援助では、質的にも、量的にも、不足しているのが現状である。 ・3年になって改めて学習する。 ・JICA「独立行政法人 国際協力機構」 ・UNICEF「国際連合児童基金」 ・UNESCO「国際連合教育科学文化機関」 ・田村治郎さん達の活動。 【資料③】 ・教師資料「日本も受けていた国際援助」 「情けは人のためならず」という言葉を紹介しても良い。 ・当時、支援してくれたのは157カ国・地域（国連加盟国数192国） 教師資料「支援国リスト」 【参考】Global Express SAMPLE Vol.14 「東日本大震災 世界からの援助」（開発教育教材） ・班で考えた内容と重複して良い。 ・学習後は教室掲示して、学級全体で共有する。

〈生徒の反応〉

・少しのお金でも募金をする ・チャリティに参加する ・ボランティアを増やす ・ボランティア活動に参加する ・青年海外協力隊としてボランティアに行く ・役に立つことをする ・ペットボトルのふたを集める ・食べ物や服を寄付する ・フェアトレードの商品を買う ・食べ物を味わって食べたり、残さない ・物を大切に使う ・電気をこまめに消す ・感謝する ・世界の出来事を知る ・実際にその国へ行って状況を知り活動する ・世界の人のことを気にかける ・一人ひとりに思いやりをもつ ・差別、いじめ、嫌がらせをしない ・困っている人を積極的に助けられるようになる ・身近なことから嫌なことをなくす ・いじめを見逃さないことも大切 ・人種差別をしない ・平和を伝える ・援助をする ・発展途上国の技術を発展させる（先進国が手助けをする） ・戦争をなくす ・水をきれいにする ・薬を配る ・皆に働く場所を与える ・仕事を与える ・働く量に適した給料をだす ・給料を平等にする ・給料を上げる ・子供が働かなくていいような世界にする

〈所 感〉

南北問題を考える時間で、グループで解決方法を考えた。生徒たちは「誰もが幸福になるために」を班でよく考えていた。また、今の私ができること未来の私ができることを個人で書かせた。想像していた以上に真剣に考え良く書いていた。教室に掲示することで、自分以外の考えも知ることができ発見や気づきもあったようである。

全体を通しての成果と課題

成 果・・・知らない世界について知識を増やし、真剣に考えることができた。私達のあたりまえの生活があたりまえではないことに気づくことができた。

課 題・・・小グループでの活動のため、教材の準備物や量が多く大変であった。

7 限目 外国で働く日本人の生き方に学ぼう

ねらい

○社会に貢献することと自分自身の生きがいについて考える。

今回の学習は、これまでの国際理解学習を土台にして、独立行政法人国際協力機構（JICA）の活動や援助国の現状について知り、開発途上国で活躍する日本人（ベトナムで働く日本人）の姿から、「ひとの役に立つ」ということと「自分自身の生きがい・やりがい」を考えさせる一つの機会としていきたい。その意味で、この学習は進路学習の一つとしても位置づけられる。

学習展開

【第7次】

学習の展開	学習支援の留意点
・ VTR 『ODA って何だろう／政府開発援助の現場から』を視聴する。（23分）	・ JICA 製作 1997 年
・ ベトナムで働く日本人を紹介する。 視聴覚機器（パソコン・テレビ）を使用する。 (1) 保健・医療分野ワクチン製造 ←感染症予防のため (2) 下水処理場 ←清潔な水のため (3) エスハイ ←教育	
・ ベトナムで働く人の思いを読む。 国際人に必要な力とは？ ・ 感想や質問を書く。	

- 学習のまとめとして、学級担任から、国際協力のこと、ボランティアのことについての思いを語る。

「発展途上国への援助が我が国にとってもプラスになるように、困っている人々への手助けは私たちにもたくさんのことを与えてくれる。」等

東日本大震災（2011）時には 157 の国・地域が日本へ支援を申し出てくれた。先進国のみならず途上国からもたくさんの支援を受けていた話を思い出させる。

- 「他者への貢献を、自らの喜びとする」ことも「生き方」の一つであることについて考えさせたい。
- なお、今回の学習は、国際理解にかかわる学習の締めくくりともなるが今後も「生き方を考える」＝進路学習の一環として、話題にしていってほしい。

- Win Win の関係を伝える。

国際理解学習（平和）

1 限目～5 限目 世界に訴えよう 平和の大切さ

ねらい

- 平和への意識の高揚や英語力の向上を図るとともに、グローバル人材の育成に努める。
- ベトナム戦争について知り、平和への自分の願いを書く。
- 広島の中学生として、平和メッセージを考えて、世界の人に伝える。

戦争の悲惨さを学び、平和を願う気持ちを高めていきたい。今も続く戦争に対して関心を高め、どんな暴力も許さないという思いを強めさせたい。

世界で唯一の被爆国である日本。世界でたった 2 つの平和憲法（戦争を放棄している）を持つ国の 1 つである日本。その日本に住む私たちが、広島に住む私たちが今しなくてはならないことは何か考える。

ヒロシマに落とされたものの何百倍もの威力を持つ原子爆弾が何百とあふれ、今なお研究開発、そして実験が繰り返されている地球上で私たちががしがないといけないことは何なのかと訴える。

色々な理由で原爆の、核の持つ恐ろしさ、悲惨さが世界中に、特に、今核を持つ国々（アメリカ・中国・ロシア・インド他）に伝えられていないのが現状である。核のおそろしさ、非人道性を伝え、平和の大切さを訴えたい。

学習のまとめとして、「もう二度と戦争が起きないように、平和を望む私たちの声を世界に向けて発信しよう」ということで平和メッセージを書く。広島市教育委員会主催の、中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」によくできた作品を応募する。

1 時間目 ベトナム戦争について知る

A Child's Wish という平和を願う英詩を生徒に紹介し、音読をした後で訳す。そして最後に、自分自身の今の願いや思いを書く。

“What can I do to make the peaceful world? “（平和を実現するために自分にできること）というテーマでメッセージカードを書く。

2 時間目 戦争についての物語 “A Mother's Lullaby “（お母さんの子守唄）を読み、訳をする。

3 時間目 接続詞 that 構文の学習 I think(hope) that ～で自分の意見や願いを表現する練習などを行う。

4 時間目 歌『Imagine』を紹介し、音読をした後で訳す。一緒に歌いながら、平和への思いを共有し合う。

5 時間目 英語でメッセージを書く。

Peace Message to the World（世界に向けての平和メッセージ）

テーマ

これまでの学校や家庭での学習や体験を通して、平和の大切さについて感じたことや考えたこと、また、誰もが一人の人間として大切にされる学校や社会を作っていくこと、さらには国内外の人々と支えあい、つながりを広げ深めながら、平和な社会の実現を目指し共に生きていくことなどについて考え、生徒自らが自分の思いや願いをまとめた内容とする。

条件

- ・被爆の実相等に関する内容を述べたもの
- ・平和への願いや希望が述べられたもの
- ・平和の実現を世界の人々に広く呼びかけようとするもの

〈生徒の反応〉

- ・ベトナム戦争についてほとんど知らなかったが、広島と同じように多くの罪のない人が殺されているのを知り、戦争は絶対にしてはいけないものだと改めて感じた。
- ・戦争が終わっても、枯葉剤の影響で今なお苦しんで生活している人がたくさんいることを知った。
- ・戦争はいいことがひとつもない。憎い。この世の中からなくなってほしい。
- ・A Child's Wish という平和を願う英詩に感動した。

〈所感〉

被爆体験者が高齢になり、自分たちが戦争の悲惨さを伝えていかなければ、戦争の歴史が風化され、また繰り返されてしまう。そうならないように平和への思いを世界へ届けたいという気持ちが生徒たちの中に少しずつでてきた。

世界情勢は平和にはほど遠く、日本でも憲法9条や自衛隊海外派遣などのニュースが話題になっており、むしろますます遠ざかりつつあるようにも感じられる昨今である。本当に真剣に一人ひとりが自分のこととして考え、心の中に「平和の砦」を築く。そんな奥深い、息の長い活動をしていかなくては、本当にこの世の中は無法地帯になってしまいそうな気がする。ゴールにはほど遠いと感じられ、あきらめたくなることもあるが、そんなひるむ気持ちを支えてくれるのが子供たちの力である。教員は生徒の心に希望の灯をともし、そんな素敵な仕事なのだと改めて実感した。苦しい今こそ、生徒と手を取り合いながら、一緒に考え行動していきたい。中学時代に英語の授業などを通して、少しでも具体的な平和活動に関わることができた生徒たちが、今後、平和への関心を持ってくれたらとてもうれしく思う。

全体を通しての成果と課題

平和への思いを世界へ届けたいという気持ちが生徒たちの中に少しずつ芽生え、英語で伝えようと前向きに努力できたことが成果である。授業で学習したことや考えたことを単なる知識だけで終わらせずに、「今自分たちにできることは何か」という視点で、さらに自主的に生徒たちが行動していける機会を作っていたらと思う。

一般に行われている英語による国際理解だけでなく、英語圏でない国を知るための授業も大切な国際教育であると実践を通して感じた。これまでは英語の文法指導ばかりでこういった授業を仕組んだことはなかったので、今後は自分自身がさらに研究を進め国際理解教育に取り組んでいきたいと思う。

生徒の作品（平和メッセージ）

About seventy years ago , only one bomb took more than one hundred thousand precious lives in Hiroshima. It took happy smiles from our children , beautiful scenery of our city and it took a lot of things from us.

But I think our hope for peace was stronger than that bomb. I think that peace is the most important thing of all. So , we should keep telling it to other people. I think it is our role. Let' s hope for the world peace together.

参考資料

【書籍】

- 「子どもたちのアフリカ」 石弘之 （岩波書店）
- 英語の授業づくりアイデアブック「国際理解 平和と非暴力の文化をつくる」（三友社出版株式会社）

【資料】

- 日本も受けていた国際援助
- 国際協力に取り組む人々

【映像資料】

- チョコレート工場の秘密 （8 分 18 秒）
- We Are The World
- ODA って何だろう～政府開発援助の現場から （23 分）

【インターネット】

- 「ベトナム国事情」
- 日本国際飢餓対策機構 HP
- Global Express SAMPLE Vol.14 「東日本大震災 世界からの援助」（開発教育協会）

ベトナム・カイゼン・プロジェクト

広島県立府中高等学校 担当教科：国語 笹田 麻実

実践教科：現代文、総合的な学習の時間 対象学年：高校3年生 対象人数：現代文（39名）総合的な学習の時間（238名）

■実践の目的

- ・ベトナムの人々の生活を知り、自分たちの生活と比較することを通して、外国特にアジア圏への興味・関心を深める。
- ・ベトナムの課題を解決するためのプロジェクトの作成を疑似体験すること等を通して、持続可能な社会をつくっていくための能力や態度（「多面的に見る」「批判的に見る」「物事の背景を考える」「他者と協力する」）を身につける。
- ・ベトナムや世界で行われている実際の国際協力について情報を得ることを通して、知見を広める。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	テクノロジーとのつきあい方を枯葉剤から考える 【3年6組：現代文】 ・枯葉剤の被害について知り、既習教材を現実と結びつけて考える	(1)枯葉剤の被害者の写真を見て、知っていること、気づいたことを挙げる (1)(2)『母は枯葉剤を浴びた』より抜粋した文章及び新聞記事を読んで、はじめて知ったこと、考えたことをまとめる (2)(3)テクノロジーとのつきあい方について自分の考えをまとめる	・評論文「テクノロジーとのつきあい方」 ・『母は枯葉剤を浴びた』より抜粋した文章と写真 ・ベトナムの環境汚染に関する新聞記事 ・ワークシート
2	ベトナム・カイゼン・プロジェクト（導入） 【3年6組：現代文】 ・ベトナムについて興味・関心を深める	(1)ベトナムクイズを行いベトナムの概要について知る (1)(2)3つのプロジェクト（小学校での平和学習・環境ビジネス・人身取引ホットライン）の概要を把握し、グループごとに進めたいプロジェクトを選ぶ	・クイズの景品（お土産） ・ベトナム・カイゼン・プロジェクト手順書 ・パワーポイント
3	フォトストーリー：ベトナム編 【3年生：総合的な学習の時間】 ・情報を吟味し、物事の背景を考える力を養う	(1)授業の目標を確認する (1)(2)16枚の写真から4枚を選び、ベトナムはどのような国か、グループごとに選んだ写真をもとにしたストーリーを作り、発表しあう (3)写真の状況や背景を知り、自分のそれまでのものの見方や考え方を振り返る	・ベトナムの写真（14枚） ・カンボジアの写真（2枚） ・ワークシート ・ベトナム人日本語学習者へのインタビュー動画 ・パワーポイント
4 5 6	ベトナム・カイゼン・プロジェクト（準備） 【3年6組：現代文】 ・情報に基づいて適切な目標を設定する ・問題解決のためのアイデアを出してそれを形にする	(1)問題について情報収集を行い、それに基づいて適切な目標を設定する (1)(2)目標を達成するための活動計画を立てる (2)(3)ポスターを作成する (3)(4)発表練習を行う	・ベトナムで購入した書籍や教科書 ・なりきり青年海外協力隊のポスター見本
7	ベトナム・カイゼン・プロジェクト（本番） 【3年生：総合的な学習の時間】 ・積極的にベトナムの課題に向き合い改善策を考える ・ベトナムにおけるJICAの活動を知る	(1)3年6組生徒によるポスターセッション (2)発表を聞いた1～5組の生徒からのコメント (3)ベトナムでの実際の活動（環境ビジネス・人身取引ホットライン）について知る	・3年6組生徒作成のポスター ・ワークシート ・パワーポイント

8	ルワンダ原爆展～ヒロシマから平和を伝える～ 【3年生:総合的な学習の時間】 ・自分たちの受けてきた「平和学習」について振り返る ・世界における JICA の活動を知る	(1)ルワンダ原爆展について JICA 職員の方の講演を聞く	・ワークシート ・パワーポイント
---	--	--------------------------------	---------------------

■この授業に注目！

2 時間目 ベトナム・カイゼン・プロジェクト（導入）

ねらい：ベトナムについて興味・関心を深める

2 時間目は 3 年 6 組の生徒を対象にグループ対抗のクイズ大会を行った。3 年 6 組は 7 時間目でポスターセッションの発表者となるクラスである。クイズ作成の際は、次の 3 点を意識した。

- ① 生徒たちが既習と思われる内容を含むもの
- ② 生徒たちの日常生活と関わりがあるもの
- ③ 今後の「ベトナム・カイゼン・プロジェクト」を進めていくにあたって必要と考えられる知識を問うもの

特に ③ 今後の「ベトナム・カイゼン・プロジェクト」を進めていくにあたって必要と考えられる知識を問うものは念頭に置きながら、次の 10 問を作成し、出題した。

まずは、ベトナムを知るクイズ！

Q1
ベトナムの国旗はどれでしょう。

①  ②  ③ 

ベトナムクイズ！

Q2
ベトナムの政治の体制は次のうちどれでしょう。

① 共和制
② 立憲君主制
③ 社会主義共和制

(正式名称) ベトナム社会主義共和国



「ベトナム共産党」による一党独裁制度です。

ベトナムクイズ！

Q3
ベトナムは 1899 年から 1945 年まである国の植民地でした。
「ある国」の国名を答えてください。

A フランス

インドシナ半島がフランスの植民地となり、「フランス領インドシナ」と呼ばれていました。

ベトナムクイズ！

首都 ハノイ

Q 面積 346,410km² (日本よりやや小さい)
Q 人口 9,170 万人 (12 位)
Q 公用語 ベトナム語
Q 宗教 仏教
Q GDP 1,227 億ドル (2011 年)
+ 広島県とほぼ同じ経済規模
Q 気候 北部 温帯 / 南部 熱帯
Q 輸出品 原油、衣料品、農水産物 (コメ、コーヒー)

ベトナムクイズ！

Q4
この食べ物の名前は
何でしょう。

A フォー



日本のうどんも流行ってます。



ベトナムクイズ！

Q5
「スパイシーポークうどん」59,000 ドン
日本円だといくらでしょう。



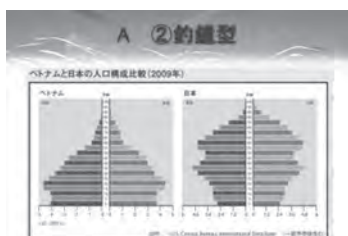
1 ドン
= 0.00508 円
59,000 ドン
= 300 円
(2014 年 9 月 13 日現在)



ベトナムクイズ！

□ Q6
ベトナムの人口構成は次のうちどれでしょう。

①富士山型 ②釣鐘型 ③壺型

ちなみに・・・
ベトナムの平均年齢
なんと28歳！
しかし
「高齢化社会」



ベトナムクイズ！

□ Q7
日本の小学生の一日を聞いて、ベトナムの小学生が一番驚いたことはどれでしょう。

①一日中学校がある
②お昼寝がない
③掃除をする




ベトナムクイズ！

□ Q8
日本の教師の一日(仕事)を聞いて、ベトナムの先生が驚いたことはどれでしょう。

①アルバイトをしない
②管理職による評価がある
③お昼寝をしない



ベトナムクイズ！

□ Q9
ベトナムの小学生に質問しました。
「あなたの大切なものは何ですか。」
20人中15人が同じ回答でした。
その答えとは何でしょう。



「家族です。」



ベトナムクイズ！

□ Q10
日本がベトナムに行っているODA(政府開発援助)のうち、1992年から2012年までの「円借款」の承諾累計総額はいくらかでしょう。

A 2.01兆円

(JICAが支援している国の中では年間1位の金額)

解説を付け加えながら正解を発表していった。総合得点の高かったグループから順にお土産を選ばせ、落ち着いたところで本題の説明に移った。

本題です。

「ベトナム・カイゼン・プロジェクト」に挑戦！

ベトナムの人が困っていること、もっとよくしたいと思っていることを解決するためには何をすればよいのか・・・グループごとに目標達成に向けた活動計画を立ててもらいます。

考えたことをポスターにまとめて、他のクラスの人に発表しましょう！

ベトナム・カイゼン・プロジェクト

□ 1 小学校で平和学習の授業を実践せよ！
□ 2 新しい環境ビジネスを立ち上げよ！
□ 3 人身取引ホットラインを広めよ！

各グループにベトナム・カイゼン・プロジェクト手順書を配布し、グループごとに取り組むプロジェクトを決めさせた。この手順書の内容は実際にベトナムで見聞したことを元に授業者が作成した。結果、「小学校での平和教育」3グループ、「環境ビジネス」4グループ、「人身取引ホットライン」2グループとバランスよく分かれた。

〈生徒の反応〉

- ・最初は高校3年生にクイズ？という雰囲気もあったが、グループ対抗にすることで盛り上がった。
- ・Q2やQ3は授業で聞いたことはあるはずだけれど思い出せない、というもどかしさが伝わってきた。
- ・Q4で出題した「フォー」は多くの生徒が知っていた。ベトナムの食文化に関しては高校生にもある程度浸透している模様。
- ・「丸亀製麺」の写真と店内の様子の話には大変驚いていた。
- ・Q7で出題したベトナムの小学生の昼寝は信じがたいようだった。いったい教室でどうやって昼寝をするのか生徒同士で話していた。

〈所 感〉

過去の教師海外研修の参加者から導入はその国に関するクイズがよい、ということをお聞きしていた。最初は高校3年生にクイズは・・・とためらっていたが、実際にやってみると思いのほか盛り上がり、楽しく知識を共有することができた。歴史や政治経済に関する問題は高校生相手だからこそ出題できる問題であり、既習の知識を使う楽しさ（思い出せなくて悔しいことも含めて）も味わえたと思う。

現地の小学生の様子や飲食店の様子など生活に身近なところも解説に取り入れた。多くの生徒にとって心理的に遠い国だったベトナムを、少しでも身近に感じるきっかけとできたのではないかと感じている。

3 時間目 フォトストーリー：ベトナム編

ねらい：情報を吟味し、物事の背景を考える力を養う

3年生全体を対象とするワークショップ型の授業実践となった。メインの活動となるフォトストーリーは、フォトランゲージにヒントを得て構想した。

最初に授業の目標を確認した。

今日の授業で意識してほしいこと

- 1 多面的に見る
- 2 批判的に見る
- 3 物事の背景を考える
- 4 他者と協力する

この目標を実感するためのアイスブレイキングを2つ行った。まずは「1 多面的に見る」ことを実感するために、JICA 中国での事後研修で教えていただいたアイスブレイキングを行った。手順は次のとおりである。

- ① 右手の人差し指を立てて目線より上にあげる。
- ② 自分の指先を見上げながら時計回りに指先を回す。
- ③ 指先を回しながら腕ごと下へとおろしていく。
- ④ 自分の指先を見下ろす。

何が起ころうかは実際に試してみしてほしい。気づいた生徒たちからは驚きの声があがった。同じ現象でもどの面から見るかによって受け止め方が変わってくることを実感させ、多面的にものを見ることの面白さと大切さを確認した。

次に「3 物事の背景を考える」ことを実感するために、次の写真を見せ、これは何かを質問した。

物事の背景を考える



生徒にマイクをむけたところ、戸惑いながらも「トイレ」という答えが返ってきた。「正解。しかも、私が写真を撮れる場所だから女子トイレです。」と答えると、一斉に「えーっ!」という反応が返ってきた。そこで、ベトナムの下水道事情を説明し、なぜトイレットペーパーを流さ

ないトイレがあるかという背景を説明した。

その後、簡単にベトナムの概要を説明した後、4人グループをその場で作らせた。各自にワークシートを配布し、各グループに16枚の写真をプリントアウトしたものを配布した。そして、スライドで次の指示を出した。

ワークショップ「フォトストーリー：ベトナム編」

【進め方】

- ・グループで16枚の写真の中から4枚を選んでください。
- ・4枚の写真を使って「ベトナムってこんな国」というお話を考えてください。
- ・写真をよく観察して背景を読み取り、説明に加えてください。推測が入っても構いません。

写真は以下の16枚である。この時点では写真のみを提示した。特に解説も付け加えずに、各グループの活動に入った。

① 屋台はいつも大盛況



② 夜の路上は・・・



③ フランスパン



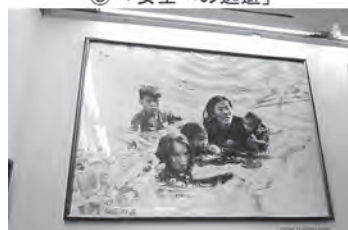
④ フェイスブック中毒



⑤ 民族衣装 アオザイ



⑥ 「安全への逃避」



⑦ ホー・チ・ミン



⑧ トヨタ・・・?



⑨ ノイバイ国際空港第二ターミナル



⑩ 大人気イオンモール



⑪ 日本食ブーム



⑫ 川沿いのスラム街



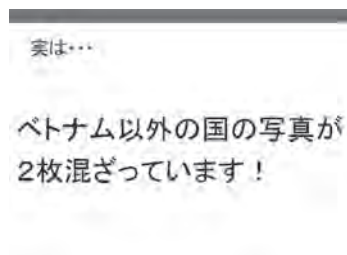


生徒の発表では次のようなストーリーが披露された。

(⑬・⑩・⑪・⑨)「休みの日はバイクに乗ってお出かけをして、今話題のイオンモールでおいしいと評判の日本食『寿司』を買う。町中で建設ラッシュ。」

(③・⑧・⑨・②)「かつてフランスに植民地支配されていたベトナムは、フランスパンからわかるようにその影響で今も残っている。現在ではトヨタなどの日本の車も多く走っており、開発も進んでいるが、その反面環境問題も深刻化している。」

一通り生徒の発表を聞いたところで、種明かしに入る。



実は、⑧と⑮の2枚は以前カンボジアで撮ったものである。写真を提示する前に共有していた情報をもとにして、よく写真を観察すればベトナムの写真ではないことを見抜けるようなものを選んでいく。

写真	事前に提示した情報	注目する部分
⑧	ベトナムではベトナム語が話されており、ローマ字表記	車のナンバープレートがローマ字表記ではない(クメール文字)
⑮	ベトナム国旗	左端にカンボジア国旗がはためいている

気づかずにカンボジアの写真を選んでいくグループも多くあり、「だまされた」という実感を持たせたところで、情報があふれる現代であるからこそ、本時の目標である「2 批判的に見る」ことの大切さに触れた。

その後、それぞれの写真の背景を説明し、最後に⑯の写真に関連して、日本語を学習しており、将来日本企業で働くことを希望する青年のインタビュー動画を流した。

青年のインタビューの内容を受け、これからの日本は今以上にグローバル化が進み、多くの外国人が住むようになり、日本から海外で働きに行く人も増えることを伝えた。グローバル社会で生きていくにはグローバル人材になる必要があり、グローバル人材とは、本時の目標である4つの能力や態度を身につけた人物ではないか、と問題提起をした。最後に本時の振り返りを行い、次回予告をして3年6組の生徒にプレッシャーを与えたところで授業を終えた。

〈生徒の反応〉

- グループでの相談では、頭を突き合わせて一枚一枚の写真について細部まで注目して意見を出し合っていた。⑨からはJAPANの文字に気づき日本企業の支援があるのではないかと、という読み取りをしたグループも多かった。
- 一つ一つの写真について観察して推測をすることはできても、4つの写真をつなげて一つのストーリーを作るのには戸惑いが見えた。時間内に完成しなかったグループもある。

〈所 感〉

授業後、生徒たちが「今日は頭が疲れた～」と言いながら教室へ帰っていった。生徒たちのやや疲れた表情を見ることができ、充実感があつた。与えられた情報を細かく観察し、状況や背景を想像し、自分の持っている知識と結びつけ、複数の情報を組み合わせていく、という日頃は行わない知的な活動を提供できたと思った。

改善点としては、話題の詰め込みすぎになった点である。日本語学習者のインタビューを独立させ、グローバル人材について考えることで1時間使った方が、全体がすっきりしたのではないかと。そうすれば、生徒がグローバル人材について考える時間もとることができた。

7時間目 ベトナム・カイゼン・プロジェクト（本番）

ねらい：積極的にベトナムの課題に向き合い改善策を考える、ベトナムにおけるJICAの活動を知る

4～6時間目に3年6組の生徒が作成したポスターをもとに、3年生全体でポスターセッションを行った。

3つのプロジェクトの概要をスライドと手順書を用いて全体で共有した後、ワークシートを各自に配布し、ポスターセッションの本番へと移った。

発表は全部で3回行った。発表は1回あたり説明5分と質疑応答3分の計8分、1回終わるごとに参加者は自由に移動する。最後に参加者は自分が聞いた3つの発表のうち最も実現可能性が高く、状況を改善することができると思ったグループに投票する。



写真1 ポスターセッションの様子①



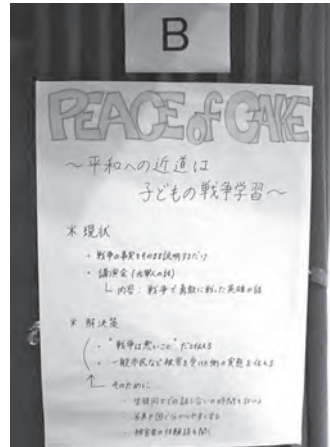
写真2 ポスターセッションの様子②

最初は発表が1分程度で終わってしまったり、質問ができなかったりして戸惑う様子も見られたが、次第に意見や質問が出るようになっていった。同級生や教員からの鋭い質問に対して返す言葉がない様子も見えた。

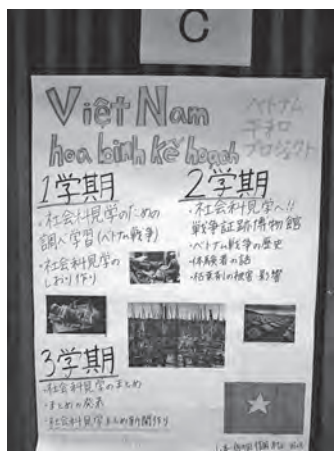
各グループのポスターと参加者からのコメントは以下のとおりである。



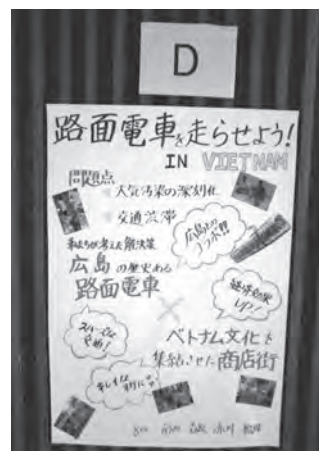
- ・段階を踏んで子供たちに興味を持ってもらえるようにしているからよいと思った。
- ・子供と仲良くなりクイズでつながる小学生向き！
- ・日本とベトナムは国の考え方が違うので、正解というものはないとも思う。



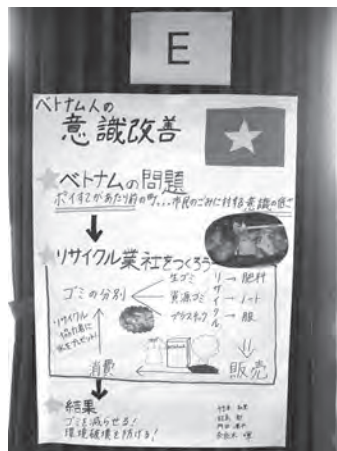
- ・日本のお話をどのタイミングで入れていくのかなあと思いましたが、自分たちに置き換えられる工夫を入れるのはよいと思いました。
- ・終戦の6月に向けて行事を組むのはよい。
- ・広島での平和学習みたいで、真剣に平和について考えることができると思う。



- ・自分たちだけではなくイオンモールで発表してベトナム全体に広げようとするのがいいと思う。
- ・学期ごとにやることを分けているのが分かりやすかったし、自分の経験を踏まえて考えているのがよかった。どこに見学するのがもう少し具体的でも良かったと思う。
- ・日本の考えを押し付けてはいけない。



- ・路面電車や商店街ができるまでの交通渋滞や大気汚染の改善策は？
- ・広島のある路面電車とベトナムの商店街を混ざっていいと思った。町も活性化できてゴミも減らせるので、一石二鳥だと思った。でも、費用の問題もあるなと思った。
- ・路面電車はそんなに簡単にできるのか？



- 分別をベトナム人はしなさそう。
- まずはきっかけからということと、販売のシステム自体はよいと思った。でも、意識改善の問題には十分に触れていない。
- リサイクル場を作るのにはお金がかかる。



- T満屋などのデパートは都市の人は利用できるが、田舎の人は利用できず、また格差が広がるのではないか。
- ポイント制だとどんどん会員が増えて会社にも会員の方たちにも利益がある。
- エコステーションの建設は、よく考えたなあと思った。環境問題を改善しながらきれいな水がもらえるという利益が得られてすごい。



- 環境を改善しながら企業や人々の双方の利益を生み出しているのがすごい。実用化されたらとても効率的なので成功すると思う。
- ごみを燃料にして双方に利益があって環境ビジネスの考え方もよくわかった。発表の仕方もうまかった。企業の利益はあまりないと思った。
- ベトナムのごみ問題について説明してくれたのが分かりやすかった。仮想の株式会社を作って、具体的にゴミをどうなくしていくかが詳しくて、あとちゃんとビジネスになっているのがよかった。



- トrendのものを使うのがいいと思った。FBは拡散力が高いので適していると思う。
- ツイッターとか今の私たちでも簡単に始めることができる参加の仕方が示されていてよいと思いました。
- 子供や老人などのFBを使えない人は？
- FBいい案！フェアトレード弊害がある。その前の世界の売り上げが必要。ちょっと理想的過ぎると思う。フェアトレードは反対ですが、FBは非常にいいね！



- ・アイドルを使うことはいい点だと思う。
- ・解決策をもうちょっとしっかりしたものにしてほしい。電話、TV等インフラ整備がまだ十分に整っていないのに広めることができるのか。都市部だけになるのではないか。
- ・貧しい階層にネットができる環境があるのか。

3回の発表すべてが終わったところで、参加者からのコメントの時間を取った。ただコメントをするだけではなく、事前に3枚のカード（「あまあまコメント」(とにかく大絶賛)・「ピリ辛コメント」(批判的な視点)・「ふつうのコメント」(いつも通り))から1枚を見えないようにして引かせ、自分の引いたカードの指示にあったコメントをするように求めた。

そして、実際にベトナムで行われている環境ビジネスと人身取引ホットラインの様子について説明をした。



ホーチミンのビンフン下水処理場では、大阪市水道局のFさんをはじめ、下水処理技術を持った日本人が技術支援等を行っている。今後、環境分野の技術は、支援という形ではなくビジネスとして扱われるようになっていくということをお聞きした。下水処理の状況がよくないベトナムにあっては、設備を整えていくとともに、人々の下水処理に関する意識も高めていく必要がある。ホーチミンの町中を歩いているとき、屋台のおばさんが残飯をそのまま排水溝に流している様子を何度か目撃したことも生徒に伝え、ビンフン下水処理場が企画している大人の社会見学の意義を確認した。



人身取引ホットラインでは電話相談を広めるために、農村部では電話番号の書かれたカレンダーを作って配布している。デザインの良いものはその年が終わっても貼っておいてもらえることが多いとのことだ。農村部では生徒たちが想像していたようなネット環境は整備されておらず、定期市で歌や寸劇等を通して人身取引の危険性や人身取引ホットラインの存在を伝えている。ま

た、少数民族への意識調査や、地元警察との連携にも力を入れていることも付け加えた。

最後に次回予告として、世界で実際に平和を伝える活動をされている JICA 職員の方の講演を聞くことを告げて、授業を終えた。

(なお、最も多くの票を集めたプロジェクトは C グループの「ベトナム平和プロジェクト」であった。)

〈生徒の反応〉

～発表を行った 3 年 6 組の生徒の振り返りから抜粋～

【小学校での平和学習グループ】

- ・テーマを日本との比較を重点に置くべきだったと思う。ベトナムの人間が自国のことについて一般教養として知らないわけがないと思うし、ベトナム人の考え方があり、状況、立場、教育理念、すべて違うのに、それを知ることもしゃあ何かを施そうとするのは危ういと思う。日本との考えから比較していき、理解するべきだと思った。ベトナムのことについての意識は深まった。
- ・ベトナムは日本の制度や習慣、文化と違って、日本とまったく同じ制度を取り入れることは難しいんだと気づいた。また、小学生に教えるということでどんな感じにすれば子供が退屈せずより深く平和について考えてもらえるかという計画を立てるのに苦労した。すべての発表を聞いて、他のプロジェクトについてや、他の組の人のコメントにあった課題についてもっと深く考えたり、計画を立て直したりできたらいいなと思った。
- ・今回の学習をしなければ、ベトナムのことをこんなに深く考えることはなかったと思う。自分たちの国と違うからといって、日本の思想を押し付けるだけでは平和につながらないんだなと思った。国ごとに違う思想を持っているので、教えることは大変だとわかった。本当の平和学習とはどのようなものかわからなくなった。

【環境ビジネスグループ】

- ・日本とベトナムでは生活習慣も考え方も違っているということを前提にして考えていくのはやっぱり少し難しい部分があった。でもみんなでいろいろ考えていくことで、一人では考えつかなかったアイデアが浮かんできたりして、みんなで協力して考えていくことは大切だと改めて思った。コメントの「日本の考えを押し付けてはいけない」というのは大切だと分かっているけど、難しいことだなあと思った。
- ・エコステーションやリユースボトルの案はなかなか良いと思ったが、他の面から見たときに、じゃあそのボトルを作ることによって環境破壊が進まないのか、水はどこから持ってくるのか、そういったデメリット面について考えていなかったように思う。もっと多面的にメリットやデメリットについて考え、かつ援助する国の文化や国民のことを考え、何をするのが役に立つのか、どうすれば winwin の関係になれるのか、第三者の眼になって考えたい。

【人身取引ホットライングループ】

- ・ベトナムについて調べて、人身取引について考えたことがなかったけど、調べてみて、ホットラインというものがあると分かったし、人身取引の怖さや危険さも知ることができた。ホットラインについての質問で、答えるのに難しかったこともあったけど、協力して終えることができた。人身取引が起こる背景やホットラインを使えない人についてなど、もっと調べてみたいと思った。
- ・ベトナムの現状とその背景について調べてみて、まったく知らなかったことが分かった。私は一番の原因は、ベトナムの中での格差だと思う。私たちの班は人身取引ホットラインを広めるために現在ベトナムで流行しているフェイスブックを利用するという考えに至った。フェイスブックをするための端末を持っていない人もいるし、使いこなせない人もいる。格差をなくすことも力を入れていく必要があると思った。

〈所 感〉

生徒たちがここまで考えることができるとは想定していなかった。地元企業での取り組みを詳しく調べて自分たちなりに発展させ、ベトナムの現状を踏まえて形にしたプロジェクト、3 時間目のフォトストーリーで学んだことを活かしたプロジェクトなど、生徒たちの情報を理解し活用させていく力が発揮されていたように思う。参加者の質問も多くが鋭く本質を突いたものであり、

プロジェクトをよりよいものにしようとする意識がうかがえた。

改善点として、準備の段階で人身取引そのものについて理解が浅いままポスター制作へ入ってしまった点が挙げられる。平和学習や環境問題については小・中・高を通して幾度も触れてきたテーマであるが、人身取引については今回初めて知ったという生徒も少なくなかった。イメージのわからないまま活動に入ったため、議論が深まらなかったようにも見えた。生徒の既に持っている知識や興味関心のあることを十分把握した上で、事前の情報共有を丁寧にするべきだった。

全体を通しての成果と課題

【成果】

・「日本の考えを押し付けてはいけない」ことへの気づき

ポスターセッションの際、参加者の生徒から出た意見である。発表者の生徒たちにとって、強く印象に残る言葉となったようだ。この生徒たちの気づきが大きな成果だと考えている。生徒たちは、自分たちが受けてきた教育、地域の環境、政治や経済の状況、それらによって育まれた感性や常識は、決して普遍的なものではない、ということを一連の活動を通して学んだのではないか。振り返りを読む限りでは、そのように読み取れた。

・12年間の知識と経験を使う

また、ワークショップや活動の中で、生徒たちは自然と今までの12年間の学校生活を通して蓄積してきたこと、身につけた知識や経験を使って考えていた。これまでに学んできた様々なことが、新たな問題を解決していく際に物事を考える基本となっていた。知識と経験を組み合わせ、課題を分析し解決策を生み出そうとする道のりは総合的な学習の時間にふさわしい学習になったと感じている。

【課題】

・各教科との接点をいかにつくるか

1時間目に現代文の授業で枯葉剤について言及されている評論文の学習の後に、ベトナムの枯葉剤に関する文章を読む授業を行ったが、あまりうまくいかなかった。1時間目の時点では、生徒たちには8時間の授業全体の構成は伝えていなかったため、学習の目標や意味を見いだせなかったことも原因の一つだと考えている。

また、今回の場合は、社会科との連携ができれば、より深い知識を持ったうえで活動に取り組めたことも悔やまれる。ただ、中高の場合は教科担任制なので、教科間での連携が難しい。学校全体とまではいなくても、複数教科の担当者が一緒に授業を作ることができれば、よりよいものができるのではないかなと思う。

・生徒の作り上げたプロジェクトをどのように発展させるか

生徒の意見に、ポスターセッションの際参加者から出た意見をもとに、もう一度プロジェクトを練り直したかった、というものがあつた。作ったら作りっぱなしではなく、修正を重ねてプロジェクトの改訂版を作ることで、より深い学びになったのではないかと考える。また、困難なことだとは思いますが、何らかの形でプロジェクトを実際に実行するところまでできたら、実際の反応もあり、自分たちの活動に意味を感じることができただろう。

【最後に】

「なぜ学ぶのか」という問いについてじっくり考える暇もないほど高校生は忙しい。これから大学生になる高校3年生に向けて私なりの答えを用意したかった。学んだ一つ一つのことは、自分を知ること、相手を知ることにつながっていく。そして、新しい問題に立ち向かう際の自身の基盤となる。ますますグローバル化が進んでいく社会で自分らしく生きるためにも、学び続けてほしい。

参考資料

【書籍】

- 「高等学校 改訂版 現代文」第一学習社
- 中村梧郎（2005）「新版 母は枯葉剤を浴びた」岩波現代文庫
- 文部科学省（平成 20 年）「国際理解教育実践事例集 中学校・高等学校編」教育出版

【インターネット】

- 「JICA 国際協力機構」 <http://www.jica.go.jp/>
- 「外務省 ベトナム社会主義共和国」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/>

※ JICA 中国主催の「高校生国際協力プログラム」で行われた「なりきり青年協力隊」の資料を JICA 中国から提供いただき、それも参考とした。



よりよい明日を、世界の人々と。

独立行政法人 国際協力機構 中国国際センター（JICA 中国）

〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内

TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082 <http://www.jica.go.jp/chugoku/>



<http://www.jica.go.jp/chugoku/>